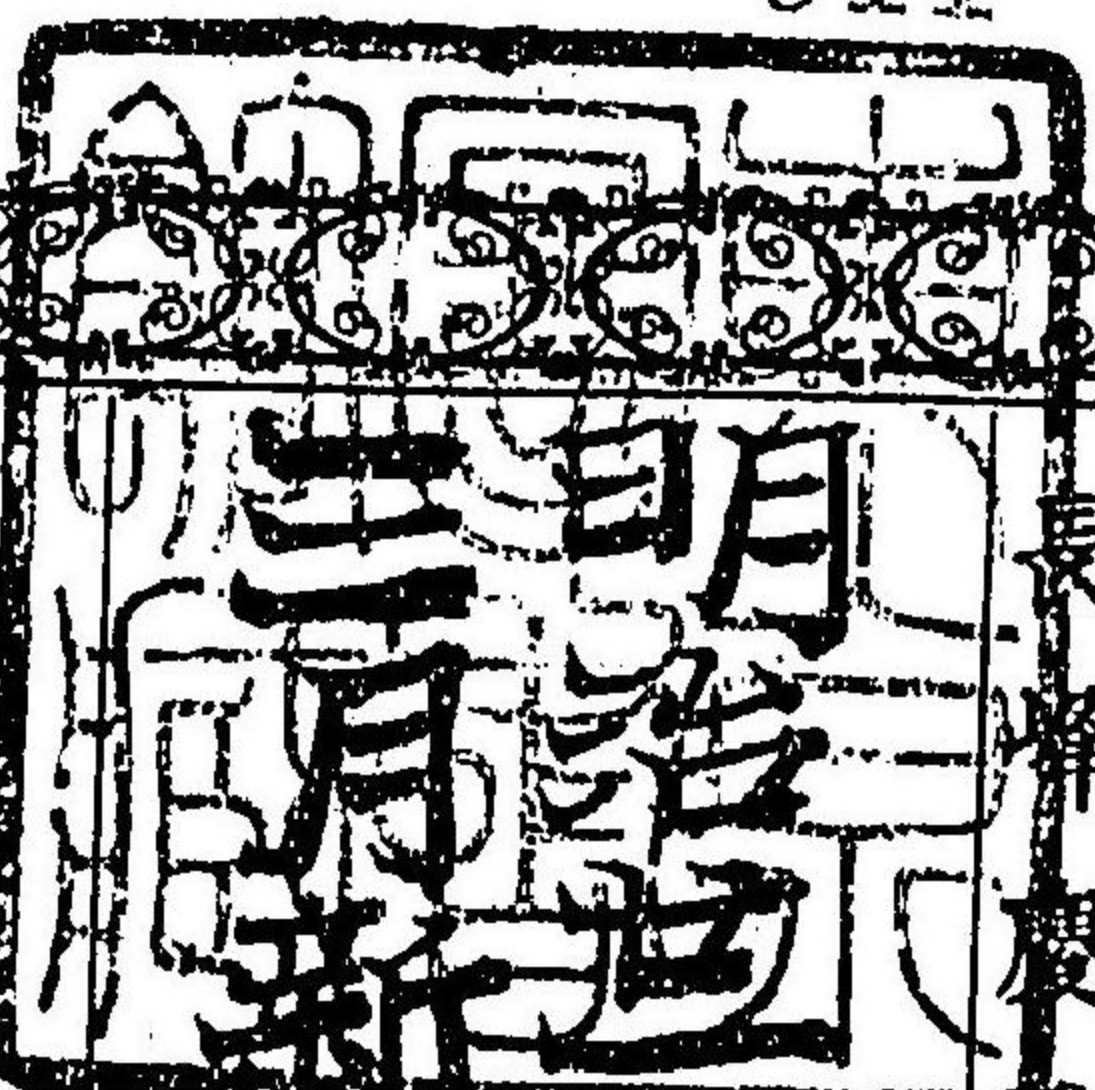


特 14

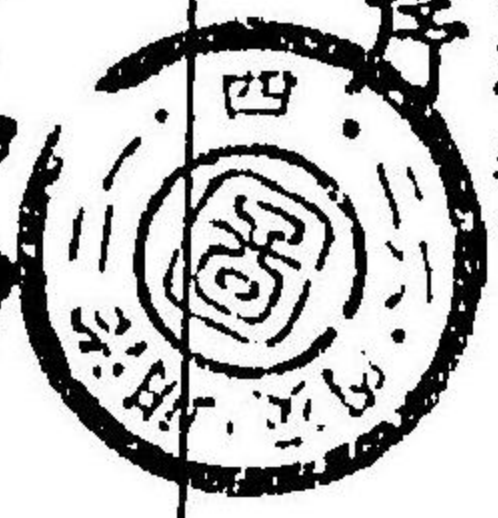
911

No 9795



明治三十四年
官民必推乃

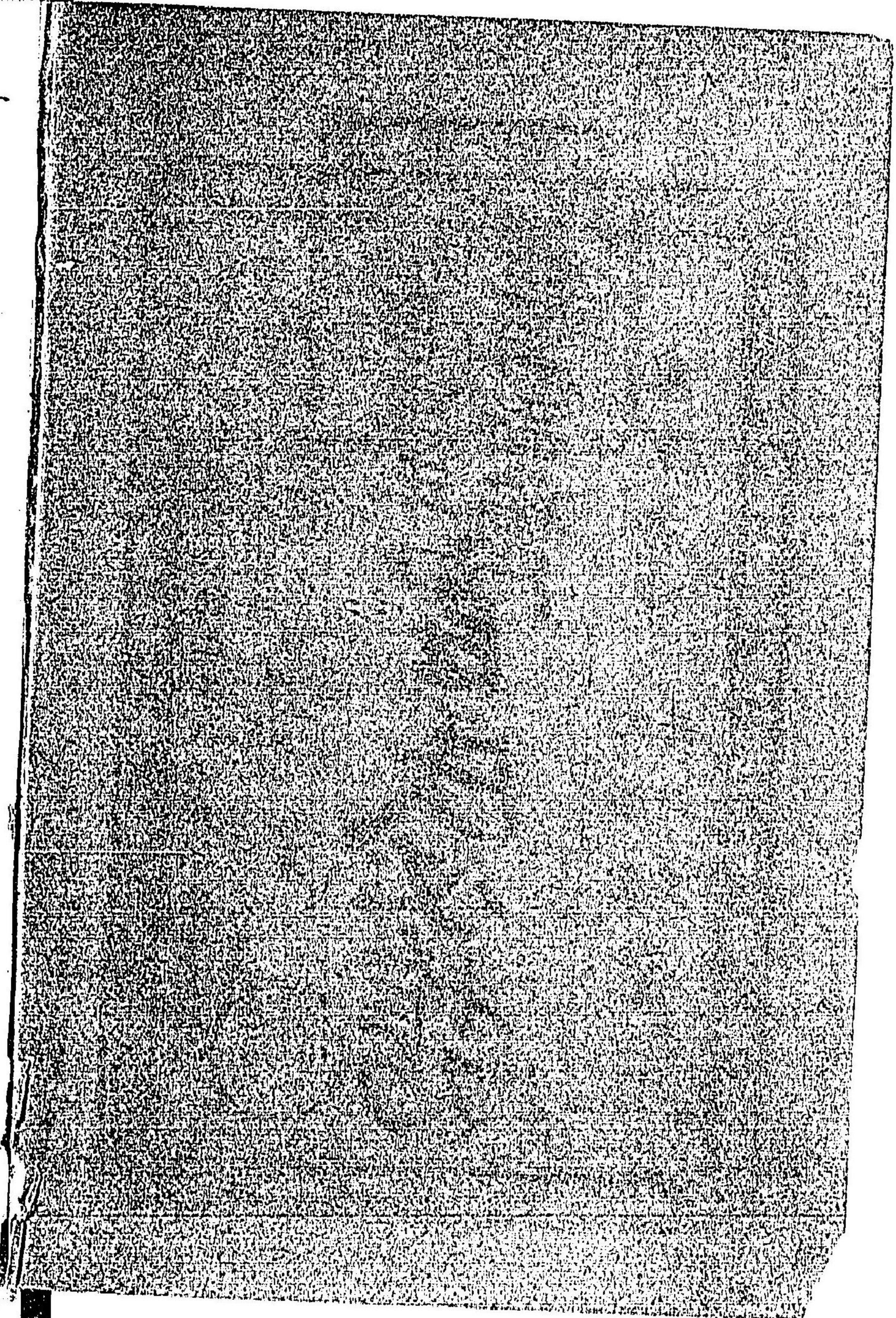
元老院議官從三位勲二等神田孝平先生題辭
專門學校講士法學士 三宅恒徳先生序
長峰慶三郎 吉田正列 編纂



東京書肆

井文海堂

發行



12
5
099

東京書報 天保...

此係...

身學...



彼
此
相

榮

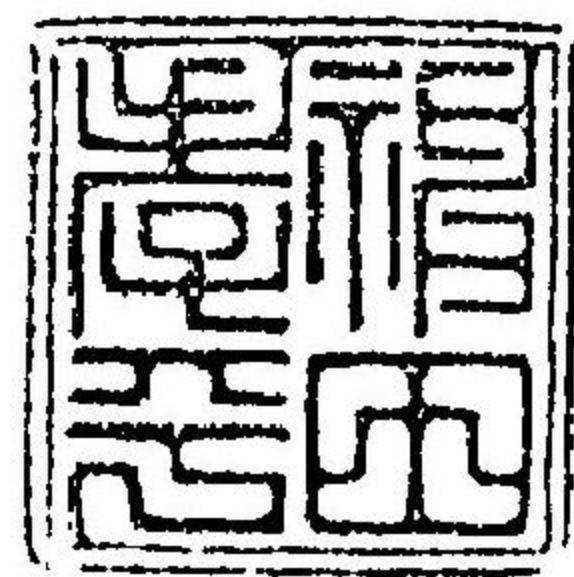
左

右

逢

源

逢源



新

序

新

序

官民必携序

英人畧印度封其君為帝因利乘
便分裂山河移風易俗化育兆民
而其制度文物一取之於本國以
為俾夷為華矣豈圖燦然典章雖
美則美矣精則精矣然其於土民

也。姦偽萌起，上下相遁，唯望英雄勃興，濟世救民，破觚而爲圜，斲雕而爲朴。若是者，何也？法令不適，習俗而已矣。筏饒氏曰：英人資性重慣，習其久行於草莽商賈之間者，始取而立法焉。以故法令莫不行。

矣。莫行而不利矣。宜哉！其不行於印度也。我朝維新以來，百度遽革。法今日出，例規月積，然多是止所謂公法之類。至私法則主依慣習。無慣習者，則專採泰西諸國之法。判決不遺例，世之爭權利者，烏能

四
知其所歸哉蓋方今者慣習萌芽
之時也發生之時也非果熟之時
也而封建之制既去宗佛法者概
不識法理學英法者多偏應用唱
獨法者彼國未至看摸範也矣當
此時苟欲知慣習之方向者棄二

十年來之布告達伺指今復何處
適官民必携成矣石塚山中二氏
來而徵序曰法典之頒布應非遠
矣此書之用其短也哉余以爲不
然曩有刑法治罪法今年將見訴
訟法之出憲法商法民法可復刻

日而待也然法典能適民度乎見
解引舊例不能適乎早晚屬烏有
况於及其未頒布適否已有疑問
者昔佑西丁帝修羅馬會典後之
講羅馬法者猶考信於堦育然則
此種之書亦安知非法典出而後

其用益著者於是乎序

法學士三宅恒德撰

勅詔

○萬民安撫國威ヲ翹スベキ御宸翰明治元年三月日付
朕幼弱ヲ以テ粹ニ大統領ヲ紹キ爾來何ヲ以テ萬
國ニ對立シ列祖ニ事ヘ奉ランヤト朝夕恐懼ニ
堪サル也竊ニ考ルニ中葉 朝政衰テヨリ武家
權ヲ專ニシ表ハ
朝廷ヲ推尊シテ實ハ敬シテ是ヲ遠ケ億兆ノ父
母トシテ絶テ赤子ノ情ヲ知ルコト能ハザルヤ
ウ計リナシ遂ニ億兆ノ君タルモ唯名ノミニ成
リ果其力爲ニ今日

朝廷ノ尊重ハ古ヘニ倍セシカ如クニテ 朝威
ハ倍兼ヘ上下相離ル、コト宵壤ノ如シカ、ル
形勢ニテ何ヲ以テ天下ニ君臨センヤ今般 朝
政一新ノ時ニ膺リ天下億兆一人モ其所ヲ得サ
ル時ハ皆朕カ罪ナレハ今日ノ事朕自身骨ヲ勞
シ心志ヲ苦メ艱難ノ先ニ立古

列祖ノ盡サセ給ヒシ蹤ヲ履ミ治蹟ヲ勤メテコ
ソ始メテ天職ヲ奉シテ億兆ノ君タル所ニ背カ
サルヘシ往昔

列祖萬機ヲ親ラシ不臣ノモノアレハ自ラ將ト

シテコレヲ征シ玉ヒ

朝廷ノ政總テ簡易ニシテ如此尊重ナラサルユ
ヘ君臣相親シミテ上下相愛シ德澤天下ニ洽ク
國威ヲ海外ニ越キシナリ然ルニ近來宇内大ニ
開ケ各國四方ニ相雄飛スルノ時ニ當リ獨我國
ノミ世界ノ形勢ニウツトク舊習ヲ固守シ一新ノ
效ヲハカラス朕徒ラニ九重中ニ安居一日ノ安
キヲ偷メ百年ノ憂ヲ忘ル、トキハ遽ニ各國ノ
凌侮ヲ受ケ上ハ

列聖ヲ辱シメ奉リ下ハ億兆ヲ苦シメントテ恐

ル故ニ朕コ、ニ百官諸侯ト廣ク相告ヒ
列祖ノ御偉業ヲ經述シ一身ノ難難ヲ告ヲ問ス
親シ四方ヲ經營シ法億兆ヲ安撫シ遠ニ八萬里
ノ波濤ヲ拓開シ國威ヲ四方ニ宣布シ天下ヲ富
岳ノ安キニ置カンコトヲ欲ス汝億兆舊來ノ陋
習ニ慣レ尊重ノミヲ
朝廷ノ事トナシ神州ノ危急ヲシラス朕一タヒ
足ヲ舉レハ非常ニ驚キ種々ノ疑惑ヲ生ジ萬口
紛紜トメ朕カ志ヲナサ、ラシムル時ハ是朕ヲ
ノ君タル道ヲ失ハシムルノミナラズ徒テ

列祖ノ天下ヲ失ハシムル也汝億兆能々朕カ志
ヲ體認シ相率テ私見ヲ去リ公義ヲ採リ朕ガ業
ヲ助ケ神州ヲ保全シ 列聖ノ神靈ヲ慰シ奉ラ
シメハ生前ノ幸甚ナラン

○五箇條御誓約明治元年三月十日

- 一 廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決ス可シ
- 一 上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フ可シ
- 一 官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシムンヲ要ス
- 一 舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基ク可シ

一 智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起ス可シ
我國未曾有ノ變革ヲ爲ントシ朕躬ヲ以テ衆ニ
先ンシ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯國是ヲ定メ萬民
保全ノ道ヲ立ントス衆亦此旨趣ニ基テ協心努
力セヨ

○國會開設ノ勅諭(明治十四年十月十二日)

朕祖宗二千五百有餘年ノ鴻緒ヲ嗣キ中古紐ヲ
解クノ乾綱ヲ振張シ大政ノ統一ヲ總攬シ又夙
ニ立憲ノ政體ヲ建テ後世子孫繼グベキノ業ヲ
爲サンコトヲ期ス嚮ニ明治八年ニ元老院ヲ設
ケ十一年ニ府縣會ヲ開カシム此レ皆漸基ヲ創
メ序ニ循テ歩ヲ進ムルノ道ニ由ルニ非サルハ
莫シ爾有衆亦朕カ心ヲ諒トセン
顧ミルニ立國ノ體國各宜キヲ殊ニス非常ノ事
業實ニ輕舉ニ便ナラス我祖我宗照臨シテ上ニ

在リ遺烈ヲ揚ケ洪模ヲ弘メ古今ヲ變通シ断シ
テ之ヲ行フ貴朕カ躬ニ在リ將ニ明治二十三年
ヲ期シ議員ヲ召シ國會ヲ開キ以テ朕カ初志ヲ
成サントス今在廷臣僚ニ命シ假スニ時日ヲ以
テシ經畫ノ責ニ當ラシム其組織權限ニ至テハ
朕親ラ衷ヲ裁シ時ニ及テ公布スル所アラント
ス
朕惟フニ人心進ムニ偏シテ時會速ナルヲ競フ
浮言相動カシ竟ニ大計ヲ遺ル是レ宜シク今ニ
及テ謨訓ヲ明徴シ以テ朝野臣民ニ公示スヘシ

若シ仍ホ故サラニ躁急ヲ爭ヒ事變ヲ煽シ國安
ヲ害スル者アラハ處スルニ國典ヲ以テスヘシ
特ニ言明シ爾有衆ニ諭ス

○國會準備內閣組織改嚴ノ勅(明治二十八年十月二十三日)

朕惟フニ經國ノ要ハ官其制ヲ定メテ機關各其
所ヲ得ルニ在リ內閣ハ萬機親裁專ラ統一簡捷
ヲ要スヘシ今其組織ヲ改メ諸大臣ヲシテ各其
重責ニ當ラシム統フルニ內閣總理大臣ヲ以テ
シ以テ従前各省太政官ニ隸屬シ上申下行經由
繁複ナルノ弊ヲ免レシム乃各部ニ至テハ官守

ノ明カニシ以テ濫弊ヲ除キ選叙ヲ精クシ以テ
才能ヲ待テ繁文ヲ省キ以テ淹滯ヲ通シ冗費ヲ
節シ以テ急要ヲ舉ケ規律ヲ嚴ニシ以テ官紀ヲ
肅ニシ徐カニ以テ施政ノ整理ヲ圖ラントス是
レ朕カ諸大臣ニ望ム所ナリ中興ノ政一タヒハ
進ミ一タヒハ退クヘカラス華ヲ去リ實ヲ務メ
綱舉リ目張リ永遠繼クヘカラス諸臣其レ各
朕カ意ヲ體シテ奉行スル所アレ

明治廿一年
三月新編 官民必携

凡例

- 一本書ハ現行法律及ヒ其取扱手續并ニ伺指令
書式等ヲ編著シタル者ナリ
- 一然レ凡盡ク現行法律ヲ編スレハ其書浩瀚ニ
シテ管ニ携帶ニ不便ナルノミナラス亦大ニ
搜索ニモ不便ナリトス故ニ此書ニ於テハ專
ラ官民共ニ直接ニ必要ナル者ノミヲ撰録セ
リ
- 一本書ノ註釋ハ從來行ハレタル編纂法ノ舊套

凡例

ニ
ヲ覆ハス偏ニ看者ノ便利ヲ旨トシ先ツ現行
法典ヲ十^〇九^〇門ニ彙類シ一門ノ中ニ彙類スヘ
キ者アレハ更ニ部ヲ置ケリ
一如何ナル法令條規ニテモ伺指令アル者ハ之
ヲ本條ノ間ニ挿入セリ其數條ニ跨ルカ或ハ
全体ニ關シタル者ハ不得已本則ノ終尾ニ付
載セリ其改正増補或ハ取扱手續等亦然リト
ス
一刑法治罪法及ヒ陸海軍律令ハ之ヲ省ケリ紙
數ニ限リアルト民間此種ノ書甚タ多キニ依

ル然レモ官民トモ直接ニ必要ニシテ右法令
ニ參觀スヘキ者ハ精細ニ之ヲ編入セリ
一凡ソ看者ヲシテ搜索ニ便ナラシムルノ方法
ハ編者ノ尤モ苦心研究シタル所ニシテ猶後
未發明スル所アレハ直ニ改正ノ勞ヲ採ラン
トヲ期セリ看者幸ニ之ヲ諒セヨ

明治廿一年三月

編者識

目次

條例門

- 集會條例 一
- 保安條例 四
- 新聞紙條例 六
- 出版條例 三三
- 版權條例 三八
- 脚本樂譜條例 一三三
- 寫真條例 二三四
- 出版條例版權條例脚本樂譜條例寫真版權條例願屆手續 二二五
- 新聞ニ關スル諸屆書式 三三二
- 請願規則 三三六
- 請願規則ニ依リ差出書類用紙制限 三八

禁令門

○諸規則諸取締ノ部

(目次)

- 遺失物取扱規則 三九
- 古物商取締條例 四二
- 質屋取締條例 四七
- 銃砲取締規則 四九
- 銃砲取締規則違背者ノ處分方 五二
- 外國人ヨリ銃砲買入手續 五二
- 武官所有ノ軍用銃買取扱規則 五三
- 火藥取締規則 五三
- 全附則 五八
- 火藥庫圍線規則 五九
- 爆發物取締規則 六九
- 石油取締規則 六一
- 街路乗合馬車營業人力車及宿屋取締規則標準 六三
- 賭博犯處分規則 九〇
- 新潟縣ヨリ司法省ニ伺同指令 九一

- 秋田縣ヨリ司法省へ伺同指令 九一
- 神奈川縣ヨリ海軍省へ伺同指令 九一
- 在軍籍者賭博犯ヲ受ケタル時駐在官へ通報方 九一
- 密賣淫取締懲罰 九二
- 墓地及埋葬取締規則ニ違背スル者處分方 九三
- 墓地及埋葬規則細則標準方 九三
- 古墳發掘ノ件ニ付熊本縣ヨリ伺同指令 九五
- 猥褻墓地ヲ設ケルヲ禁ス 九六
- 猥褻古墳ヲ發掘スルヲ禁ス 九六
- 燒場取設心得方 九七
- ◎禁示ノ部 九八
- 人身賣買ノ禁 九八
- 人身賣入ノ禁 九八

- 幼兒ヲ外國人ニ賣渡スヲ禁ス 九九
- 菊御紋ヲ禁ス 九九
- 官弊社々殿ノ裝飾及社殿ノ幕提灯ニ限リ菊御紋ヲ用ユルヲ許ス 九九
- 國幣社々殿ノ裝飾幕提灯ニ限リ菊御紋ヲ用フルヲ許ス 一〇〇
- 一般社寺ノ神殿佛堂ニ裝飾シタル分ニ限リ菊御紋存置ヲ許ス 一〇〇
- 菊御紋章ヲ濫キタル賣品取締方 一〇〇
- 勸業博覽會賞狀へ御紋章ヲ附スル儀ニ付岩手縣ヨリ宮内省へ伺同指令 一〇〇
- 群馬縣ヨリ伺 一〇〇
- 群馬縣ヨリ伺 一〇〇
- 內務省ヨリ太政官へ伺 一〇〇
- 富興行及諸物品限月賣買禁止 一〇一
- 富籤賣買ノ牙保補助ヲ爲シ及 一〇一

- 富籤ヲ購買シタル者處分方 一〇二
- 帶刀ノ禁 一〇三
- 金銀分析ノ禁 一〇三
- 會議門 一〇三
- 郡區町村編制法 一〇三
- 郡區町村編制法府縣會規則地方稅則施行順序 一〇四
- 府縣會規則 一〇六
- 府縣會心得 一二四
- 府縣會其儀定スベキ事件ノ細目ニ係ル事項ヲ區町村會ニ付スルヲ得 一二四
- 府縣會議員他府縣議員ト通信禁止及處分方 一二四
- 府縣會開會中府縣會規則第七條ニ據リ議員上京方 一二五
- 區郡部會規則 一二五

- 區町村會法 一一六
- 區町村會ニ於テ評決ノ諸費意納者處分法 一一八
- 學事ニ付區町村ノ評決認可方 一一九
- 和歌山縣伺 一一九
- 地方稅ニ關スル寄附及雜收入ノ件 全
- 地方稅支辨ニ係ル寄付及收入ノ件 全
- 共有物ニ關スル區町村會評決ノ件 一二〇
- 區町村會ノ支辨ニ係ル寄付金穀物件ノ件 全
- 褒賞門 全
- 褒賞條例 一二二
- 褒賞條例取扱手續 一二二
- 褒章ト金銀木杯若クハ金圓賜 一二三

(目次)

●金銀木杯金圓賜與手續	一三三
○黃襪章臨時制定	一二五
○犯罪者襪章沒收方	全
●兵庫縣ヨリ農商務省へ伺同指	一三六
令	一二七
●山口縣ヨリ伺	全
○勳章決定	一三三
○叙勳條例	一三二
●全附則	一三九
○外國勳章佩用願規則	一四〇
○勳章等級制式及大勳位將花章類	一四二
○飾ノ製式	全
○勳章佩用者榮譽ヲ汚サレシ時處	一四三
分方	一四三
○勳章年金視察及停止取扱手續	一四三
●福井縣ヨリ伺	一四三

●陸軍省ヨリ伺	一四三
○帶勳者民事上曠問手續	全
○官吏恩給令	一四四
●文部省ヨリ伺	一五〇
●官吏恩給令附則	一五一
○陸軍恩給令	一六二
○海軍恩給令	一八〇
○賞與取調書式	一九六
○文官傷痍疾病等差例	一九七
○恩給扶助料ヲ受ル者受領地轉	二〇〇
換轉籍等ノ取扱順序	二〇〇
●救恤門	二〇一
○救恤規則	二〇一
○三子出産困窮ニシテ學費行届	二〇二
兼候向養育料給與方	二〇三
○救助筋申請ノ研調査稟請個條	二〇三
○士族平民ニ論セス救助施行方	二〇四

○樂子養育米被下方	二〇五
○樂子養育米被下方年限及年齢見定	二〇六
○方	全
○樂子養育米至月未滿端日數ノ分	全
○支給方	二〇六
○寄留人ニ養育米被下方	二〇六
○恤救米及樂兒養育米等渡前月相	二〇七
場調難成向ノ前々月平均相場ヲ	全
用フ	全
●和歌山縣伺	全
●愛媛縣伺	全
●埼玉縣伺	全
○例規適當ノ分不及伺施行濟恤救	二〇七
取計及救助金受取方	全
○濟貧恤救濟届出施行方	二〇九
○行旅死亡人取扱規則	二一〇
●行旅死亡人埋葬表	二一〇

●三重縣伺	二一一
●福嶋縣伺	全
●廣嶋縣伺	全
●滋賀縣伺	全
●茨城縣伺	二一二
●戸籍法	二二三
○戸籍登記書式	二二八
○華士族除族平民ニ關スル布告	二二八
○布達及伺指令要領	二二八
○失踪逃亡ニ關スル布告布達及	二二八
伺指令要領	二二八
○姓名印章ニ關スル布告布達及	二二八
伺指令要領	二二八
○親族呼稱ニ關スル伺指令要領	二二三
○結婚離婚ニ關スル布告布達及	二二三
伺指令要領	二三四

(目次)

○相續ニ關スル布告布達及伺指令要領	二二〇
○廢戶主・嫡子・廢嫡等ニ關スル布告布達及伺指令要領	二三八
○庶子私生子ニ關スル布告布達及伺指令要領	二四一
○養子女ニ關スル布達伺指令要領	二四五
○後見人ニ關スル布達及伺指令要領	二四六
兵事門	
○改正徵兵令及伺指令要領	二五一
○徵兵事務條例及伺指令要領	二五三
○徵兵事務取扱手續	二五六
○戒嚴令	三六七
○徵發令	三七一
○徵兵旅費定則	三八四
○鎮壓條例	三八六

○憲兵條例	三九二
○屯田兵條例	四〇一
○陸軍武官結婚條例	四〇四
○海軍條例	四〇九
○海軍武官結婚條例	四一〇
租稅門	
○地所名稱區別	四一三
○國稅地方稅區別	四二五
○國稅ノ部	四二五
○地租條例	四二五
○地租徵收期限	四一九
○國稅金收納順序及附錄	四二〇
○國稅金送納定則	四二九
○國稅金送納代理人ノ職ニ付	四二九
○青森縣ヨリ大藏省ニ伺同指	四三一
○地租金ノ内田方ニ限リ半額代	四三一

米納手續	
○買上地拂下地償地等收稅除稅區分方決定	四三三
○代米納取扱手續	四三三
○地租金代米納領收順序	四三三
○預リ米取扱手續	四三七
○納稅代ノ事	四三九
○凶歲租稅延期規則	全二二
○非常凶歲官吏立會方	四四〇
○租稅官損取扱方	四四一
○租稅官損取申方改定	四四二
○地券渡方規則	全
○地券取扱順序	四四七
○地券證明稅	四五一
○地券證明稅上納方	四五二
○福岡縣伺	全一八
○兵庫縣伺	四五二

○地券替換下付及手数料ノ件	四五三
○公用土地買上規則	四五四
○土地分合筆取扱手續	四五七
○租稅檢査員派出方準則	四五八
○官有地諸收入金徵收規程	全
○伺指令	四六〇
○歳入歳出納規則	四六一
○歳入取扱順序	四七三
○歳出取扱順序	四八八
○所得稅法	五〇〇
○所得稅法施行細則	五〇六
○所得届誤記ノ件ニ付鹿兒島縣ヨリ大藏省ニ伺合	五一二
○所得届出誤認ノ件ニ付大坂府ヨリ大藏省ニ伺合	全
○鑛山稅及土石堀取堀取料	五二三
○借區意納及休納者處分法	五一四

(目次)

七

六

- 北海道水産稅則 五二五
- 北海道水産稅則施行細則 五一八
- 酒造稅則 五二一
- 酒造稅則附則 五二八
- 自家用料酒類製造者心得 五二九
- 醸造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類製造者ハ該稅則ニ準據ス 五三〇
- 酒造制限高ヨリ減却セシモノ 五三一
- 翌期營業ノ許カスモノ 五三二
- 滋賀縣稅則 五三三
- 愛媛縣稅則 五三三
- 山形縣稅則 五三三
- 醬園營業稅則 五三四
- 烟草稅則 五三五
- 烟草稅則施行ニ付心得方 五四三
- 烟草稅則中心得方 五四四
- 米●滋賀縣稅則 五四六

- 京都府稅則 全
- 長崎縣稅則 全
- 福岡縣稅則 全
- 島根縣稅則 全
- 京都府稅則 全
- 山形縣稅則 全
- 茨城縣稅則 全
- 富山縣稅則 全
- 熊本縣稅則 全
- 賣藥規則 全
- 賣藥印紙稅規則 全
- 賣藥日用者ニ係ル件 全
- 賣藥印紙交換規則 全
- 醬油稅則 全
- 外國ニ輸出スル醬油ニ對シ造石稅金下戻手續 五六〇
- 千葉縣稅則 五六二

- 熊本縣稅則 全
- 長崎縣稅則 全
- 高知縣稅則 全
- 滋賀縣稅則 五六二
- 菓子稅則 全
- 菓子稅則改正 五六七
- 高知縣稅則 全
- 東京府稅則 五六八
- 石川縣稅則 五六九
- 靜岡縣稅則 全
- 鹿兒島縣稅則 全
- 證券印稅規則 五七〇
- 證券印稅及ヒ手形用紙ノ種類定價決定 五七六
- 證書帳簿印紙貼用ノ様式 五七七
- 民事訴訟印紙稅則 五七九
- 證券印紙檢査規則 五八二

- 印紙稅徵收ノ義ニ付山形縣稅則 五八三
- 米穀借用證文ニ印紙貼用ノ義ニ付島根縣稅則 五八四
- 證券印稅規則ノ義ニ付愛媛縣稅則 五八四
- 印紙類賣捌規則 五八四
- 印紙類賣捌規則取扱手續 五八八
- 船稅規則 五九一
- 免稅船ノ義ニ付大坂府稅則 五九三
- 兵庫縣稅則 五九四
- 船稅徵收ノ噸數及積石數定メ方 五九五
- 湖川日本形船ノ義ニ付滋賀縣稅則 五九五
- 免稅船ノ義ニ付德島縣稅則 五九六
- 船稅免否ノ義ニ付愛媛縣稅則 五九六
- 官用船處分方ノ義ニ付秋田縣稅則 五九六

(目次)

縣伺

- 堰使用船ノ義ニ付兵庫縣伺 五九六
- 車稅規則 五九六
- 全附則 五九七
- 耕作一途ニ用フル車類車稅免除ノ檢印燒印方 五九八
- 大中小車區別方 五九九
- 船車ノ修繕ヲ加ヘ増減ヲ生シテ時稅金徵收方 五九九
- 人力車一人二人乗ノ區別 五九九
- 車稅免除ノ義ニ付愛媛縣伺 六〇〇
- 車稅ノ義ニ付靜岡縣伺 六〇〇
- 一疋立ノ馬車ニ疋立ニ兼用ノ者課稅ノ義ニ付東京府伺 六〇〇
- 牛馬賣買免許稅規則 六〇〇
- 國立銀行稅 六〇二
- 米商會所並株引取式所收稅規則 六〇二

- 米商會所株引取式所仲買人認許料 六〇三
- 米商會所株引取式所仲買人認許料規定 六〇三
- 地方稅ノ部 六〇三
- 地方稅規則 六〇五
- 營業稅雜種稅ノ種類及制限 六〇八
- 區町村費ハ地租七分ノ一ヲ超過スルヲ得ス 六一〇
- 戶長役場諸費ハ區村費ヲ以テ支辨スベシ 六一〇
- 官有地ニ對スル區町村費ノ事 六一一
- 府縣警察費ニ對シ國庫金下渡シ割合 六一一
- 集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用區分方ヲ定ム 六一一

- 官用船舶車馬ヘ地方稅ヲ賦課スルヲ得ス 六一二
- 公談所有ノ馬車ヘ地方稅ヲ賦課スルヲ禁ス 六一二
- 乘馬飼養令ニ依リ飼養スル乘馬ハ地方稅ヲ賦課セス 六一二
- 官内限リ諸違書爲揭示諸費從來官費ニ係ルモノ支辨方 六一三
- 國庫下渡金割合方 六一三
- 既決囚ニ係ル經費區分實地取計方 六一三
- 堤塘使用料並木質渡料地方稅ニ合セ土木費ニ使用セシムヘシ 六一四
- 集治監ニ入ルヘキ囚徒ノ費用管理方 六一四
- 堤塘使用料下渡方 六一四
- 警察廳舎建築修繕費國庫金算出 六一四

- 賣淫罰金支拂費目 六一五
- 警察費國庫下渡金ノ殘餘翌年度ヘ差繼方 六一五
- 傳染病ニ罹リ身元赤貧ノ者費用地方稅衛生費ヲ以テ支辨方 六一六
- 並木及堤防道路用惡水路土居敷等ニ生シ竹木枯倒障礙等ニ依リ拂下代金充用方 六一六
- 監獄不用品賣拂代金看守罰俸 六一七
- 等國庫地方稅收入區分方 六一七
- 警察費ノ内府縣下渡金交付方 六一七
- 在府縣獄囚徒費取扱方 六一八
- 並木處分ノ儀ニ付新瀉縣伺 六一八
- 並木拂代金支辨ノ儀ニ付全縣伺 六一八
- 監獄費取扱方ノ儀ニ付茨城 六一八

(目次)

- 已決囚ニ係ル經費區分ノ備ニ付新潟縣伺 六一九
- 監獄費取扱方ノ備ニ付群馬縣伺 六二〇
- 監獄工業ニ係ル工錢收支金算出方ノ備ニ付山形縣伺 全
- 不用ニ屬スル地所建物賣却代納納入方ノ備ニ付岐阜縣伺 六二二
- 傭工鑛國庫費ニ收入方ノ備ニ付石川縣伺 全
- 警部乘馬ノ節口付人旅行支出方ノ備ニ付大藏省伺 六二二
- 地方稅費目ノ備ニ付農商務省伺 全
- 在府縣獄囚徒費取扱方並地方稅豫算ノ備ニ付鹿兒嶋縣伺 六二三

- ◎海關稅ノ部
- 海關輸出入荷物取扱條例 六二四
- 無稅輸出品並ニ解禁 六二五
- 硝石輸出ノ件 全
- 米麥粉輸出ノ件 全
- 米麥粉輸出ノ件 全
- 銅鐵輸出ノ件 全
- 內國製西洋酒及內國製ノ土產輸出ノ件 六二六
- 內國製ノ水産輸出ノ件 全
- 摺付木輸出ノ件 全
- 紺紵引輸出ノ件 全
- フナエル紋羽綾木綿輸出ノ件 全
- 木綿織物其他輸出ニ關スル件 全
- 書畫其他輸出ノ件 六二七
- 硫酸輸出ノ件 全
- 硫酸輸出ノ件 全

- 外國ニ輸出スル食鹽ハ海關稅ヲ免除スルニ關シ 六二七
- 朝鮮國ニ於テ製造ノ日本酒海關稅ノ件 六二八
- 租稅未納者處分方 全
- 全取扱方心得 六三〇
- 諸營業免許ノ者納稅前旅行又ハ失踪件ノ時徵收手續 六三二
- 稅不納又ハ徵收不能ハザル分真申方 六三三
- 內國稅未納追徵整理順序 六三三
- 租稅未納者身代限ノ未乘捐方 六三四
- 租稅不納者公買處分ノ備ニ付岐阜縣伺 六三四
- 官沒器械運搬費等支出ノ備ニ付熊本縣伺 六三四
- 稅金不納者取扱方ノ備ニ付愛

- 公媛縣伺 六三五
- 納稅代理人不納ノ節處分方 六三五
- 貨幣門
- ◎紙貨幣之部
- 貨幣條例 六二六
- 貿易銀貨一般ニ通用セザルモノ 六三九
- 通用貨幣ノ鑄解毀傷等ヲ禁ス 全
- 齋貨幣交換代金下渡方 六四〇
- 鑄造紙幣處分方 全
- 損紙幣交換規則 六四二
- 國立銀行損傷紙幣交換各國立銀行本支店ニ於テ取扱方 六四三
- 紙幣漸次銀貨ニ交換スル 六四四
- 鑑定ヲ誤リ正貨紙幣斷截シ又ハ描改シ正札等取扱方 全

(目次)

○銀行紙幣贖造措改處分	六四五
◎證券之部	
○大藏省證券條例	六四五
●大藏省證券條例ニ據リ證券發行之事務	六四七
○兌換銀行條例	全
○爲換手形約束手形條例	六四九
○爲替手形約束手形ニ關スル書式	六五六
○新舊公債證書發行條例	全
○金札引換公債條例	六七〇
○金札引換無記名公債證書條例	六七三
○起業公債	六七五
○起業公債證書發行條例	六七六
●起業公債證書記名ノ分元金拂	六七六
○地方手續	六八四
○中山道鐵道公債證書條例	六八五
○整理公債取扱順序	六九三

●整理公債證書ノ並付申込方	六九八
○海軍公債證書條例	六九九
●海軍公債證書發行手續	七〇〇
○諸記名公債ノ元利賦金拂渡方	七〇二
○諸公債證書ノ元金拂渡期限ヲ經過シ受取方不申出所有主ノ損失ニ歸シタル證書取扱方	七〇三
○諸記名公債元利賦金支拂方取扱順序	全
○亡失シ諸公債證書發見ノ節復手ノ手續及該證書引上處分方	七〇五
○公債證書亡失ニ關スル取扱手續	全
◎預金貸金之部	
○預金規則	七〇六
○教會會社及人民共有關係ノ預金取扱手續	七〇七
	七〇八

○國立銀行條例	七二六
○橫濱正金銀行條例	七四六
○諸貸付金整理順序	七五二
○諸貸付金徵収取扱順序	七五三
○普通教育門	
○帝國大學令	七五四
○中學校令	七五七
○高等中學校設置區域内府縣委員會規則	七五九
○尋常中學校ノ學科及其程度	七六一
○中學校令	七六六
○小學校ノ學科及其程度	七六七
○公私立小學校教科圖書採定ノ方法	七七二
○師範學校令	七七四
○高等師範學校卒業生服務規則	七七六
○尋常師範學校生徒募集規則	七七七

○尋常師範學校卒業生服務規則	七八二
○尋常師範學校ノ學科及其程度	七九二
○尋常師範學校官制	八〇一
○諸學校通則	八〇三
○小學校教員免許規則	八〇四
○尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則	八一〇
○教科用圖書檢定條例	八一四
○教科用圖書檢定手續	八一六
○教科用圖書檢定規則	八二〇
○學事年報取調條例	八二六
○衛生門	
○地方衛生會規則	八三五
○傳染病豫防規則	八三六
○黴毒檢査方法施設方	八四一
○傳染病豫防救治ニ備使スル醫師以下感染及死亡手當規則	全

(目次)

一五

○虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶 検査規則	八四三
○虎列刺病流行ノ際檢疫所設置取 計方	八四五
○虎列刺病流行地方ヨリ古着及襪 襪輸送ヲ禁ス	
○人家稠密ノ場所ニ於テ糞糞ヲ禁 ス	
○糞糞制限附方	八四六
○醫師免許規則	
●伺指令	
○醫師開業試験規則 ●伺指令	八四九
○試験ヲ要スルモノヲ醫術ノ免狀ヲ 授與スル者格例	八五二
○醫師開業受取人心得才定ム	八五三
○從來開業ノ醫師ハ試験ヲ要セス 鑑札等ヲ附與セシム	八五五

○内務省乙第四號府縣ニ趨 ○入齒齒抜口中療治接骨等營業 ノ者開業及鑑札渡方	八五六
○鍼灸術營業者取締方	八五七
○患者死亡届差出順序 ●伺指令	八五九
○賣藥規則 ●伺指令	
○賣藥請賣鑑札並行商鑑札製作 費支辨方 ●伺指令	八六六
○賣藥手續中請賣鑑札及行商鑑 札並行商鑑札製作費ノ一項ヲ 削除シ更ニ取費方ヲ示ス ● 伺指令	八六七
○藥品取扱規則	八七〇
○煉製ノ鼠取製ヲ禁ス	八七五
○アクリルニ他類屬製ノ給具染 料取替方	八七六
○給具染料賣買取替方	八八二

○摺附木製造ニ資シテ用フルヲ禁 ス	全
○藥品其他検査手数料ヲ定ム	八七七
●伺指令	
○石炭酸其他劇毒傳染病流行ノ 際販賣ヲ許ス	八七九
○藥用阿片買取製造規則	八七九
○阿片買取並製造規則施行ニ付 取扱方	八八二
○製藥免許手續	八八三
●伺指令	
○土木門	
○道路等級ヲ更定ス	八八五
○道路表	八八六
○國縣道ノ新設又ハ變換ニ係ルモ ノ築造保存方法取朝上申方	八九七
○道路ノ敷地貸渡ヲ禁ス	九〇三

○道路河川變換ニ付民有地ヲ新 道新川敷ト爲スル舊道舊河敷	九〇四
○河代地トシテ下渡セシムル事	九〇四
○官有ノ川敷溝敷寄洲川沿地等拂 取貸下ヲ禁ス	九〇四
○道路掃除ノ事	九〇四
○並木伐採ノ事	九〇五
○道路開設電線路變換ノ事	九〇六
○治水修路並橋梁架設ノ事	九〇六
○橋梁渡船賃額揭示及受取方	九〇七
○川ノ渡船ノ儀一人クリトモ速ニ 出船セシムル事	九〇七
○道路橋梁渡津等ニ於テ警部巡查 區内巡行ノ節賃錢請求ヲ禁ス	九〇七
○人民私費架設ノ橋梁渡津又ハ 新道軍隊行進ノ節賃錢請求方ヲ 禁ス	九〇八

(目次)

- 人民私費架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等憲兵巡行ノ節貸錢請求方ヲ禁ス 九〇八
- 人民私費開設ノ橋梁渡津及道路等電信配達人貸錢請求ヲ禁ス 全
- 人民私費架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫印鑑所持者貸錢請求ヲ禁ス 九〇九
- 公園地設置ノ事 全
- 海軍制定 九一〇
- 經度計算方標準 全
- 農商門**
- 各地方勸業諮問會并勸業委員設置方 九一一
- 勸業諮問會并勸業委員設置心得方 九一四
- 勸業委員人員撰舉方法及處務順

- 序評定心得方 九一八
- 博覽會共進會出品ニ關スル件 全
- 蠶糸業組合準則及蠶種検査等ノ事 九一九
- 蠶種検査規則 九二一
- 蠶種検査規則取扱手續 九二三
- 茶葉組合規則 九二七
- 同指令 九三三
- 全業組合準則 九三七
- 全業組合準則適用方 九四〇
- 捕魚採藻等ノ爲メ海面區畫方布告 九四三
- 民有森林伐採礦物土石採掘ヲ停止スルニ關スル事項 九四四
- 民有森林伐採礦物土石採掘處方 全
- 民有森林伐採礦物土石採掘處

- 分方ノ營業ノ諸事ニ關スル事 九四五
- 鳥獸獵規則 九四六
- 鳥獸ノ害ヲ爲ス山間等ノ村落銃獵時期方 九四九
- 鳥獸獵死狀ヲ有スル者姓名又ハ轉住スル時免狀替渡方 全
- 臘虎并臘豚獸獵獲及其生皮輸入販賣規則 九五〇
- 獸醫免許規則 九五一
- 獸醫開業試驗規則ヲ定ム 九五三
- 獸醫開業受驗心得ヲ定ム 九五五
- 獸類傳染病豫防規則 全
- 獸類傳染病豫防心得 九五九
- 山野ノ火取締方 九六七
- 民有ノ山野ノ火シ又ハ官林下草刈取締方 全
- 山林盜伐野燒等ノ豫防諸人民

- 論ヲテ荒蕪ヲ挽回セシム 九八六
- 部分木仕付條例 全
- 部分木仕付出願方者心得方 九七一
- 專賣特許條例ニ關スル事項 九七三
- 專賣特許手續 九七七
- 專賣特許ニ關スル諸願書式 九八三
- 商標條例ニ關スル事項 九八八
- 商標登錄願手續ヲ定ム 一〇〇三
- 商標登錄願手續ニ關スル事項 一〇〇九
- 商標ニ關スル諸願書式及明細書文例 一〇二〇
- 商標條例ニ關スル同指令 一〇二〇
- 度量衡改定規則 一〇三七
- 西洋形權衡製作検査印章 一〇三八
- 西洋形權衡ニ極印無之分ニ用ルル者處分方 一〇三九
- 新舊社章門 一〇四〇

(目次)

- 神社佛寺古來所傳ノ什物並ニ寄附ノ器器洞窟金等ノ類處分方 一〇三九
- 社寺ニ於テ金銀借入方 一〇四〇
- 寺院什物帳册製方 全六六
- 府縣社以下神社什物取締方 一〇四一
- 社寺什物取締方 全
- 社寺什物並地所建物等ノ類抵償其他處分方 六五五
- 社寺總代人ノ位キ社寺ノ阿闍梨等建修等事、且收入財產等取調方 全六五〇
- 町村鐵座氏神氏子法就禁酒處分方 一〇四五
- 寺院附屬地所建物什物抵償償償其他財產ニ關スル諸願ハ管長ニ申付テ要領ヲ由テ之ヲ裁可スル 全 六四六
- 祠宇寺院ノ廢立及財產ニ關スル諸願ハ管長ノ添書ヲナシシムル 一〇四六

- 社寺境内樹木伐採方 一〇四七
- 社寺境内伐木取扱概則 全六三
- 神佛數算職ヲ廢止寺院ノ住職及在院ノ及教師ノ等級ヲ進退ノ事ニ關スル 一〇三八
- 神社ノ神官社家ノ私有スルキ者ニ非ニ布告 一〇五〇
- 管長身分取扱 全
- 僧侶托鉢禁止ノ違テ廢ス 一〇五二
- 托鉢允許方並托鉢者心得 全〇〇三
- 無檀越シテ無住ノ寺院廢止方 一〇五三
- 寺院廢止處分方 全六八三
- 社寺取扱概則 一〇五四
- 無檀越無住ノ寺院廢止處分手續 一〇五五
- 廢合寺院地并建物處分規則 全六六一
- 禁煙新條ヲ行ヒ醫藥ヲ妨クルヲ禁スル 一〇五七

- 禁煙新條ヲ請フモノアルハ醫師施療中ノ者ニ限リ其望ニ應スル 一〇五八
- 警察門 一〇五〇
- 行政警察規則 一〇五八
- 巡査賞與規則 一〇五六
- 甲乙兩縣ノ巡査戮力シテ犯人ヲ捕拿スル時賞與處分方 全六三
- 巡査旅費定則 一〇六六
- 警部巡査給與規則 一〇六七
- 巡査着守給助例 一〇七〇
- 人員減少等ニテ免職ノ者一時慰勞金支給方 一〇七三
- 巡査着守給助例第二條第二項勳績注必得方 全一〇八
- 吹拂盜賊人殺等ノ蹤跡ヲ訴出スル者賞與方 一〇七四

- 一般人民ノ竊盜ヲ捕獲セ 一〇三〇
- 警署賞與給與方 全六三
- 一般人民ノ竊盜ヲ巡査全標ノ働キニ死傷地ニ者弔祭扶助療治料支給方 全二〇八
- 憲兵職掌中行政警察事務規程 一〇七六
- 巡査懲罰例 全
- 司法警察ニ關スル細則ヲ設ク 一〇七五
- 司法警察ノ取締事ニ協働セシムル警察官吏禮式 一〇七七
- 警察官吏禮式 全二〇二
- 警察官吏禮式必得 一〇七九
- 巡査帶劔必得 全二〇〇
- 巡査着守給助概則 一〇八三
- 警察官吏司獄官吏神官及等外 一〇八四
- 徒隸肩内國旅費概則ヲ定ム 一〇八四
- 警察官吏其他内國旅費概則 一〇八四

(目次)

二二

- 不開港埠取籍心得規則 一二八八
- 離船救助 一二九〇
- 内地旅行免狀ノ式 一二九四
- 官民雇入ノ外國人從者旅行免狀ノ式 一二九六
- 居留地外住居ノ外國人ニシテ他人同居禁制式 一二九七
- 御前給ノ節外國人取扱心得 一三〇〇
- 外國人統獲免狀取扱係例 一三〇一
- 免狀離形 一三〇二
- 兵庫縣ヨリ外國人及ヒ清國人西ノ統獲免狀付與ノ備付内務省ノ伺 一三〇五
- 外國人ニ係ル遺失物取扱心得 一三〇六
- 内國人ヲ救助ノ外國人賞與手續 一三〇八
- 外國船乗込規則 一三〇九
- 西洋形船水先免狀規則 一三一〇

- 不開港埠取籍心得 一二八八
- 公文式等 一二八四
- 公文式等 一二八六
- 法律命令 一二八六
- 印 一二八七
- 官報發行改訂 一二八七
- 布告布達施行期限 一二八八
- 北海道ニ施行セラルル法律規則等 一二九〇
- 從前之通 一二九〇
- 布告布達發行 一二九六
- 布告布達到達日數 一二九一
- 内務卿ヨリ布告布達施行期限ノ儀ニ付太政官ノ伺 一二九六
- 建白書關スル部 一二九七
- 立法ニ關スル建白書等差出方 一二九三
- 公益關スル建白書 一二九三

- 元老院ニ於テ取扱 一三三三
- 建白書差出方心得 一三三三
- 官吏非職條例 一三三四
- 非職官吏俸給下渡住居移轉及商業ニ關スル 一三三五
- 官吏懲戒例 一三三六
- 官吏服務紀律 一三三七
- 文官試驗試補及見習規則 一三二九
- 文官試驗補及見習規則ニ關スル細則 一三三七
- 試補及見習ノ待遇並ニ任用ノ件ヲ裁可 一三四〇
- 教官技師官ノ資格ヲ有スルモノヲ以テ行政官ニ任用スルノ件ヲ裁可ス 一三四〇
- 判任官高等試驗ヲ受クルコトヲ得ルノ件ヲ裁可ス 一三四一

- 失踪逃亡死亡遺留財産ノ處分 一三四三
- 内務省ヨリ太政官ニ伺 一三四三
- 諸願届文例 一三四三
- 出生届 一三四四
- 私生子出生届 一三四五
- 結婚入籍届 一三四五
- 縁女入籍届 一三四六
- 養女入籍届 一三四七
- 携帶者入籍届 一三四七
- 親族入籍届 一三四八
- 私生子引受入籍届 一三四八
- 離婚復籍届 一三四九
- 養子女離婚復籍届 一三四九
- 相續人離婚復籍届 一三五〇
- 離婚復籍ニ付携帶者入籍届 一三五〇
- 分家入籍届 一三五〇
- 分家者復歸入籍届 一三五二
- 附籍者入籍届 一三五二

(目次)

○附籍者別立入籍届	一五三三	○退隱跡相續届	一三六五
○絶家再與入籍届	一三五四	○亡跡相續届	一三六七
○轉住入籍届	一三五五	○失踪相續届	一三六七
○死亡届	一三五六	○廢嫡届	一三六七
○死體分焼届	一三五七	○庶子立嫡届	一三六八
○流産届	一三五七	○失踪届	一三六八
○入夫妻送籍届	一三五八	○失踪者復歸届	一三六九
○相續人送籍届	一三五八	○失踪者所在分明届	一三七〇
○入夫妻送籍届	一三五九	○改名届	一三七〇
○相續人送籍届	一三六〇	○復姓届	一三七二
○入夫妻送籍届	一三六〇	○身分變換届	一三七二
○相續人送籍届	一三六一	○身分變換届	一三七二
○入夫妻送籍届	一三六一	○廢家属	一三七三
○相續人送籍届	一三六一	○戶籍訂正届	一三七三
○入夫妻送籍届	一三六二	○入寄留届	一三七四
○相續人送籍届	一三六二	○入寄留届	一三七五
○入夫妻送籍届	一三六三	○入寄留届	一三七五
○相續人送籍届	一三六三	○入寄留届	一三七六
○入夫妻送籍届	一三六四		
○相續人送籍届	一三六四		
○入夫妻送籍届	一三六五		
○相續人送籍届	一三六五		

○家族者入籍寄留届	一三七七	○國民兵異動届	一三八八
○諸出寄留届	一三七八	○國民兵異動届	一三八八
○寄留者退去届	一三七九	○國民兵異動届	一三八八
○寄留者退去届	一三八〇	○國民兵異動届	一三八八
○出寄留者歸住届	一三八〇	○國民兵異動届	一三八八
○後見届	一三八一	○國民兵異動届	一三八八
○後見人變換届	一三八二	○國民兵異動届	一三八八
○後見解除届	一三八三	○國民兵異動届	一三八八
○止宿人届	一三八三	○國民兵異動届	一三八八
○止宿人退去届	一三八四	○國民兵異動届	一三八八
○旅行届	一三八四	○國民兵異動届	一三八八
○留守引受人届	一三八五	○國民兵異動届	一三八八
○旅行立戻届	一三八六	○國民兵異動届	一三八八
○印鑑届	一三八七	○國民兵異動届	一三八八
○改印届	一三八七	○國民兵異動届	一三八八
○改肉届	一三八七	○國民兵異動届	一三八八
○軍事諸書式	一三八七	○國民兵異動届	一三八八

(目次)

三七

二六

○(現役兵)異動届	一四〇〇	○身元證書下付届	一四二二
○(補充兵)異動届	一四〇一	○結婚届	一四二三
○(現役兵)異動届	一四〇二	○離縁届	一四二四
○(補充兵)異動届	一四〇三	○死亡届	一四二五
○(現役兵)異動届	一四〇四	○逃亡失踪届	一四二六
○(補充兵)異動届	全	○兵籍送届	全
○(現役兵)異動届	一四〇五	○旅行届	全
○(補充兵)異動届	一四〇六	○(單身寄留)願	一四二七
○(現役兵)異動届	一四〇七	○(旅行)願	全
○(補充兵)異動届	一四〇八	○歸京届	一四二八
○(現役兵)異動届	全	○歸郷届	一四二八
○(補充兵)異動届	一四一九	○身元引受證書	一四二八
○(現役兵)異動届	一四二〇	○軍管内寄留地ヨリ召集願	一四二九
○(補充兵)異動届	一四二一	○軍管外寄留地ヨリ召集願	全
○(現役兵)異動届	一四二二	○徴兵寄留地ニ於テ召集願	一四三〇
○(補充兵)異動届	一四二三	○徴兵寄留徴集願濟届	一四三一
○(現役兵)異動届	一四二四	○徴兵適齡御届	一四三二
○(補充兵)異動届	一四二五		
○(現役兵)異動届	一四二六		
○(補充兵)異動届	一四二七		
○(現役兵)異動届	一四二八		
○(補充兵)異動届	一四二九		
○(現役兵)異動届	一四三〇		
○(補充兵)異動届	一四三一		
○(現役兵)異動届	一四三二		
○(補充兵)異動届	一四三三		

條例門

○集會條例(十三年四月五日)

集會條例別冊之通規定候條此旨布告候事

第一條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開會三日前ニ講談論議ノ事項講談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ其會主又ハ會長幹事等ヨリ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ

第二條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社スル者ハ結社前其姓名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ其社則ヲ改正シ及ヒ社員ノ出入アリタルモ之ニ答辨スヘシ此届出ヲ爲スニ當リ警察署ヨリ尋問スル事アレハ社中ノ事ハ何事ダモ之ニ答辨スヘシ

前項ノ結社及ヒ其他ノ結社ニ於テ政事ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メニ集會ヲ爲サントスルトキハ仍ホ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ
十五年第二十七號 布告全條改正

第三條 講談論議ノ事項講談論議スル人員會場及ヒ會日ノ定規アル者ハ其定規ヲ初會ノ三日前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クルトキハ爾後ノ例會ハ届出ニ及ハスト雖田之ヲ變更スルトキハ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 管轄警察署ハ第一條第二條第三條ノ届出ヲニ於テ國安ニ妨害アリト認ムルトキハ

(條例門) (集會條例)

之ヲ認可セサルヘシ

第五條 警察署ヨリ正服ヲ着シタル警察官ヲ會場ニ派遣シ其認可ノ證ヲ検査シ會場ヲ監視セシムルコトアルヘシ

第六條 派出所ノ警察官ハ認可ノ證ヲ開示セサルトキ講談論議ノ屆書ニ掲ケサル事項ニ亙ルトキ又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意ヲ含ミ又ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキ及ヒ集會ニ臨ムチ得サル者ニ退去ヲ命シテ之ニ從ハサルトキハ全會ヲ解散セシムベシ但本條ノ解散ヲ命シタル時ハ其情狀ニヨリ東京ハ警視總官其他ハ地方長官其結社ヲ解散セシメ又ハ其管内ニ於テ一年以内其會員ノ公衆ニ對シ政事ヲ講談論議スルコトヲ禁スルチ得ヘシ
十三年第五十六號
布告但書追加

第七條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ陸海軍人常備豫備後備ノ名籍ニアル者警察官官立公立私立學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルコトヲ得ス

第八條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若クハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ他ノ社ト連結シ及ヒ通信往復スルコトヲ得ス

第九條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催スコトヲ得ス

第十條 第一條ノ認可ヲ受ケスニテ集會ヲ催スモノ會主ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ第三條ノ規程ヲ犯シタル者モ又本條ニ據ル

第十一條 第一條ノ規程ニ背キ社則或ハ社員名簿或ハ改則社員ノ出入ヲ定規ニ於テ警察署ニ届出テズ又ハ尋問スル處ノ事項ヲ開答セサルトキ社長ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ偽作ノ社則又ハ名簿ヲ届出或ハ尋問ヲ得テ偽答スルトキ社長ハ右罰金ノ外尙十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處ス

第十二條 第五條ノ規程ニ背キ派出所警察官ノ臨席ヲ背セサルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ各五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其警察官ヨリ演說者ノ姓名ヲ尋問スルニ之ニ答ヘス又ハ偽名ヲ答ヘタル者ハ同罪ニ處シ再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處ス

第十三條 派出所警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尙退散セサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上六月以下ノ禁獄ニ處ス

第十四條 第七條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其他情狀ノ重キモノアレハ其社ヲ解散セシム其制限ヲ犯シテ入社シ又ハ臨會スル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第八條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其社ヲ解散セシム此事ニ關スル者モ亦同罪ニ處シ脅迫スル者及ヒ罪再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處シ其社長幹事ハ一年以上五年以下結社又ハ入社ヲ禁ス

第十六條 成法ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニ在ラス

○保安條例 勅令第六十七號(二十五年十二月二十五日)

朕惟フニ今ノ時ニ當リ太政ノ進路ヲ開通シ臣民ノ幸福ヲ保護スル爲ニ妨害ヲ除去シ安寧ヲ維持スルノ必要ヲ認メ茲ニ左ノ條例ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム

御名 御璽

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
内務 大臣伯爵山縣有朋
司法 大臣伯爵山田顯義

第一條 凡ツ秘密ノ結社又ハ集會ハ之ヲ禁ス犯ス者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其首魁及教唆者ハ二等ヲ加フ
内務大臣ハ前項ノ秘密結社又ハ集會又ハ集會條例第八條ニ載スル結社集會ノ聯絡通信ヲ阻遏スル爲メニ必要ナル豫防處分ヲ施スコトヲ得其處分ニ對シ其命令ニ違犯スル者罰前項ニ同シ

第二條 屋外ノ集會又ハ群集ハ豫メ許可ヲ經タルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違フ者首魁教唆者及ヒ情ヲ知リテ參會シ勢ヲ助ケ

タル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其附加履行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

集會者ニ兵器ヲ携帯セシメタル者又ハ各自ニ携帯シタル者ハ各本刑ニ二等ヲ加フ

第三條 内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ文書又ハ圖畫ヲ印刷又ハ板刻シタル者ハ刑法又ハ出版條例ニ依リ處分スルノ外仍其犯罪ノ用ニ供シタル一切ノ器械ヲ沒收スヘシ

第四條 皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居又ハ寄宿スル者ニシテ内亂ヲ陰謀シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキハ警視總監又ハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ期日又ハ時間ヲ限リ退去ヲ命シ三年以内同一ノ距離内ニ出入寄宿又ハ住居ヲ禁スルヲ得

退去ノ命ヲ受ケテ期日又ハ時間内ニ退去セサル者又ハ退去シタルノ後更ニ禁ヲ犯ス者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ仍五年以下ノ監視ニ附ス

監視ハ本籍ノ地ニ於テ之ヲ執行ス

第五條 人心ノ動亂ニ由リ又ハ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲ス者アルニ由リ治安ヲ妨害スルノ虞アル地方ニ對シ内閣ハ臨時必要ナリト認ムル場合ニ於テ其一地方ニ限リ期限ヲ定メ左ノ各項ノ全部又ハ一部ヲ命令スルコトヲ得

一凡ソ公衆ノ集會ハ屋内屋外ヲ問ハス及ヒ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ豫メ警察

(條例門) (保安條例)

官ノ許可ヲ經サル者ハ總テ之ヲ禁スル事

二新聞紙及其他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ檢閲ヲ經シテ發行スルヲ禁スル事

三特別ノ理由ニ因リ官廳ノ許可ヲ得タル者ヲ除ク外銃器短銃火藥刀劍仕込杖ノ類總テ携帶運搬販賣ヲ禁スル事

四旅人ノ出入ヲ檢査シ旅券ノ制ヲ設クル事

第六條 前條ノ命令ニ對スル違犯者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法又ハ特別ノ法律ヲ併セ犯シタルノ場合ニ於テハ各本法ニ照シ重キニ從ヒ處斷ス

第七條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○新聞紙條例 勅令第七十五號 (明治二十年十月二十八日)

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ內務省ニ届出ヘシ

第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 題號
 - 二 記載ノ種類
 - 三 發行ノ時期
 - 四 發行所及印刷所
 - 五 發行人 編輯人及印刷人ノ氏名年齢
- 編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルベシ但シ紙面ニ部門

ヲ分テ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコトヲ得

第三條 届出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ベシ

發行ノ時期發行所印刷所編輯人印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ベシ

第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出ヲナスマデハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條 發行ノ届出ヲナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セザルトキハ其届出ノ効ヲ失フモノトス

第六條 內國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非レバ發行人印刷人トナルコトヲ得ズ
公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人編輯人印刷人トナルコトヲ得ズ

第七條 編輯人、印刷人ハ互ニ相兼スルコトヲ得ズ

第八條 發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ納ムベシ

- 一 東京ニ於テハ千圓
- 一 京都大坂横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓
- 一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

(條例門) (新聞條例)

一 一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額

保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルヲ得

學術技藝統計官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミチ記載スルモノハ本條ノ限ニアラズ

第九條 保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス

第十條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サズ又ハ保證金ヲ納ムベキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行スルモノハ正當ノ届出ヲナシ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ベシ

第十一條 新聞紙ハ每號ニ發行人編輯人印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スベシ

發行人印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スルモノハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳(東京府ハ警視廳)及管轄治安裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムベシ

第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辨駁書ノ掲載ヲ求メタルトハ其求メテ受ケタル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辨駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辨駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付キ其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

正誤辨駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スベシ

正誤辨駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ル、トキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セザルトキハ掲載スルヲ要セズ

第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書辨駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求メナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキヲ前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スベシ

第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ズ 傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ズ

第十七條 刑律ニ解レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ズ 刑事ノ被告人又ハ刑律ニ載レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ズ

第十八條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳略ニ拘ハラズ之ヲ記載スルコトヲ得ズ官廳ノ記事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ記事ハ詳略ニ拘ハラズ之ヲ記載スルコトヲ得ズ

(條例門) (新聞條例)

第十九條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル新聞紙ハ内務大臣ニ於テ其發行ヲ禁止シ若クハ停止スルコトヲ得

第二十條 新聞紙ノ發行ヲ禁止シ若クハ停止シタルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條 陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊軍艦ノ進退又ハ軍機軍略ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第二十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ公訴ヲ起ストキハ檢察官ハ假ニ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得 裁判官ハ犯罪ノ情狀ニ依リ差押ヘタル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告コ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラズシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其實ニ當ラシムベシ

第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テテ專ラ公益ノ爲ニシタルモノト認ムルト

キハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑法徵收處分ニ依ル保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其缺額ヲ完納スベシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納スルニ至ルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘレ

第二十七條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サズ又ハ第六條第七條第十一條第一項第十二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮

(條例門) (新聞條例)

又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第二十一條ニ違ヒ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ

第三十一條 第二十二條ニ違フトキハ發行人編輯人チ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人印刷人チ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
本條ヲ犯ス者ハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス

第三十三條 猥褻ノ新聞紙ヲ發行スルトキハ發行人編輯人チ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罰ヲ論ス

第三十五條 此定例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十六條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六箇月トス

第三十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除クノ外皆條例ニ依ル

○出版條例 勅令七十六號(明治二十一年十二月廿八日)

第一條 凡ソ機械會密其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其文書ヲ著述シ又ハ編輯シ若クハ圖書ヲ作爲スル者ヲ著作

ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ時々ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖書ノ出版ハ總テ此條例ニ依ルヘシ但シ雜誌ニシテ專ラ學術技藝ニ關スル事項ヲ記載スルモノハ内務大臣ノ許可ヲ得テ此條例ニ依ルコトヲ得

第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達シ得ベキ日數ヲ除キ十日前製本三部ヲ添ヘ内務省ヘ届出ベシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版スルトキハ其官廳ヨリ發行前製本三部ヲ内務省ニ送付スベシ

第五條 出版届ハ著作又ハ其相續者及發行者連印コテ之ヲ差出スベシ但非賣品ハ著作者ノミニテ届出ルコトヲ得著作又ハ其相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其由ヲ記シ發行者ヨリ差出スベシ

學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ノ届ハ其學校會社等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ差出スベシ

第六條 文書圖書ノ發行ハ文書圖書ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但著作又ハ其相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得

第七條 文書圖書ヲ印刷スル者ハ其發行ト否トヲ問ハズ印刷ノ年月日及印刷者ノ氏名住所ヲ記載シ其發行ニ係ルモノハ發行者ノ氏名住所ヲ併セテ記載スベシ

(發例門) (出版條例)

第八條 社則塾則引札諸藪ノ番付普通ノ書式アル諸種ノ用紙又ハ證書ノ類ハ第三條第六條ニ據ルヲ要セス

第九條 文書圖書ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其手續ヲ省略スルコトヲ得

第十條 一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖書ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖ヒ若シ改正増減シ又ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘタルモノハ仍ホ第三條ニ依ルベシ

第十一條 演說若クハ講義ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲ストキハ演說者若クハ講義者ヲ以テ著作トス但演說者若クハ講義者ノ許諾ヲ經スシテ出版シタルモノニ關シテハ其演說者若クハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

他人ノ講義又ハ公然ナラサル演說ハ其講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非レハ其筆記ヲ出版スルコトヲ得ス 但本項ニ違フモノハ版權條例ニ依リ其實ニ任セシム

第十二條 數人ノ著作若クハ數人ノ講義演說ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲スモノハ編纂者ヲ著作ト見做スヘシ 前條第一項ノ但書及第二項ハ本條ニ適用スベシ

第十三條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ但翻譯トハ漢文ヲ延譯スルモノヲモ包含ス

第十四條 學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其出版届ヲ爲ス者ヲ以テ著作者ト見做スベシ

第十五條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非ザレハ詳略ニ拘ハラズ之ヲ出版スルコトヲ得ス 官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ハラズ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十六條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂ナルモノト認ムル文書圖書ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其發賣頒布ヲ禁シ其刻版及印本ヲ差押ユルコトヲ得

第十七條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其文書圖書ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其印本ヲ差押フコトヲ得

第十八條 軍事ノ機密ニ關スル事項ヲ記載スル文書圖書ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ出版スルコトヲ得ス 刑事被告人又ハ刑事ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十一條 第三條ノ届出ヲ爲サスシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(條例門) (出版條例)

第二十二條 發行者自己ノ氏名住所又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ出版ノ年月日ヲ記載セサル
文書圖書ヲ發行シタルトキハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其之ヲ記載スルモ實チ以
テセサルモノハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條ヲ犯ス者罰前項ニ同シ

第二十三條 印刷者其氏名住所ヲ其印刷スル所ノ文書圖書ニ記載セズ若クハ記載スト雖モ
實チ以テセサルモノハ罰前條ニ同シ

第二十四條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セシトスルノ文書ヲ出版シタルトキハ著作發行者
印刷者共犯ヲ以テ論シ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ
附加ス圖書ニシテ其目的前項ニ同シキモノハ罰前項ニ同シ

第二十五條 猥褻ノ文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上六
月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 文書圖書ヲ寫真トナシ因テ第十八條第二十四條第二十五條ヲ犯ス者ハ各本條
ニ依テ處分ス

第二十七條 本條例ニ依リ出版ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作發行者
共犯ヲ以テ論シ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

其發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布スルトキハ發行者又ハ發賣頒布者罰前項
ニ同シ但其ノ未ダ發賣頒布セサル文書圖書ハ之ヲ沒收ス

第二十八條 第二十四條第二十五條第二十七條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ検査官ニ於テ假
ニ之ヲ差押フルコトヲ得差押フル所ノ刻版及印本ハ裁判ノ定確ヲ待テ無罪ナレハ本主ニ
還付シ有罪ナレハ沒收ス

第二十九條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ体裁ニヨリ其差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分
割レ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十條 他人ノ講義說演ヲ筆記若シハ編纂シ又ハ他人ノ著作ヲ編纂シタル文書圖書ヲ出
版シ第二十四條第二十五條ヲ犯シタル場合ニ於テ講義者演說者若クハ著作作者ニシテ其出
版ヲ承諾シタルモノナルトキハ筆記者若シハ其編纂者ト同シク其罪ヲ論ス

第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除
クソ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキ
ハ被告人ニ事實ヲ証明スルコトヲ許スヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪
ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條 此條例ヲ犯シタル者ハ刑法ノ自首輕減再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第三十三條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレタル文書圖書ヲ
最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ
起算ス

第三十四條 文書圖書ヲ印刷スルトキハ直チニ發賣頒布セスト雖モ其目的發賣頒布ニ在ル
(條例門) (出版條例)

者ハ總テ此條例ニ依ル

○版權條例 勅令第七十七號(明治十二年十月廿八日)

第一條 凡ソ文書圖書ヲ出版シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其文書圖書ヲ翻刻スルヲ僞版ト云フ

第二條 出版條例ニ依リ文書圖書ヲ出版スル者ハ總テ此條例ニ依リ其版權ノ保護ヲ受ルコトヲ得

第三條 版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前製本六部ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ內務省ニ願出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版シ版權ノ登錄ヲ得ント欲スルトキハ其由ヲ內務省ニ通知スヘシ

第五條 版權登錄ノ文書圖書ニハ其保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其記載セザル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第六條 內務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アル毎ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ 登錄ヲ經タル文書圖書ハ內務省ニ於テ時々之ヲ官報ニ揭示スヘシ

第七條 版權ハ著作ニ屬シ著作死亡後ニ在テハ其相續人ニ屬スル者トス 講義者ノ演說ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲シタル者ノ版權ハ講義者若シハ演說者ニ屬シ若

シ筆記者ニ於テ講義者若シハ演說者ノ許諾ヲ經テ出版スル時ハ筆記者ニ屬シ筆記者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

翻譯書ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

官廳學校協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ノ版權ハ其官廳學校等ニ屬スル者トス

數人ノ著作若シハ數人ノ講義演說ヲ編纂シタル文書圖書ノ版權ハ編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スル者トス但シ編纂者ト原著作者講義者演說者又ハ其相續者トノ關係ハ相互ノ約束ニ依ル

第八條 版權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第九條 版權登錄證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其再度下付ヲ內務省ニ願出ルコトヲ得但シ手数料トシテ金五十錢ヲ納ムベシ

第十條 版權保護ノ年限ハ著作ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若シ版權登錄ノ月ヨリ死亡ノ月マテ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍ホ三十五年ニ足ラザル時ハ版權登錄ノ月ヨリ三十五年トス數人ノ合著ニ係ルモノ、版權年限ハ最終ニ死亡シタル者ニ據テ計算ス

官廳又ハ學校協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書並ヒニ著作死亡ノ後ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シ三十五年トス

第十一條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ各號毎ニ其出版ノ月ヨリ起算

(條例四) (版權條例)

ス但シ其都度第三條ノ手續ヲナスヘシ

雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十二條 版權ノ保護ハ其文書圖畫ヲ改正増減シ又ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲メ變更スルコトナカルヘシ

第十三條 特ニ世ニ有益ナル文書圖畫ニシテ版權年限間ノ利益其著作出版ノ努力ト費用トヲ償ハサルノ事情アルモノハ版權所有者ノ願出ニ依リ内務大臣ニ於テ仍ホ十年間版權保護ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ

第十四條 文書圖畫ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其版權相續者ナキコトヲ確信シ之ヲ出版セント欲スルハ其由ヲ官報及ヒ東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並ニ其所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六ヶ月内ニ版權相續者ノ出サルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受テ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

第十五條 新聞紙又ハ雜誌ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論說記事又ハ小説其編輯者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ刊行ノ月ヨリ二年内ニ之ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲シ出版スルコトヲ得

其二年ヲ經ルト雖モ已ニ一部ノ書ト爲シ版權登録ヲ經タルモノハ原文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得

ルコトヲ得ス

第十六條 版權所有ノ文書圖畫ヲ偽版シタル者ハ其版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ其寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ

第十七條 偽版ノ訴ヘアリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其發賣頒布ヲ差止ムルコトヲ得但シ審理ノ未僞版ニアラスト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第十八條 僞版ニ關スル損害賠償ノ責ハ僞版者ノ相續者ニ及フ者トス

第十九條 版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ版權所有ノ文書圖畫ヲ翻譯シ増減シ註解附録繪圖等ヲ加ヘ若クハ其未タ完結セサル部分ヲ續成シテ出版スル者及ヒ本條例第十五條ニ違フ者ハ僞版ヲ以テ論ス

他人ノ講義又ハ演說ヲ筆記シ其許諾ヲ經スシテ出版スル者亦前項ニ同シ

第二十條 翻譯書ノ版權ハ其翻譯者ニ屬スト雖モ其原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ僞版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但シ其既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ證明スルモノハ此限ニアラス

第二十一條 世人ヲ欺瞞スル爲メ故ラニ版權所有ノ文書圖畫ノ題號ヲ冒シ或ハ模擬シ又ハ氏名社號等ノ類似シタル者ヲ濫合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十二條 著作人又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル文書圖畫ヲ出版シ又ハ

(條例四) (版權條四)

非賣ノ文書圖畫ヲ翻刻スルモノ亦偽版ヲ以テ論ス

第二十三條

文書圖畫ヲ寫眞ト爲シ因テ其ノ版權ヲ犯スモノハ偽版ヲ以テ論ス

第二十四條

内國ニテ版權所有ノ文書圖畫ヲ外國ニ於テ偽版シタルモノヲ輸入販賣スルモノハ偽版ヲ以テ論ス

第二十五條

偽版ノ訴ヘアリテ其ノ偽版タルヤ否ヤヲ決シ難キトキハ其訴ヘテ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ選ビ之レヲ鑑定セシムルコトアルヘシ

第二十六條

偽版ニ關スル損害賠償ノ責ハ其原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

第二十七條

偽版者及ヒ情ヲ知ルノ印刷者販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若シハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十八條

版權ヲ所有セサル文書圖畫ト雖モ之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其表題ヲ改メ又ハ著作者ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フ者ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ著作者又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十九條

第三條ノ手續ヲナサシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖畫ヲ出版スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十一條

此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレタル文書圖畫ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十二條

現行ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル版權ノ年限ハ現行條例ニ據リ計算スルモノトス

○脚本樂譜條例 勅令第七十八號(明治二十年十二月廿八日)

第一條 演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ依リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルヲ得

第二條 演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權(即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權ヲ併セ有スルヲ得)但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ興行權所有ノ五字ヲ記載スベシ

第三條 演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ附シ若クハ附セズレテ之ヲ賣渡シ讓渡スヲ得

第四條 演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經シテ未ダ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スル者亦同シ

第五條 興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿得

(條例門) (脚本樂譜條例)

○寫真版權條例 勅令第七十九號(明治二十年十二月廿八日)

第一條 凡ソ光線ト藥品トノ作用ニヨリ人物器物景色其他物像ノ真形ヲ寫シタルモノヲ寫真ト云ヒ寫真ヲ發行シテ其利益ヲ享有スルノ權ヲ寫真版權ト云フ

第二條 寫真版權ハ寫真師ニ屬シ寫真師死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但シ他ノ囑托コ係ルモノ、寫真版權ハ囑托者ニ屬シ囑托者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス囑托ニ係ル寫真ノ種板ニシテ現存スルモノハ版權所有者ニ於テ之ヲ寫真師ヨリ受取ルコトヲ得ルモノトス

第三條 寫真版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前寫真一版ニ付見本二葉及ヒ六葉ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ内務省ニ願出ヘシ但シ人物ノ寫真ハ登錄ヲ待スシテ其保護ヲ受ルモノトス

第四條 版權登錄ノ寫真ニハ其保護年限間ハ版權所有ノ氏名住所版權登錄ノ年月ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第五條 内務省ニ於テハ寫真版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アリタルトキハ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ
寫真版權登錄證書ノ取扱ヒハ總テ文書圖書ノ版權登錄證書ニ準スルモノトス

第六條 寫真版權保護ノ年限ハ登錄ノ月ヨリ十年トス

第七條 寫真版權ヘ制限ヲ付シ若シハ付セスシテ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第八條 版權ノ保護ヲ受ル寫真ヘ之ヲ複製シ若クハ機械又ハ舍密ノ作用ニヨリ多數ヲ複製シ得ヘキ方法ヲ以テ寫真術ト類似ノ模寫ヲ爲シ及ヒ寫真師ニ於テ本人又ハ其相續者ノ承諾ヲ受スシテ囑托ニ係ル寫真ヲ複製スルコトヲ得

第九條 第三條ノ手續ヲナサズシテ版權登錄ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第八條ニ違フ者ハ版權條例ニ據リ偽版ヲ以テ論ヒ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ及ヒ損害賠償ノ責ニ任セシム

第十一條 此條例ニ關スル公訟ノ期限ハ一年トシ其犯罪ト認メラレタル寫真又ハ模寫物作爲ノ時ヨリ起算シ其發賣セルモノハ最後ニ發賣シタル時ヨリ起算ス

第十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減刑再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○内務省令第一號

出版條例版權條例脚本樂譜條例並寫真版權條例ニ關スル願屆手續等左ノ通之ヲ定ム

明治二十一年一月二十四日

内務大臣伯爵山縣有朋

第一條 凡願屆書ニ署名スル者ハ各住所ヲ詳記シ實印ヲ捺シ内務大臣宛ニテ差出ス可シ

(條例四)

(出版條例、版權條例、脚本樂譜條例、寫真版權條例、願屆手續)

第二條 凡文書圖書ヲ印刷スル者ハ出版條例第七條ニ從ヒ其印刷竣功ノ年月日並住所氏名ヲ記載シ其之ヲ發行スル者ハ同條例第三條ニ從ヒ届出ノ年月日並其住所氏名ヲ記載スベシ

第三條 出版届ハ第一書式再(三)版届ハ第二書式版權登錄願ハ第三書式寫真版權登錄願ハ第四書式版權登錄再度下付願ハ第五書式ニ依ル可シ

第四條 専ラ學術技藝ノ雜誌ニシテ出版條例第二條但書ニ從ヒ同條例ニ依ラント欲スル者並第九條但書ニ依リ届出ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第六書式ニ依ル可シ

第五條 版權條例第十一條第二項ニ依リ版權登錄願ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第七書式ニ依リ豫メ二回以上出版ノ分隨意取束ヲ版權登錄ヲ願出ルコトヲ得

第六條 外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ原書ノ題名著者ノ氏名出版ノ地名及年號ヲ原字ヲ以テ認メ届書ニ添付ス可シ

第七條 版權登錄料並登錄再度下付手数料東京ニ在テハ大藏省金庫局其他ノ地方ニ在テハ國庫金出納本支所へ預ケ入レ其預證書ヲ願書ニ添へ納付ス可シ

第八條 版權登錄願ヲ許可スルトキ第八書式寫真版權登錄願ヲ許可スルトキハ第九書式ノ證書ヲ下付ス可シ但毀損紛失等ニ依リ再度下付スルモノハ本證書ノ謄本ニ其事由並下付ノ年月日ヲ裏書シ内務省ノ印ヲ捺ス

第一書式 (用紙美濃紙)

出版御届

一書名 全何冊(枚)又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚)

(自第何號 至第何號)

右者何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)何々ノ事ヲ記載(論述)セシモノニテ今般出版候條製本三部相添此段御届申上候也

年月日

道廳何縣何村何番地

發行者 氏名印

同上

著作(相續者)氏名印

第二書式 (用紙同上) 内務大臣(爵)何誰殿 再版御届

一書名 全何冊(枚)又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚)

(自第何號 至第何號)

右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)ノ書ニテ何年何月何日出版セシ處改正(増減)注解附録繪圖等)相加へ今般再(三)版候條製本三部相添此段御届申上候也

年月日

道廳何縣何村何番地

發行者 氏名印

同上

著作(相續者)氏名印

第三書式 内務大臣(爵)何誰殿 (用紙同上)

(條例門)

(出版條例、版權條例、脚本樂譜條例、寫真版權條例、願届手續)

版權登錄願

一書名 全何冊(枚)(又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚) (自第何號) (至第何號)
右今般出版致候條版權登錄被下度六部ノ定價金何圓錢大藏省金庫局(何々國庫金出納本(支)所)預證書相添此段相願候也

年月日

內務大臣(爵)何誰殿

道廳何府何郡何町何番地
版權所有者ノ氏名印

第四書式 (用紙同上)

寫真版權登錄願

一物象ノ名 何枚

右何々ノ眞形ヲ寫シタルモノニテ今般發行致度候條版權登錄被下度見本二葉並六葉ノ定價金何圓錢大藏省金庫局(何々國庫金出納本(支)所)預證書相添此段相願候也

年月日

內務大臣(爵)何誰殿

道廳何府何郡何町何番地
版權所有者ノ氏名印

第五書式 (用紙同上)

(寫真)版權登錄願再度御下付願

一書名(物象ノ名) 全何冊(枚)(又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚) (自第何號) (至第何號)

右何年月日版權登錄御許可ヲ受タル處何々ニ依リ毀損(紛失)候條版權登錄更ニ御下付被下度手數金五十錢大藏省金庫局(何々國庫金出納本(支)所)預證書相添此段相願候也

年月日

內務大臣(爵)何誰殿

道廳何府何郡何町何番地
版權所有者ノ氏名印

第六書式 (用紙同上)

學術(技藝)雜誌出版條例ニ依リ出版(并手續省略)願

一書名

右專ラ何々ノ學術(技藝)ニ關スル事項ヲ記載シ毎月何回(又ハ何々ノ日ヲ以テ)發行致スヘキモノニ候處出版條例ニ依リ出版(致シ且同條例第三條ノ日限ニ不拘其出版ノ都度御届ニ不及發行前製本ノニ相納候様)致度此段相願候也

年月日

內務大臣(爵)何誰殿

道廳何府何郡何町何番地
發行者 氏名印
同上 編輯者 氏名印

第七書式 (用紙同上)

學術(技藝)雜誌版權登錄手續省略願

一書名

(餘例四) (出版條例、版權條例、脚本樂譜條例、寫真版權條例、願届手續)

右出版條例ニ依リ出版致度旨今般(何年月日)御許可ヲ得候處自第何號至第何號何冊分一時版權登錄被下度各號六部ノ定價金何圓錢大藏省金庫局(何々國庫金出納本(支)所)預證書相添此段相願候也

三〇

年月日

內務大臣(爵)何誰殿

第八書式

版權登錄之證
書名
著作者 氏名
版權所有者 氏名
右第 號ヲ以テ版權登錄簿ニ登錄ス
明治年月日
內務省 印

同上謄本裏書書式 △印ハ朱

本證書毀損(紛失)再度下付願出ニ依リ此謄本ヲ下付ス
明治年月日
內務省 印

但謄本ハ表面省名ノ下ニ押印セス

道廳何縣何郡何村何番地
 發行者 氏名 印
 同上
 編輯者 氏名 印

第九書式

官眞版權登錄之證
物象之名 何枚
版權所有者 氏名
右第 號ヲ以テ寫眞版權登錄簿ニ登錄ス
明治年月日
內務省 印

同上謄本裏書書式

本證書毀損(紛失)再度下付願出ニ依リ此謄本ヲ下付ス
明治年月日
內務省 印

但謄本ハ表面省名ノ下ニ押印セス

○內務省告示第一號

新聞紙ニ關スル諸屆書式左ノ通相定ム

明治二十一年一月二十六日

發行屆書式 (但用紙美濃紙以下之ニ同シ)

何新聞(雜誌)發行屆

一題號

何新聞

(條例門)

(新聞ニ關スル諸屆書式)

內務大臣伯翁山縣有朋

一記載種類

政治、法律、農工商業等ノ類

一發行ノ時期

毎日、毎週、毎月何回、一箇年何回ノ類

一發行所

府縣國郡區町村番地何社(社號ナキモ)
(ハハ主ノ氏名)

一印刷所

同

一發行人

住所

氏名

何年何月生本月何年何箇月

一編輯人

住所

氏名

何年何月生本月何年何箇月

各部門ニ主任編輯人ヲ設ケルキハ茲ニ列記スベシ

一印刷人

住所

氏名

何年何月生本月何年何箇月

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候ニ付保證金何圓(若クハ國立銀行ノ預リ)管轄廳へ納置候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納ムルコト及ハサルモノ、例ハ左ノ如シ)

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候間此段御届申上候也

年 月 日

發行人

氏名

印

内務大臣某殿

題號變更届書式

何新聞改題届

何新聞改題

一何新聞

右年月日ヨリ改題候間此段御届申上候也

年 月 日

發行人

氏名

印

内務大臣某殿

種類變更届書式

何新聞記載ノ種類變更届

一現今種類

政治、法律、農工商業其他何々

一變更種類

何々

右年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納メズ發行シタルモノ更ニ保證金ヲ要スル種類ニ變更スルモノ、例ハ左ノ如シ)

右年月日ヨリ變更致候ニ付是迄納置候保證金下渡之儀ハ管轄廳へ可申出候間此段御届申

(條例門)

(新聞ニ關スル諸届書式)

上候也

年月日

內務大臣某殿

發行人變更屆書式

何新聞發行人變更屆

何新聞是迄何誰發行人ニ候處年月日ヨリ何誰ニ於テ新聞紙條例ヲ遵守シ發行致候ニ付此段御届申上候也

(發行人死去シ又ハ法律上資格ヲ失ヒタルモノ、例ハ左ノ如シ)

何新聞是迄何誰發行人ニ候處何月何日死去(若クハ法律上ノ資格ヲ失ヒ)候ニ付何誰假發行人ノ名義ヲ以テ引續發行致居候處年月日ヨリ何誰ニ於テ(以下前例)

年月日

舊發行人 氏名 印

(發行人死去ノキハ其遺族或ハ同等ト新發行人ト連署ス)

新發行人 氏名 印

內務大臣某殿

編輯人印刷人變更屆書式

何新聞編輯人(又ハ印刷人)變更屆

舊編輯人(又ハ舊印刷人)氏名

住所

新編輯人(又ハ新印刷人)氏名

何年何月生本月何年何箇月

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

年月日

發行人 氏名 印

內務大臣某殿

時期變更屆書式

何新聞發行時期變更屆

一何年何月何日發行第何號マテハ隔日(若クハ毎月一回)又ハ何々々(若クハ毎週)又ハ何々々(若クハ毎日)又ハ何々々(若クハ毎週)右之通變更致候間此段御届申上候也

年月日

發行人 氏名 印

內務大臣某殿

發行所變更屆書式(印刷所變更屆書式)モ亦本例ニ依ル

何新聞發行所變更屆

一舊發行所

何社(社號ナキモノ)ハ戶主ノ氏名

府縣國郡區町村番地

(條例門)

(新聞ニ關スル諸屆書式)

一新發行所

何社(社號ナキモノ)
(ハ月主ノ氏名)

三六

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

年月日

發行人 氏名 印

内務大臣某殿

○請願規則(明治十五年十二月十八日)
(第五十八號布告)

請願規則左ノ通制定ス

第一條 人民各自ノ利害ニ關シ行政上ノ處分ヲ請願セントスル者ハ左ノ條規ニ依ルベシ

第二條 郡區長及戶長職務内ノ事件ハ郡區長戶長ニ請願スヘシ郡區長戶長ノ指令ニ服セサル者ハ府知事縣令ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

府知事縣令警視總監職務内ノ事件ハ府知事縣令警視總監ニ請願スヘシ府知事縣令警視總監ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

各省卿職務内ノ事件ハ其卿ニ請願スベシ其指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

第三條 凡ソ請願スル者ハ書面ヲ以テスヘシ口陳スルコトヲ許サス官署ノ求メニ應シテ開

陳スルハ此限ニ在ラス

第四條 請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ戶長ニ請願スル者ヲ除クノ外住所

戶長ノ與印ヲ受クヘシ其連名ヲ以テ請願スル者ハ各人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ其總代又ハ請願發起人アルトキハ其由ヲ肩書スヘシ戶長ノ與印ヲ受クルハ前ノ例ニ同シ

第五條 府縣郡區總代又ハ結社總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得ス但シ成法ニ制定セラレタル會社ハ此限ニ在ラス

第六條 請願書ヲ上呈スルニハ代人ヲ以テスルコトヲ許サス數人連名スル者ハ請願人中ニ於テ三名以下ノ總代人ヲ撰ビ之ニ委託スヘシ

第七條 請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得

第八條 上司ニ呈スル請願書ニハ其經歷スル所ノ官署ノ指令書ヲ添フヘシ

第九條 請願書ノ郵達ヲ得クル各省若シ其主務ニ非サルトキハ直チニ之ヲ主務省ニ移シ其由ヲ請願人ニ通知スヘシ

第十條 太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルトキハ主務省ニ付シテ處分セシムヘシ

第十一條 太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ更ニ請願スルコトヲ得ス又裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第十二條 請願ヲ名トシテ行政處分ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 凡ソ事ノ建白ニ屬スヘキ者ハ人民各自ノ利害ニ係ルヲ以テ請願スト雖モ受理セ

(條例門) (請願規則)

三七

- 第十四條 行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ請願ヲ受理セス
 - 第十五條 請願人第二條ノ順序ヲ經ス及第三條第四條第五條第六條第八條第十一條ノ規程ニ循ハサル者ハ受理セス
 - 第十六條 請願書ニ侮辱誹毀ノ語ヲ用ヒ及第二條ニ示ス所ノ官署ノ外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セス
 - 第十七條 條規ニ違ヒ受理セラレサルノ請願ヲ以テ強テ受理ヲ請フ者ハ十一日以上一年以上以下ノ輕禁錮ニ處ス其連名請願スル者ハ情ヲ知ラサル者ヲ除ク外各人均ク罪ヲ論ス其發起人ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス若シ請願人ノ外欺唆者アルトキハ發起人ト同ク罪ヲ論ス 其嘯聚ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス
 - 第十八條 請願人官吏ニ對シ抗論シ喧擾ニ涉ル者ハ十一日以上一年以上以下ノ輕禁錮ニ處ス
 - 第十九條 請願書ハ新聞紙其他ノ文書ヲ以テ公行スルコトヲ許サス犯ス者ハ罪前條第一項ニ同シ
 - 第二十條 請願ニ由リ人ヲ誣告スル者ハ刑法ニ依テ處分ス
- 右奉 勅旨布告候事

○請願規則ニ依リ差出書類用紙制限(明治十六年一月十七日 內甲第ニ號告示)

明治十五年(十二月)第五十八號布告ニ據リ請願スル書面ハ美濃紙ヲ用ヒ正副二通宛差出ス
 べきモノトス 但シ其書面ヲ却下スル場合ト雖モ副書ハ留置シコトアルヘシ

禁令門

◎諸規則諸取締ノ部

○遺失物取扱規則(明治九年四月十九日 第五拾六號布告)

- 第一條 凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヲ覺ラヌ及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルヲ證明スルニ於テハ直チニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルヲ得ス
- 第二條 凡遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ壹年内其主ナキトキハ之ヲ得者ニ給ス(刑法第三百八十五條參看)
- 第三條 凡遺失者ハ其遺失スル物品ノ模樣員數並ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈ク詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ヘシ但得者ヨリ其返還ヲ得ル時モ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ
- 第四條 凡遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルヲ得且得者ニ報勞ノ爲メ其物價百分ノ五ヨリ少ナカラス貳拾ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價額ヲ爭フトキハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム
- 第五條 凡遺失物ヲ得ルモ物品盜賊ニ係ルモノハ直ニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止メ

(禁令門)

(諸規則諸取締之部)

(遺失物取扱規則)

其費用ノヨリ償ハシム

第六條

官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得ルモノハ之ヲ官ニ送ルヘシ其主分明ナラサルモノハ地主ノ所有ニ歸スヘシ若シ借地人其借地ヨリ掘得タルトキハ之ヲ地主ト中分セシム(十四年第二號布告ヲ以テ)
(但書トモ全條ヲ改正ス)

但盜賊ニ係ルモノハ此限ニアラス

第七條

凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難シシテ其主分明ナラサル時ハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第八條

凡家畜ノ類他所ニ逃走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルヲ第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スル時ハ律ニ照シテ處分ス

第九條

凡逃走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ若シ八日內其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第十條

凡遺失物及ヒ逃走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルヲ私物ニ異ナルヲナシ

第十一條

凡警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハス遺失物ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ送リ全ク其主ニ還附シ其主ナケレハ之ヲ官ニ沒ス

第十二條

凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官ニ沒ス

第十三條

凡公私債證書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條

凡遺失物及ヒ逃走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送還セス或ハ物主ノ其主タルヲ證明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ並ニ律ニ照シテ處分ス

○遺失物取扱規則中埋藏物ヲ掘得ル者處分方(明治十年九月二十七日)
(內務省甲第貳拾號布告)

明治九年四月太政官第五拾六號ヲ以テ遺失物取扱規則中第六條埋藏物掘得ル者處分ノ備公布相成候處右物品ノ中古代ノ沿革ヲ徵スルモノモ有之候ニ付處分前一應當省ヘ届出檢査ヲ可受其品ニヨリ相當代價ヲ以テ購求シ官私中分ニ係ルモノハ其價格ノ半高ヲ發掘人ヘ下附シ該物品ハ永ク博物館ヘ陳列可致候條此旨相達候事

但物品ハ先ツ掘出地名及形狀等ヲ詳記シ及ヒ撰寫スルモノヲ郵送シ其見込アルモノニテ遞送方相達候後本文ノ通可取計候事刑法第三百八十六條參看

●盜難ニ罹リタル物品處分ノ儀ニ付長崎縣伺十六年八月三十日

爰ニ數種ノ物品盜難ニ罹リタル者數日ヲ經テ其物品ヲ拾得又ハ他人拾得テ之ヲ届出タル場合ニ於テ司法警察官ハ本犯離タルヲ知ルニ由ナク到底就轉ノ目的ナクシテ假渡ヲ爲スモ結局申主ノ迷惑ニ相成ル可クト思料スルカ又ハ物品數十日ヲ經過スレハ腐敗ノ恐アル者ト認ムルキハ其物品ノ數及ヒ價格品類等詳細登錄シ置キ之ヲ他日ノ埋藏物ト爲シ物品ハ直ニ申主ヘ下渡シ候テ不苦哉右差掛リタル事件モ有之候條至急御指令相成

(禁令門) (諸規則部取部) (遺失物取扱規則)

度此段相伺候也

指令 十六年九月十九日
伺之通

○古物商取締條例(明治十六年十二月二十八日
第五十號 布告)

- 第一條 古物商トハ古道具、古本、古書畫、古着、古銅鐵、潰金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ
袋物屋小間物屋監甲屋時計屋飾屋箔打屋烟管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據スヘシ
- 第二條 古物商ハ管轄廳(東京府ハノ)免許ヲ受クヘシ
- 第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及ヒ賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ
- 第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但身元詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官若シハ巡査ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス
- 第五條 十五年未滿ノ者白痴風癪者及ヒ、傭人(傭主ノ家ニアル者)ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人傭主又ハ身元詳ナル者其證人タルトキハ此限ニアラス
- 官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却レ得ヘキコトヲ證明スル證人貳名以上アルニ非レハ之ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サルコトアルヘシ

- 第六條 古物商ハ營業者タルト否トヲ問ハズ盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居室ノ外ニ於テ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス
- 第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込メタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡シ讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スコトヲ得ス
- 第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取りタルトキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ
- 警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ検査シ之ヲ差押フルコトアルヘシ但費用ハ届入之ヲ擔當スヘシ
- 第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ
- 第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルトキ若クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ若シ届出テスシテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

(禁令門)

(諸規則諸取締之部)

(古物商取締條例)

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直チニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ檢査スルコトアルヘシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル古物商ハ管轄廳（東京府ハ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得）

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ

一 物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ其買主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形状（微細類ヲ云フ）價格年月日時ヲ簿冊ニ記載スヘシ

二 日出前日没後ハ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス

三 營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ其物品ヲ原狀ノ儘五日間保存スヘシ

四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形状價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルトキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 前條ニ違背シタル者ハ圓三圓以上三百以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ直ニ之ヲ納完セシム若シ納完セサル者ハ留置セラルコトアルヘシ

第十九條 古物商一年内ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取り又ハ交換シタル物品贓物ニ係ルモノハ營業者ニ依ルト否トナ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徴シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後官没ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ傭人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事（東京府縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツヘシ）

●古物商取締條例ノ儀ニ付前橋始審裁判所檢事ヨリ司法省ヘ伺（十一月十七日）

明治十六年第五拾號公布古物商取締條例拾八號特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルハ直ニ之ヲ納完セシムトアリ若

（禁令門）

（詔規則審取部之部）（古物商）

シ納完セサル者ハ裁判確定ノ後ハ直ニ刑法第二十七條ニ照シ換刑ノ處分ニ及ヒ可然哉
又若シ納完セサル者ハ犯情ニ依リ其換刑ノ處分ニ及フ迄ノ時間檢察官ニ於テ留置スル
ヲ得ヘキ儘ト心得可然哉此段相伺候也
指令 十七年三月十四日

何之趣留置處分ハ行政上ノ處分ニ屬スルヲ以テ裁判確定ノ後納完セサルモノハ司法
警察官へ交付スヘキ儘ト心得ヘシ

●古物商取締條例疑義ノ件ニ付新潟縣ヨリ司法省へ請訓(二月二十三日)

第一條古物商取締條例第四條但書ニ身元詳ナル者其証人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查ノ
認可云々トアリ爰ニ鹿兒島縣或ハ宮崎縣ノ身元詳ナラサル者新潟縣へ來リ或ル古物
商者ニ就キ物品ヲ賣ラント云フ其商者ハ近隣ノ某ヲ連來リ賣主トハ會テ面識ナキ者
ヲ証人ニ立テ買取タルトキハ其証人ノ効力ナキ者ト心得可然哉

第二條 同條例第六條前略ス單ニ警察官ノ許可ヲ受ケヘシトアリテ証人等ノ文字ナキ
ヲ以テ視ルトキハ四條ト六條ハ其精神ヲ異ニスル勿論ノ處警察官ノ許可ヲ受ケスニ
テ前條ノ如ク賣主ト面識ナキ者ヲ証人ニ立テ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏シタ
ル後其者盜罪詐欺取財ノ罪及刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受タルノ判
然シタルトキハ違犯者ト心得可然哉

右ハ古物商取締條例ヲ御頒布相成タル御旨意ノアル處ハ不正品ヲ天下ニ自由ナラシメ
サルニ據ルモノナルヘシ然ルニ同條例第四條ト第六條ノ解釋ニ付種々ノ論有之何分疑義
ヲ生シ候條仰御内訓候也

内訓 十八年二月十二日
請訓ノ趣左ノ通心得ヘシ
第一條 見解ノ通タルヲ以テ古物商取締條例第四條ノ違犯者トシテ處斷スヘキモノトス
第二條 物品ヲ收受スル時ニ當リ至ク同條例第六條ニ列記シタル犯人タルヲ知ラ
サルハ單ニ第四條ノ違犯者トシテ處斷ス可キ者トス
右及内訓候也

○質屋取締條例(明治十七年三月二十五日)

第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳東京府ハノ免許ヲ受クヘシ

第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ受クヘシ

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物、貸金、質入主及質入受戻入換ノ年月日ヲ調査スル
ニ差支ナキ様記載スヘシ

但証人ヲ要スルトキハ質入主及證人ノ實印ヲ捺捺セシメ置クヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス

但身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴瘋癲者及傭人傭主ノ家ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス

但父母後見人傭主又ハ身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其質入シ得ヘキコトヲ證明スル
證人二名以上アルニ非サレハ之ヲ質物ニ取ルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク質物ヲ取戻サル、コト
アルヘシ

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物
品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

(禁令門) (諸規則諸取締之部) (質屋) 四七

第七條 贓物ノ疑アル品物又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル者アルトキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡査ニ密告スヘシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品代價及買主ヲ調査スルニ差支ナキ様流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルトキ若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十二條 質物彙帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ質屋ノ店舖ニ臨ミ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此條例ヲ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ傭人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府縣令ニ於テ便宜取扱ケ内務卿ニ届出ヘシ

○銃砲取締規則(明治五年正月二十九日第貳拾八號布告十七年第三十一號布告ヲ以テ火藥取締規則制定ニ付彈藥ノ販ハ消滅ス)

第一則

一 大小銃並彈藥類商賣ノ儀ハ府縣共定員商賣ノ取扱致間取右定員ノ商賣ハ其地方管廳ニ於テ精選ノ上免許狀可差遣事八年第百十一號公議ヲ以テ内務省管理ニ

免許商賣ノ定員

一 府下 各五員

一 縣下 各三員

一 鎮臺本分營下 各一員

但府縣廳下開港場等ニアルハ別ニ設ケス

一 開港場 各五員

右免許差遣候商賣ノ姓名住所等内務省ヘ届クヘキ事(同上ニ付東京武庫)

第二則

(禁令門) (諸規則諸取締之部) (銃砲)

一 免許商人タリトモ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ窃ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヨリ官ノ免手形ヲ受取其員數ヲ照シ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳へ願出免手形ヲ受ケ其員數ヲ以テ買取可申事同上但書

一 免許商人ハ陸海軍准士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃並ニ其彈藥類ヲ買入レントスルハ買入願書ニ其賣主ノ連署ヲ爲サシムヘキ事十三年四月八號布告ヲ以テ本項ヲ増加ス

第三則

一 免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥類ハ多少ヲ論セス買取賣渡共其主人ノ姓名其物品ノ員數等明細附記シ軍用ノ者ハ免手形相添毎月其管廳へ可差出其廳ヨリ毎月十日ヲ限り内務省へ差送可申事八年四月十一號公達ヲ以テ内務省管理管ニ付管轄領區ヲ内務省ト改メ但書ヲ除去ス

第四則

一 彈藥ノ備ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノヨリ計リ勝手ノ場所へ差置間敷兼テ其地方管廳へ願出差圖ヲ受ケ相圍可申事同上但書

第五則

一 華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲並彈藥類ヒストールニ至ル迄私ニ貯蓄不相成就テハ是迄銘々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管廳ニ持出別紙銃砲改刻印式ノ通番號官印ヲ受可申他人へ譲リ與ヘ候節ハ第二則ノ手續ニ從フヘシ同上(持出)ノ下但彈藥買入致シ度者モ亦二則ノ通ケルヘシ

銃砲改刻印ノ式

干支何番

何府縣同上ニ付何府縣ノ上(武庫司或ハ)

右所持ノ人名番號等逐一書記シ置届出可申事同上ニ付(置)ノ下四字届

免許ノ銃類

一 和銃四文目八分玉以下

一 各國諸獵銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレトモ霰彈ヲ用ニルモノハ之ヲ許ス

右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其管廳へ届出其廳ヨリ内務省へ差出可申
或一軍川獵用銃ノ差別難相辨者官へ尋出候得ハ檢査ノ上免許ノ證印ヲ据ニ可相渡事同上(武庫司)ノ下(東京武庫司)ヲ(内務省)トシ(可中)ノ下(勅書)ヲ附ス

第七則

第六則 但該規則ハ十年第十一號布告ヲ以テ改正ニ付掲ケス

一 銃砲彈藥下々ニ於テ獵リニ製造不相成候尤モ新ニ奇巧便利ヲ發明シ爲試製作致度者ハ其管廳へ相願管轄領區へ届出免許ヲ可受事

但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ鎮臺ヨリ武庫司へ差送り檢査ヲ遂ケ採用可相成分ハ西洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可有之事

是迄銃砲並彈藥類賣買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記シ管轄廳へ爲指出其廳

(禁令門)

(罰規則取締之部) (銃砲)

ヨリ内務省へ可差出事(八年第百十一號公達ニ依リ(其總ヨリ)ノ下(東京武庫司)ヲ(内務省)トシ但書ヲ除ク)
右之通ニ候事

○銃砲取締規則違背ノ者處分方(明治五年九月二十三日(第二百八十二號布告))

銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲彈藥ヲ竊ニ所持シ且取扱致候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上ケ更ニ五拾錢ノ過料可申付候事

但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金ヲ可被下候事

免許ヲ得スシテ銃砲彈藥ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以内ノ過料可申付事(七年第百三十號布告ヲ以テ但書共追加)

但書同前

右取上候品(東京大阪ハ武庫司其他ハ所管ノ鐵庫)可差出事

○外國人ヨリ銃砲買入手續(明治五年六月(第百八十五號布告))

銃砲取締規則中第二則開港開市場ニ限リ自今左ノ通可取扱事

一開港開市場ニ於テ免許商人ノ證銃砲(並彈藥)類外國人ヨリ買入度願出候節ハ其管轄

廳ニ於テ嚴重取調一旦管廳へ買上ケ然ル後願出ノ商人へ可相渡賣拂ノ節モ同様管廳ニ

於テ致取引可遣事

但免許商人ヨリハ買入賣渡共其都度々々員數書ヲ以テ開港開市場管廳へ願出處置ヲ可受事

○武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則(明治十三年三月廿五日(第百二十二號使府縣(東京府)陸海軍武官所有ノ軍用銃(ナ除ク)へ達十四年(第百二十二號使府縣(東京府)陸海軍武官所有ノ軍用銃(ナ除ク)ニ依リ管轄廳ノ検査番號ヲ受來候處自今准士官以上ノ武官ハ左ノ規則ニ據ルヘシ此旨相達候事)

第一條 陸海軍省ニ於テハ武官所有ノ軍用銃並其彈藥類買入ノ節交付スヘキ買入免狀ヲ定メ置キ豫メ其印影等照會ノ爲メ使府縣廳(東京府警(視本署))へ通知スヘシ

第二條 武官軍用銃(並其彈藥)類ヲ買入ル、時ハ前款ノ免狀ヲ受取之ヲ該地ノ免許商人ニ交付シテ其買入ヲ爲スヘシ

第三條 武官轉任又ハ免官スル時ハ其奉職中所有セシ銃器ハ其銃名(檢印アラハ其番號)ヲ記載シ使府縣廳(東京府警(視本署))へ届出常則ニ從ヒ其取締ヲ受クヘシ

第四條 武官奉職中所有ノ軍用銃及ヒ其彈藥類ヲ人民へ賣渡サントスル時ハ買受人ヨリ其使府縣廳(東京府警(視本署))へ差出スヘキ願書へ連署スヘシ

○火藥取締規則(明治十七年十二月廿七日(第百三拾壹號布告))

第一章 總則

(銃令門) (審規則部) (火藥)

第一條 凡火藥劇發火藥(掃火藥ナイト、ロドリセリン、ダイ)ハ人民ニ於テ製造スルヲ禁ス
 但烟火マツチノ類ハ此限ニ非ス七條以下參看

第二條 火藥類(火藥劇發火)ノ賣買營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳(東京府ハ)ニ願出免
 許鑑札ヲ受ク可シ

但營業者ハ一管内ニ二十五人以内トス

第三條 火藥類ハ營業者ニ限り陸軍海軍兩省ヨリ其貯藏品ヲ拂下ク可キモノトス

第四條 管轄廳(東京府ハ)ニ於テ火藥類ノ檢査ヲ必要ト認ムル時ハ營業者タルト否トチ
 問ハス警察官チシテ之ヲ檢査セシムルコトアル可シ

第五條 戰時若シハ事變ニ際シテハ陸軍卿海軍卿ハ火藥類ノ拂下ケヲ停止シ内務卿ハ其賣
 買運搬ヲ停止スルコトアル可シ

第六條 火藥類ハ官許ヲ得ルニ非サレハ日出前日没後ニ於テ賣買運搬其他荷造等ヲ爲ス可
 カラス

第二章 賣買

第七條 營業者ハ毎月買受ケタル火藥類ノ種類數量ヲ記シ証書アリハ翌月十日迄ニ所轄警
 察署ニ届出可シ

第八條 營業者ニ非シテ所有ノ火藥類ヲ賣ントスル者ハ營業者ニ之ヲ賣渡ス可シ營業者
 ハ其賣渡證書ヲ取り候ク可シ

第九條 營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工烟火其他職業用ニ限り火藥類ヲ賣渡ス可キモノトス
 但十六歳未満若シハ白痴風癪ノ者ニハ之ヲ賣渡スコトヲ許サス

第十條 火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若シハ烟火製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者
 ニ示シ銃砲用ノ爲メニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍軍人
 ノ射的用具ニ供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ
 但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

小銃用	火藥	三百目	雷管	五百個
船舶設備銃砲用	大砲一門ニ付	火藥	五十發分	導火管類
	小銃一挺ニ付	火藥	百發分	雷管
烟火製造用	火藥	五貫目		七十五個
				百五十個

坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ヲ買受ントスル者ハ其旨趣及種類數量並ニ使用ノ場
 所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ

第十一條 營業者ハ買受人ノ免狀ヲ檢シ若シハ許可證ヲ受取り火藥類ヲ賣渡ス可シ
 但第十條ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

第十二條 營業者ハ毎月火藥類買受人ノ住所氏名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記シ
アレンハ之翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第三章 貯藏

第十三條 火藥類ハ火藥二百目雷管導火管類五百個迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スルコト

(禁令門) (簡規則關取部之部) (火藥)

ヲ得

營業者ハ前項制限ノ外火藥拾貫目劇發火藥壹貫目雷管導火管類壹萬箇迄烟火製造人ハ火藥五貫目劇發火藥五百目迄ハ管轄廳(東京府ハ)ノ許可ヲ受ケ倉庫ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得其數量ヲ超ル時ハ火藥庫ノ外之ヲ貯藏スルコトヲ許サス火藥五百貫目以上劇發火藥五十貫目以上ハ火藥庫ト雖モ之ヲ貯藏スルコトヲ許サス

第十四條 火藥類ヲ一庫内ニ貯藏スル時ハ其種類毎ニ不燃質物ヲ以テ之ヲ區畫ス可シ

第十五條 火藥庫ヲ建設セントスル者ハ其位置並ニ建設ノ方法書及近傍ノ地圖ヲ添ヘ管轄廳(東京府ハ)ニ願出許可ヲ受ク可シ

第十六條 火藥庫ハ皇居離宮ノ區域ヲ距ル十町以内ノ地ニ建設スルコトヲ許サス

第十七條 火藥庫ハ皇陵社寺公園家屋火ヲ取扱フ場所宅地國道縣道鐵道電信柱涼船ノ通スヘキ河湖及他ノ火藥庫境界トノ中間ニ五十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ

第十八條 火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ家根ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヒ内部ニハ鐵釘石瓦ヲ露ハヤス窓ニハ透明ノ硝子ヲ用フ可ラス又避雷針ヲ設ケ庫外ノ周圍ニ二間以上ヲ隔テテ高サ六尺以上ノ土堤ヲ築キ其入口ニ火藥庫ト書シタル標木曲尺六尺以上ニモナク建ツ可シ

第十九條 火藥庫ヨリ十四間以内ノ地ニ材木草秣其他燃質物ヲ蓄積ス可ラス又五十間以内ニ於テ火ヲ取扱フ建造物ヲ設ケ若シハ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ若シハ發火質ノ物品ヲ蓄積ス可ラス

第二十條 坑業土工其他多量ノ火藥類ヲ要スル爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ケントスル者ハ

第十七條ニ揭ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ據リ管轄廳(東京府ハ)ニ願出許可ヲ受ク可シ但貯藏ノ數量ハ火藥貳百貫目劇發火藥三拾貫目ヲ超ルコトヲ許サス

第二十一條 烟火製造所ハ家居若シハ火ヲ取扱フ場所ヨリ十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ又五貫目以上ノ火藥類ヲ置ク可ラス

第二十二條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスル時ハ其種類數量運搬ノ日時場所及水陸通路ノ名稱ヲ記レ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ携帶シ運搬畢ラハ直ニ之ヲ返納ス可シ若シ其警察署管轄外ノ地ニ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ納ム可シ

第二十三條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スル時ハ鐵釘鐵輪ヲ用ヒサル木製銅製若シハ亞鉛製ノ器ニ入レ其外部ハ繩包若クハ繩卷ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗(陸路ニハ曲尺縱二尺横二尺五寸水路ニハ曲尺縱三尺五寸横五尺)ヲ建テ護送人ヲ附ス可シ但船積スル時ハ明治六年八月第貳百九拾貳號布告危害品船積法ニ從フ可シ

第二十四條 火藥類ヲ運搬スルニハ火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全ナル場所ヲ撰ヒ看守人ヲ附ス可シ

第五章 罰則

第二十五條 私ニ火藥類ヲ製造シ若シハ販賣シタル者ハ軍用品ニアラスト雖モ刑法第百五十七條ヲ適用シ私ニ所有シタル者ハ刑法第百六十條ヲ適用ス

(禁令門) (諸規則總取締之部) (火藥)

第二十六條 刑法第五百五十八條第五百五十九條第六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル者モ亦之ヲ適用ス

第二十七條 私ニ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第四條ノ検査ヲ拒ミ又ハ第五條ノ停止ヲ犯シテ賣買運搬シ第九條第十條第十

一條第十三條第十九條ニ違犯シ又ハ第二十條ノ制限ヲ超テ貯藏シ又ハ第二十一條ニ違犯

シタル者又ハ營業者賣買ヲ除クノ外火藥類ヲ讓受若シハ讓渡シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第六條第七條第八條第十二條第十四條第十八條第二十二條第二十三條第二十

四條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 營業者此規則ニ違犯シタル時ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止シ又

ハ停止スルコトヲ得

○附則

一從前免許ヲ得タル火藥製造人ハ來ル明治十八年二月廿八日迄其營業ヲ差許シ又同日迄ニ火藥製造諸器械及火藥類ノ現貯藏數量ヲ記シ管轄廳(東京府ハ)ニ願出ルニ於テハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ買上ク可シ

一從前免許ヲ得タル彈藥免許商人ハ來ル明治十八年二月廿八日迄火藥賣買營業ヲ差許シ從前免許ヲ得タル烟火製造所ハ右同日迄其製造ヲ差許ス又從前火藥類ヲ貯藏シタル者ハ來

ル明治十八年一月卅一日迄其貯藏ヲ差許ス其日限ヲ過ルトキハ總テ此規則ニ從フヘシ

火藥類賣買ヲ免許シ火藥庫設置ヲ許可セシキ届出方(明治十八年一月六日第壹號警)

明治十七年十二月第三十一號布告ヲ以テ火藥取締規則被定候ニ付テハ管轄廳ニ於テ届出方左ノ通可相心得此旨相達候事

一火藥類ノ賣買營業ヲ免許シ又ハ火藥庫設置ヲ許可シタル時ハ營業者ノ住所族籍氏名及

火藥庫設置ノ地方番號ヲ記シ内務陸軍海軍ノ三省ニ届出ヘシ

一營業者ノ賣買シタル火藥類ノ種類數量ヲ統計シ毎年一月内務陸軍海軍ノ三省ニ届出ヘシ

○火藥庫圍線規則(明治九年九月十八日 第百二拾號布告)

第一條 火藥庫周圍近接ノ地ヲ分テ二圍トシ火害ヲ豫防スルコト左ノ如シ

第一圍 火藥庫牆壁外十四間以内ノ地ニ於テ諸種ノ建物ヲ設ケ材木草秣其他總テ燃質物

ヲ蓄積スルコトヲ禁ス

第二圍 火藥庫牆壁外二十八間以内ノ地ニ於テ火ヲ取扱フ建物ヲ設ケ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ及ヒ發火質ノ物品ヲ蓄積スルコトヲ禁ス

第二條 全國火藥庫所在ノ地名(地名表略之)

○爆發物取締罰則(明治十七年十二月二十七日 第三十二號布告)

(禁令門) (罰則取締部) (火藥) (火藥庫圍線)

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體産財ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止ル者ハ重懲役ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隠避セシメ又ハ其罪證ヲ濯滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス

但十六歳未満ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖用未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

○石油取締規則 (明治十六年二月十五日)

(第六號布告)

明治十四年八月第四拾號及ヒ同年九月第五拾號布告石油取締規則左ノ通改定ス (十六年第十行期限ハ追テ布告アルマテ延期ノ旨ヲ布告ス仍テ但書ヲ除去ス)

第一條 石油ヲ分テ二種トシ閉塞發焰試驗法ヲ用ヒ攝氏驗温器三十度 (華氏八十六度) 以上ノ温度ニ達セサレハ發焰セサルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ發焰スルモノヲ第二種トス

第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療製藥調劑及ヒ物理學化

(禁令門) (諸規則諸取締之部) (爆發物)

學工藝上ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス

第三條 石油營業者ヲ分テ擴張者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス其營業者ハ都テ管轄廳
東京府下
ハ警視廳ノ許可ヲ受クヘシ

但二類以上兼業スルトキハ別ニ其許可ヲ受クヘシ

第四條 石油ノ種類ハ内務卿ノ必要トスル地方ニ於テ検査人ヲシテ之ヲ検査セシムヘシ
石油ハ検査済ノ證アルモノニアラサレハ之ヲ販賣スルヲ許サス

但擴張者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限ニアラス

第五條 検査済ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五石以内第二種ノ石油五
斗以内トシ容器ハ湧出ノ處ナキ不燃質物ニ限ルヘシ

第六條 石油營業者前條制限外ノ石油並ニ検査未済ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製所
ノ構造方ハ都テ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限り
販賣スルヲ得ルモノトス

第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其職員及需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳
記シタル書付ヲ取り置キ一年間保存スヘシ

但販賣時限ハ日出ヨリ日没マテトス

第九條 石油ヲ運搬スルトキハ其石油タルコトヲ表記スヘシ

但其積卸ニ必要ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置クヘカラス
第十條 此規則ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

○街路、乗合馬車、營業人力車、及宿屋取締規則標準(明治十九年六月十四日
内務省訓令第十七號廳府縣)

乗合馬車人力車宿屋ノ營業及街路ニ於ケルヤ警察上各其取締ノ方法ヲ設ケサル可ラス而シ
テ民度ノ高低土地ノ都鄙ニ由リ其間自ラ寬嚴ノ差ナキヲ得サルモノナレハ必スシモ各地並
一ノ制ヲ要セスト雖也大體ニ於テ其則ヲ取ル所ナカルヘカラス依テ今般街路乗合馬車營業
人力車及宿屋取締ノ件ニ付別冊ヲ編制シテ其標準ヲ示ス各地方ニ於テ各其標準ノ趣旨ニ從
ヒ便宜増損規則ヲ設ケ本省ノ認可ヲ經テ施行ス可シ

(別冊)

○街路取締規則標準

第一章 通則

第一條 街路ト稱スルハ道敷及道敷ニ沿ラタル下水並橋梁トス

第二條 本則ハ市街ノ道路ニ適用スヘキモノトス

第三條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠ルトキハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徴收ス
ヘシ

(禁令門)

(賭規則取締部) (街路)

第二章 街路ノ安寧及保存

- 第四條 街路ニ建物、軒檐、旗柱、招牌、物干等ヲ設ケ或ハ出スヘカラス
- 第五條 左ノ諸件ニ係ルモノハ街路ニ出スコトヲ得ヘキモノトス
 - 一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以内
 - 二 軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺、六尺以上ハ一尺五寸以内
 - 三 日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内
 - 四 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内
- 第六條 左ノ事項ハ其場ノ圖面ヲ添ヘ管轄廳ニ願出允許ヲ受クヘキモノトス
 - 一 街路ニ床店、葦笠張ヲ設クル事
 - 二 街路ニ樹木ヲ植エ又ハ街燈ヲ建ル事
 - 三 街路ニ柵欄支柱ヲ設ケ又ハ齒止石ヲ置ク事
 - 四 街路ニ華表、碑表及指道標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スル事
 - 五 街路ニ日塗土置場ヲ設クル事
 - 六 工事ノ爲メ一時街路ニ竹、木、土、石類ヲ置キ或ハ板圍繩張、足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル事
 - 七 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ノ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スル事
 - 八 一時街路ニ舞臺(神佛祭典)、小屋掛(歲市草市)及店飾ヲ設クル事

- 九 街路ニ神輿山車又ハ手踊屋臺ヲ出ス事
- 十 神佛送迎ノ爲メ街路ニ飾物ヲ出シ又ハ奉納物ヲ牛車ニテ運搬スル事
- 十一 街路ニ消防具其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ置ク事
- 十二 工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スル事
- 十三 車馬通行停止ノ傍示アル場所ニ車馬ヲ出入スル事
- 第七條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタル者ハ直ニ原形ニ復スヘシ
- 第八條 街路ニ出タル軒檐ニハ軒樋及堅樋ヲ設クヘシ其堅樋ハ街路ノ地盤ニ設クルコトヲ得ス
 - 但檐溜ノ下水ニ落ルモノハ此限ニアラス
- 第九條 街路ニ沿フタル宅地ニシテ奥行九尺以上ノ空地アル場所ハ其模様ニ依リ道敷ノ境界ニ牆塀ヲ設クヘキモノトス
- 第十條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置クトキハ鐵鎖其他強固ナル繩索ヲ以テ之ヲ纏束シ又薪炭其他ノ物件ヲ堆積スル者ハ頭仆セサル様堅牢ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 第十一條 街路ニ沿フタル建設物及樹木等崩壞、頭仆ノ虞アルモノハ速ニ修理、撤却若クハ扶植伐採スヘシ
- 第十二條 街路ニ竹、木、土、石類ヲ置クトキハ標識ヲ設クヘシ
- 第十三條 運搬中ノ建物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クルハ路傍ニ片寄セ標燈ヲ

(禁令門) (諸規則施行細則之部) (街路)

掲クヘシ

第十四條 街路ノ井戸ニシテ通行ノ妨害ヲ爲スヘキモノト認ムルトキハ地並ニ堅牢ナル蓋ヲ以テ之ヲ覆ハシムヘシ

第十五條 道路、橋梁、溝渠、下水ヲ毀損壅塞シ、街路樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス

第十六條 制札、指道標、便所及牆壁等ヲ毀棄汚損シ又ハ樂書、貼紙ヲ爲スヘカラス

第十七條 街路ニ家畜ヲ放置シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十八條 街路ニ商品、薪炭、荷車其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置クヘカラス

第十九條 街路ニ於テ荷造木挽其他ノ作業ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第二十條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲ爲スヘカラス

第二十一條 街路ニ於テ濫ニ放歌シ若シハ喧噪シ高聲ヲ發シ又ハ偃臥スヘカラス

第二十二條 街路ニ於テハ管轄廳ヨリ指定シタル區域ノ外路店、屋簷店ヲ出スヘカラス

第二十三條 行商ヨ用フル荷車ハ長サ八尺巾三尺屋簷店ハ長サ六尺巾三尺ヲ超過スヘカラス

第三章 街路ノ清潔

第二十四條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ塵芥雜草ヲ存スヘカラス

第二十五條 街路ノ積雪ハ午前八時迄ニ掃除スヘシ但午前八時後日沒迄ノ降雪ハ降歇後直

ニ掃除スヘシ

第二十六條 掃除シタル雪ハ河海下水其他妨害ト爲ラサル場所ニ投棄スヘシ

第二十七條 炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水ヲ洒クヘシ但冬季ハ風日ト雖モ午前九時午前

後三時後ハ水ヲ洒クヘカラス

第二十八條 汚水ヲ街路ニ洒注スヘカラス

第二十九條 下水ハ毎年二回以上浚渫スヘシ其浚ヒ掲ケタル淤泥、塵芥等ヲ街路ニ布キ又

ハ路傍ニ留置クヘカラス

第三十條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第三十一條 街路ニ於テ敷物、疊、襪類其他ノ塵埃ヲ掃フヘカラス

第三十二條 街路ヲ運搬スル物品ハ墜落、漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第三十三條 街路ニ臨ミタル屋根、物干又ハ窓手摺等ニ濫種其他見苦敷若シハ危險ナル物

品ヲ置クヘカラス

第四章 街路ノ通行

第三十四條 牛馬及諸車ハ夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十五條 馬車及牛車ハ幅員三間以内ノ街路ヲ通行スヘカラス

但其街路ニ沿フタル家屋ニ出入スル者ハ此限ニアラス

第三十六條 車ハ小兒車ヲ除クノ外其種類ノ如何ヲ問ハス跡押ノヨニテ運轉スヘカラス

(發令門)

(諸規則諸取締ノ部)

(街路取締規則標榜)

- 第三十七條 末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ纏束スヘシ
- 第三十八條 牛馬諸車ハ車馬道ノ設ケアル地ハ左側其設ケナキ地ハ中央ヲ通行スヘシ
- 第三十九條 牛馬諸車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
- 第四十條 重二輛以上ヲ連繫シテ輓クヘカラス
但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限ニアラス
- 第四十一條 牛馬二頭以上ヲ連繫シテ牽クヘカラス
但賣買等ノ爲メ輸送スル牛馬ハ此限ニアラス
- 第四十二條 車馬及歩行者行違フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊並砲車輛重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ
- 第四十三條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
- 第四十四條 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ
- 第四十五條 郵便用、消防用ニ供スル車馬及ヒ灌水車又ハ葬送等ニ行違フトキハ避讓スヘシ
- 第四十六條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行スヘシ
- 第四十七條 車馬街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ
- 第四十八條 牛馬諸車其他ノ物件ヲ道路ニ横ヘ若クハ妨害物ヲ軌道ニ置クヘカラス
- 第四十九條 制止ヲ肯ンセスシテ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカラス

- 第五十條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ牛馬、諸車ヲ駐止スヘカラス
- 第五十一條 街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ輓テ彷徨シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
- 第五十二條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘯シ又ハ驚逸セシメ若クハ殘虐ニ扱フヘカラス
- 第五十三條 街路ニ於テ看護人ナク五年未滿ノ小兒ヲ遊歩セシメ又ハ遊戯ヲ爲サシムヘカラス
- 第五十四條 街路ニ於テ紙屑ヲ揚ケ又ハ獨樂、羽子、手毬等ヲ弄シ若クハ其他ノ遊戯ヲ爲スヘカラス
- 第五十五條 街路ニ於テ軍談輕業其他人寄セテ爲スヘカラス
- 第五十六條 人道車馬道ノ區別アル場所ニ在リテ牛馬諸車ヲ人道ニ牽入レ又ハ濫ニ車馬道ヲ歩行スヘカラス
但人道ニ於テ小兒車ヲ推シ又ハ居住者ニシテ牛馬及空車ヲ其地内ニ出入シ若クハ許可ヲ受ケ地盤ニ相當ノ構造ヲ爲シテ實車ヲ出入スル者ハ此限ニアラス

○乘合馬車取締規則標準

第一章 通則

- 第一條 乘合馬車營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳ニ願出免許證ヲ受クヘシ
- 第二條 營業者ニ關スル願届ハ總テ頭取ノ加印ヲ要ス

(禁令門)

(諸規則諸取締之部)

(乘合馬車取締規則標準)

- 第三條 營業者ハ馱者馬丁ノ族籍住所氏名年齢ヲ管轄廳ニ届出一人ニ付鑑札一箇ヲ受クヘシ
- 第四條 營業者自ラ馱者馬丁ノ業ヲ爲サントスルトキハ總テ馱者馬丁ノ例ニ從フヘシ
- 第五條 馱者馬丁ノ鑑札ハ毎年一回管轄廳ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ無効ナルヘシ
- 第六條 車體及馬匹ハ毎年二回管轄廳ノ検査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ其買受讓受ヲ爲シ又ハ車體ヲ新造シタルトキハ定期ニ拘ラス検査ヲ受クヘシ
- 第七條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ
 - 一 轉居、改氏名其他免許證、車馬検査證、鑑札面ニ異動ヲ生シタル時
 - 二 免許證、車馬検査證鑑札ノ遺失、毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時
- 第八條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出免許證、車馬検査證又ハ返札ヲ返納スヘシ
 - 一 廢業又ハ車馬ノ使用ヲ廢シタル時
 - 二 車馬ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時
 - 三 馱者馬丁ヲ解僱シ又ハ馱者馬丁ノ失踪逃亡若シハ死去シタル時
- 第九條 免許證、検査證鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス
- 第十條 馬車ヲ運轉スルニハ馱者馬丁ヲ缺クヘカラス
- 第十一條 乗客ノ員數ハ車體、馬力ニ應レ之ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

- 第十二條 車馬検査證ハ検査毎ニ之ニ檢印ヲ受ケ馬匹検査證ハ其頸輪ニ結着シ車體検査證ハ車體内部ノ見易キ所ニ釘付スヘシ
- 第十三條 検査證アル車馬ト雖モ第十五條第十六條ノ制限ニ適セス又ハ其車體器具ノ破損若シハ不潔ニ至リ或ハ馬匹疾病衰弱ノ狀アルヲ認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘキモノトス
- 第十四條 營業者ハ検査證鑑札各一箇ニ付管轄廳ニ於テ定ムル手数料ヲ納ムヘキモノトス
- 第二章 車體馬匹及器具
- 第十五條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 車ハ四輪以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘキモノトス
 - 二 車體ハ無地漆塗ニシテ其屋根ハ木製ノモノトス
 - 三 客座ハ清潔、適當ノ裝置ヲ爲スヘキモノトス
但一人ノ座席ハ巾一尺二寸ヲ下ルヘカラス
 - 四 車輪ニハ泥除ヲ設クヘキモノトス
 - 五 車體前面ノ兩側ニハ硝子燈ヲ備フヘキモノトス
 - 六 運轉器、心棒、發條、力革、手綱及其他ノ器具ハ堅牢、強靱ノモノヲ用フヘキモノトス
- 第十六條 馬匹ハ五歳以上ニシテ強壯ナルモノニ限ルヘシ
- 第十七條 馬匹ニハ検査證ヲ結着スル爲メニ頸輪ヲ設クヘシ

(禁令門) (簡規則諸取締ノ部) (乗合馬車取締規則附屬)

第三章 馭者馬丁ノ資格及服裝

第十八條 馭者ハ滿二十年以上馬丁ハ滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者且馭者ハ馭術ニ熟達スル者ニ限ルヘシ

第十九條 前條ノ資格ニ適合スト雖ヒ醉狂又ハ暴行ノ癖アル者若クハ強竊盜、強姦及過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ馭者馬丁タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖ヒ監視中ノ者亦同シ

第二十條 馭者馬丁ハ左ノ制限ニ從ヒ其地方毎ニ一定ノ服裝ヲ爲スヘキモノトス

- 一 馭者 帽子、筒袖、ツボン、靴
- 二 馬丁 帽子又ハ笠、法被、股引

但雨雪沈澇ノトキハ半股引及ゴム引又ハ桐油製ノ雨具ヲ用フルモ妨ナシ

第四章 馭者馬丁就業制限

第二十一條 鑑札及乗合馬車取締規則ヲ所持シ警察官吏又ハ乗客ニ於テ見シコトヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十二條 頰冠リ鉢巻其他不體裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第二十三條 馭者ハ馬車ヲ離ルヘカラス

但馭者避クヘカラサル事故アルトキハ馬丁ヲシテ馬車ノ管守ヲ爲サシムヘシ

第二十四條 老幼及婦女昇降ノ際ハ懇篤ニ保護ヲ爲スヘシ

第二十五條 乗客着席シ又ハ降車シ畢リタル後ニアラサレハ車ヲ進行スヘカラス

第二十六條 乗客中粗暴ノ所爲アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セザルトキハ降車セシムヘシ

第二十七條 馭者盛ニ客ヲ乗載シ又ハ屋根ニ物品ヲ載スヘキ構造ヲ爲サシテ物品ヲ載スヘカラス

第二十八條 行車中ハ飲食又ハ喫烟ヲ爲スヘカラス

第二十九條 制止ヲ肯ンセス出火場其他群集ノ場所ニ馬車ヲ入ルヘカラス

第三十條 他人ヲシテ馬ヲ馭セシムヘカラス

第三十一條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第三十二條 馬車ヲ並ヘ馳セ又ハ濫ニ疾驅シ若クハ競走スヘカラス

第三十三條 馬車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

- 一 車馬道ノ設ケアル場所ハ左側共設ケナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ
- 二 車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊並砲車輻重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ
- 三 貨車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
- 四 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ右ニ避ク後車ハ左ヲ通過スヘシ

五 郵便用消防用ニ供スル車馬及灌 waters 車又ハ非送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第三十四條 二車以上引續キ行進スルトキハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ

(禁令門)

(諸規則諸取締ノ部) (乗合馬車取締標章)

第三十五條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行シテ相當ノ合圖ヲ爲シ且馬丁ヲシテ前行セシムヘシ街角ニ於テハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第三十六條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十七條 馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラス

第三十八條 夜中燈火ナシテ行車スヘカラス

第三十九條 車體馬匹ハ常ニ清潔ニスヘシ

第四十條 定員三分一以上ノ乗客アルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

第四十一條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ナキニ注意シ若シ之アルトキハ直ニ返付スヘシ其主分明カラサルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡査交番所派出所ニ届出ヘシ

第五節 乘載制限

第四十二條 定員外ノ客ヲ乘載スヘカラス

但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第四十三條 左ニ記載シタル者ハ乘載スヘカラス

一 六種傳染病、疥癬、癩病其他乗客ニ於テ厭忌スヘキ病狀アル者

二 瘋癲者、暴行者、亂醉者及乞食體ノ者

三 汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚穢ノ虞アル物品

四 獸類

第六章 賃錢及駐車場

第四十四條 賃錢額ハ組合ニ於テ之ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受ケ車内及駐車場ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第四十五條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第四十六條 駐車場ニハ(乗合馬車駐車場)ト記シタル標識ヲ設クヘシ

第四十七條 駐車場ノ外車馬ヲ置クヘカラス

第四十八條 駐車場ノ地盤ハ石、煉化石、瀝キ又ハ板ヲ敷キ且馬尿溜ヲ設クヘシ

第四十九條 駐車場ハ日々掃除ヲ爲シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第七章 營業組合

第五十條 馬車營業者ハ管轄廳ノ指定シタル區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ

第五十一條 組合ニ入ラサル者ハ馬車營業者ト爲スコトヲ得ス

第五十二條 各組合ハ組合保證金トシテ管轄廳ニ於テ定ムル金額ヲ管轄廳ニ納ムヘシ但適宜公債證書、押邊局貯金預リ帳、國立銀行預リ券ヲ以テ納ムルコトヲ得

第五十三條 管轄廳ニ納メタル組合保證金ハ組合中ノ營業者及馭者馬丁營業上ニ關シ他人ニ被ラシメタル損害ノ償ヒ等ニ充用スルコトアルヘシ

第五十四條 組合保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ十日以内ニ之ヲ完納スヘシ若シ之ヲ完納セサルトキハ組合營業ノ効ヲ失フモノトス

(聯合門) (附規則附取部) (乘合馬車取部規則附)

第五十五條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十六條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及割賦方ハ規約ヲ以テ定ムルモノトス

第五十七條 組合ニハ頭取一人ヲ置クヘシ頭取ハ組合營業者中ヨリ之ヲ公選シ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十八條 組合頭取ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

- 一 組合保證金ニ關スル事
 - 二 營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事
 - 三 組合營業者ノ願出ニ加印シ意見アルモノハ其旨ヲ記シ添申スル事
 - 四 營業者及馭者馬丁名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スル事
 - 五 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ仕拂フ事
 - 六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事
 - 七 頭取ノ選舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事
- 右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第五十九條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ組合頭取タルコトヲ得ス

- 一 年齢二十五年以上ニシテ組合区域内ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者
- 二 營業ニ關スル諸規則ヲ解讀シ筆算ニ通スル者

第六十條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ頭取タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第六十一條 管轄廳ニ於テ組合頭取ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ臨時改選セシムルコトアルヘシ

○營業人力車取締規則標準

第一章 通則

第一條 人力車營業トハ輓子ヲシテ車ヲ輓カシメ營業スルヲ云フ

第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳ニ願出免許證ヲ受クヘシ

第三條 營業者ニ關スル願届ハ總テ取締人ノ加印ヲ要ス

第四條 營業者ハ輓子ノ族籍、住所、氏名、年齢ヲ管轄廳ニ届出一人ニ付鑑札一箇ヲ受クヘシ

第五條 營業者自ラ車ヲ輓クトキハ總テ輓子ノ令ニ從フヘシ

第六條 輓子ノ鑑札ハ毎年一回管轄廳ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ無効ナルヘシ

第七條 車體ハ毎年二回管轄廳ノ検査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ其新造、改造又ハ買受讓受テ爲シタルトキハ定期ニ拘ラス届出検査ヲ受クヘシ

(轉令門)

(前規則諸取締ノ部)

(乘合馬車取締規則標準)

第八條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

一 轉居改氏名其他免許證車體鑑札面ニ異動ヲ生シタル時

二 免許證車體檢査證鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時

第九條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出免許證車體檢査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

一 廢業又ハ廢車シタル時

二 人力車ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時

三 轆子ヲ解備シ又ハ轆子ノ失踪逃亡若クハ死去シタル時

第十條 免許證車體檢査證鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第十一條 車體檢査證ハ車ノ蹴込正面ニ釘付スヘシ

第十二條 檢査證アル車ト雖モ第十八條ノ制限ニ適セス又ハ破損若クハ不潔ニ至リタルヲ認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘシ

第十三條 營業者ハ出願ノ際身元保證金トシテ管轄廳ニ於テ定ムル金額ヲ管轄廳ニ納ムヘシ

但適宜公債證書郵便局貯金預リ帳、國立銀行預リ券ヲ以テ納ムルコトヲ得

第十四條 身元保證金ハ廢業又ハ營業禁止若クハ其組合ヨリ除名シタルトキハ之ヲ還付スヘシ

第十五條 管轄廳ニ納メタル身元保證金ハ營業者若クハ其轆子營業上ニ關シ他人ニ被ラシメタル損害ノ償ヒ等ニ充用スルコトアルヘシ

第十六條 身元保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ十日以内ニ完納スヘシ其缺額ヲ納メザルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第十七條 營業者ハ檢査證鑑札各一箇ニ付管轄廳ニ於テ定ムル手数料ヲ納ムヘキモノトス

第二章 車體ノ構造及轆子ノ資格

第十八條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 一人乗ハ横巾内法二尺未滿二人乗ハ二尺以上トス

二 車體ハ無地漆塗、中張ハ革、天鵝絨、羅紗等ヲ用フヘキモノトス

三 車體ニ同シキ漆塗ノ泥除ケヲ備フヘキモノトス

四 車體ノ背面中央ニ方一寸ノ楷字ヲ以テ組合及番號ヲ判明ニ記スヘキモノトス

五 ゴム引又ハ桐油製ノ母衣及前掛ヲ備フヘキモノトス

六 不潔ナラサル蒲團及膝掛ヲ備フヘキモノトス

七 組合及車體ノ番號ヲ記シタル細長提灯ヲ備ヘ且蠟燭、摺附木ヲ用意スヘキモノトス

第十九條 轆子ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ルヘシ

一 年齡滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者

二 其土地ノ路程ヲ略知スル者

第二十條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜、強姦及幼者ヲ略取誘拐スル罪若クハ過失ニ

アラサル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ轆子トスルヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

(禁令門) (諸規則諸取締ノ部)

(營業人力車取締規則體條)

第二十一條 輓子ハ左ノ制限ニ從ヒ地方毎ニ一定ノ服裝ヲ爲スヘシ

一 若服ハ法被、股引

但雨雪泥濘ノトキハ半股引ヲ用フルモ妨ケナシ

二 冠リ物ハ帽子又ハ笠

三 兩具ハゴム引又ハ桐油製

第二十二條 法被冠リ物、兩具ニハ組合及鑑札ノ番號ヲ記スヘシ

第三章 輓子就業制限

第二十三條 輓子ハ鑑札及營業人力車取締規則並貸錢表ヲ所持シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ

見ンコトヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十四條 頰冠リ鉢巻其他不體裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第二十五條 路上ニ彷徨シ又ハ佇立スヘカラス

第二十六條 乘客ノ承諾ヲ得ヌ途中ニ於テ他車ニ乗セ替ヘ又ハ濫ニ駐車スヘカラス

第二十七條 駐車場ノ外人力車ヲ置クヘカラス

但乘客用辨ノ爲メ往來ノ妨害ト爲ラサル場所ニ駐車スルハ妨ナシ

第二十八條 乘客ノ指定セサル宿泊店、飲食店及其他ノ場所ニ輓入ルヘカラス

第二十九條 制止ヲ肯セスレテ出火場其他群集シタル場所ニ輓入ルヘカラス

第三十條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第三十一條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十二條 人力車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 車馬道ノ設ケアル場所ハ左側其設ケナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ

二 車馬及歩行者ニ行途フトキハ左ニ避ケ軍隊並砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

三 賃車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ懸ケ聲ヲ爲シ前車ハ左後車ハ右ヲ通

過スヘシ

五 郵便用、消防用ニ供スル車馬及灌 waters 車又ハ葬送等ニ行途フトキハ避讓スヘシ

第三十三條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角、橋上ヲ通過スルトキハ徐行スヘシ且街角ヲ

通過スルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第三十四條 二輛以上ノ車ヲ運騾シテ輓クヘカラス

第三十五條 夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十六條 街角、橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十七條 乘客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之アリタルトキハ直ニ還付スヘシ

其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡査交浴所派出所ニ届出ヘシ

第四章 車賃

第三十八條 人力車ノ賃錢ハ組合ニ於テ之ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

(管令四) (路規則附取締ノ部) (營業人力車取締規則標章)

第三十九條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス
第四十條 瀛車停止場其他群集ノ場所ニ至ラントスルトキハ到着前其賃錢ヲ請求スルヲ得
第四十一條 乗客ニ於テ單ニ行先ヲ示シ其道筋ヲ定メサルトキハ最近ノ路徑ニ依リ賃錢ヲ
計算スヘシ

第五章 乘載制限

第四十二條 一人乗ニ二人、二人乗ニ三人以上ヲ乘載スヘカラス
但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第四十三條 左ニ記載シタル者ハ人力車ニ乘載スヘカラス

- 一 六種傳染病、疥癬、癩病患者及乞食體ノ者
- 二 汚穢物其他車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ留ムヘキ者
- 三 車體外ニ張出スヘキ長大ノ物品

第六章 駐車場

第四十四條 駐車場ヲ分テ左ノ二種トス

- 一 公設駐車場(一般營業人ニ於テ駐車スヘキモノヲ云フ)
 - 一 私設駐車場(二人又ハ數人ニテ設立シ其專用ニ屬スルモノヲ云フ)
- 第四十五條 公設駐車場ハ管轄廳ニ於テ之ヲ定メ標示スヘシ私設駐車場ヲ設クル者ハ管轄
廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

第四十六條 客ノ乗用ニ應シ難キ人力車ハ駐車場ニ置クヘカラス
第四十七條 公設駐車場ニ於テハ到着順ヲ以テ整列シ各車ノ間ニ距離ヲ取り出車ニ妨ケナ
キヲ要ス

第四十八條 公設駐車場ニ在ル人力車ハ整列ノ順序若クハ隨取ヲ以テ出車スヘシ
但客ノ特ニ指示シタル場合ハ此限ニアラス

第四十九條 客ヨリ求メアリタルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス
但暴行者及看護人ナキ癡癩人ハ此限ニアラス

第五十條 私設駐車場ハ組合取締人ノ烙印ヲ受ケタル標識ヲ設クヘシ

第七章 營業組合

第五十一條 人力車營業者ハ管轄廳ニ於テ指定シタル區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ

第五十二條 組合ニ入ラサル者ハ人力車營業ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 組合ニハ取締人一人ヲ置クヘシ取締人ハ組合營業者中ヨリ公撰シ管轄廳ノ認
可ヲ受クヘシ

第五十四條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ
第五十五條 取締人ニ於テハ取扱フヘキ事項左ノ如シ

- 一 人力車營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事
- 二 私設駐車場ノ標識ニ烙印スル事

(禁令門) (諸規則節取締ノ部) (營業人力車取締規則附則)

- 三 組合營業者ノ願出ニ加印シ意見アルモノハ其旨ヲ記シ添申スル事
 - 四 營業者名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スル事
 - 五 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ仕拂フ事
 - 六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事
 - 七 取締人ノ撰舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事
- 右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項
- 第五十六條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及割賦方ハ規約ヲ以テ定ムルモノトス
- 第五十七條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ取締人タルコトヲ得ス
- 一 年齢二十五年以上ニシテ組合區域内ニ相當ノ家屋若シハ土地ヲ所有スル者
 - 二 組合營業者ニシテ人力車十輛以上ヲ所有スル者
 - 三 營業上ニ關スル諸規則類ヲ解讀シ算筆ニ通スル者
- 第五十八條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜及詐偽取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ取締人タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ
- 第五十九條 管轄廳ニ於テ取締人ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ任期中ト雖モ臨時改選セシムルコトアルヘシ

◎宿屋取締規則標準

第一章 通則

- 第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿、下宿屋、木賃宿ノ三種トス
- 第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物坪數及間取ヲ記シタル明細圖面ヲ以テ管轄廳ニ願出允許ヲ請フヘシ其間取坪數ヲ變更増減シタルトキハ圖面ヲ以テ届出認可ヲ受クヘシ
- 第三條 左ノ各項ニ觸ル者ハ允許ヲ與ヘス
- 一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者
 - 二 白痴瘋癲者
 - 三 強竊盜及詐偽取財ノ罪ヲ犯シタル者又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者
 - 四 風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認メタル者
- 第四條 改氏名又ハ廢業シタルトキハ其旨管轄廳ニ届出ヘシ
- 第五條 宿屋營業者ハ看板ヲ店頭ニ掲ケ旅人宿木賃宿ハ夜中標燈ヲ以テ之ニ代フヘシ
- 第六條 宿引ヲ出シ客ヲ誘引スヘカラス
- 第七條 宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄託ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ
- 第八條 宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ濫ニ其室内ニ入ラシムヘカラス
- 第九條 宿泊人疾病ニ罹ルトキハ醫藥食物等其求メニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘシ

(禁令門)

(路規則路取締ノ部)

(宿屋取締規則標準)

- 第十條 宿泊人斃死ニ係リ又ハ其所有品紛失シタルトキハ即時所轄警察署分署又ハ巡查交番所派出所若クハ巡行ノ巡查ニ届出ツヘシ
- 第十一條 宿泊料ノ抵償トシテ私擅ニ宿泊人ノ所有品ヲ押收又ハ受領スヘカラス
- 第十二條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ宿泊料外ノ金錢ヲ得ル目的ヲ以テ客ノ求メナキ飲食物ヲ供スヘカラス
- 第十三條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場及客室ニ揭示スヘシ
- 第二章 旅人宿
- 第十四條 旅人宿ハ客室二十五坪以上アル家屋ニ於テ營業スル者ニ限ルヘシ
- 第十五條 客室ハ充分ニ光線ヲ取り且空氣ヲ流通セシムヘシ
- 第十六條 客室毎ニ堅固ナル錠前附ノ押入又ハ戸柵ヲ設クヘシ
- 第十七條 二階以上ノ客室十五坪以上アルモノハ櫓子二箇以上ヲ設クヘシ
但櫓子ノ幅ハ四尺以上タルヘシ
- 第十八條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ尿尿ヲ受容スヘキ部分ハ石、敲キ、陶器等ヲ以テ構造スヘシ
- 但結構上特ニ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス
- 第十九條 便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ
- 第二十條 客室ハ旅客一名ニ付一坪半ヲ下ルヘカラス

但同行者ハ此限ニアラス

- 第二十一條 客室ノ番號並定員ハ客室ノ出入口ニ揭示スヘシ
- 第二十二條 正當ノ理由ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絕スヘカラス
- 第二十三條 營業者ハ左ノ書式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ調製シ宿泊人發着毎ニ原簿ニ記入シ且甲乙書式ニ從ヒ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

宿泊人名簿書式 用紙寸法適宜

番號	氏名	年齢	職業	族籍	住所	相親ノ特徴 其他事故	前夜宿 泊所	行先地	到着月 日時刻	出發月 日時刻

(甲號) (禁令門) (賭規則部取締ノ部) (宿屋取締規則條) (宿屋取締規則條)

第 何 號		氏 名	族 籍	住 所	年 齡	職 業	前夜宿泊所	行 先 地	投 宿 日 時	相貌特徵其他事故
		何府縣何町村番地籍族 屋號 何 某								

乙號

第 何 號		氏 名	族 籍	住 所	年 齡	職 業	前夜宿泊所	行 先 地	投 宿 日 時	相貌特徵其他事故
		何府縣何町村番地籍族 屋號 何 某								

第三章 下宿屋

第二十四條 下宿屋トハ一箇月ノ賭料、座敷料等ヲ約定シテ寄寓セシムルモノヲ云フ

第二十五條 下宿屋ハ客室十坪以上アル家屋ニ於テ營業スルモノニ限ルヘシ

第二十六條 下宿屋營業者ハ下宿人投宿後二十四時間内ニ其下宿人ト連署ノ上、下宿人ノ族籍住所氏名年齢並下宿ノ事由ヲ記シタル届書ニ通テ所轄警察署又ハ分署ニ差出シ一通ニ其檢印ヲ受テ所持スヘシ

第二十七條 第十六條第十七條第十八條第十九條ハ下宿屋ニ付テモ亦之ニ適用ス

第二十八條 下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲出スヘシ

第二十九條 下宿人他ニ轉宿シ又ハ五日以上外泊シテ其所在ノ不分明ナルトキハ共旨所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第四章 水賃宿

第三十條 水賃宿營業ハ場所ヲ定メ許可スヘキモノトス

(禁令門) (請規則請取締ノ部) (宿屋取締規則標本) (賭博刑處分規則)

第三十一條 宿泊人滯在中外泊シタル者アルトキハ其旨ヲ帳簿ニ記シ置クヘシ
第三十二條 宿泊人届出方ハ第二十三條ノ例ニ從フヘシ

○賭博犯處分規則(明治十七年一月四日)

(第壹號布告)

賭博犯ノ儼ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候得共當分ノ内行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官チシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事チ行ハシ

第一條 賭博チ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上貳百圓以下ノ過料ニ處ス家屋ヲ貸與シ及ヒ見張チ爲シ其他總テ幫助チ爲シタル者亦同シ

博徒ニシテ黨類チ招結シ又ハ賭場チ開張シ又ハ兇器チ攜帶シ又ハ四隣ニ横行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲罰及ヒ五拾圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス其招結ニ應シタル者ハ賭博チ爲サスト雖モ前項ニ依テ處分ス

第二條 賭具及ヒ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有チ問ハス之ヲ沒入ス
第三條 賭博犯チ取押フルニハ何人ノ家宅チ問ハス何時タリトモ之ニ立入ルコトヲ得但警察官巡查ハ其證票チ攜帶スヘシ

第四條 此規則チ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事(東京府)縣令ニ於テ便宜之ヲ定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルコトヲ得

●新潟縣ヨリ司法省ヘ伺(十七年一月十一日)

博賭犯ニ關スル賤人偽造及ヒ誣告者ハ無論刑法ニ依リ處分相成儀ト心得可然哉

指令 十七年一月十五日

本月十一日附電報伺ノ趣ハ刑法ニ依ルノ限ニアラス

●秋田縣ヨリ司法省ヘ伺(十七年二月十三日)

本年第一號公布頒布前ノ賭博犯ヲ該公布ニ依リ懲罰ニ處シタル時ハ其執行チ終リタルト否トニ拘ラス更ニ裁判所ヘ交付ス可キヤ

指令 十七年三月十九日

客月十三日付賭博犯處分ノ儀ニ付何ノ趣ハ其科シタル懲罰過料ノ刑法ノ刑期金額内ニ在ルモハ裁判所ヘ送付スルニ及ハスト雖モ其刑期金額ヲ超過スルモノハ更ニ裁判所ヘ送付ス可シ

●神奈川縣ヨリ海軍省ヘ伺(十七年十一月二十八日)

軍属ニシテ賭博事件取調中免職セラレタル者アリ其犯ストキ軍属ナルモ既ニ之ヲ脱シタル上ハ常人ト同シク處分可然哉

指令 十七年十一月二十九日

二十八日附伺賭博犯處分ノ儼ハ伺之通

○在軍籍者賭博犯チ受ケタルトキ駐在官ヘ通報方(十九年五月十九日)

(陸軍省令甲第拾八號)

歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者賭博犯ノ處分チ受ケタルトキハ自今警察官ヨリ犯人本籍地ノ戶長ニ通報シ戶長ヨリ郡區駐在官ニ通報セシム可シ

(禁令門)

(賭規則賭取締部)

(密賣淫取締規則)

(墓地及埋葬取締規則)

●賭博犯過料金不納者ノ件ニ付鹿兒嶋縣ヨリ内務省ヘ伺
十九年二月廿五日
賭博犯過料金不納者身代限リ印紙費ハ何費日ヨリ出スカ人民ノ訴訟ト異ナルニ付無印紙
ニテヨキヤ

指命 十九年二月廿五日
賭博犯過料不納者身代限リ印紙費ハ地方警察費ヨリ支辨スヘシ但印紙規則第五條ニ
據リ貼用スルモノトス

○密賣淫取締懲罰(明治十四年十二月九日)

密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候得共當分之内其取締懲罰ハ從前之通
東京ハ警視廳其他ハ地方官ヘ委任ス

○墓地及埋葬取締規則(明治十七年十月四日)

- 第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス
- 第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス
- 第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス
但別段ノ規則アルモノハ此限コアラズ
- 第四條 區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス
但改葬ヲサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ
- 第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ

火葬ヲナサシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得スシテ
建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視廳府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出
ヘシ

○墓地及埋葬取締規則ニ違背スル者處分方(明治十七年十月四日)

今般第貳拾五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スル者ハ違背罪ノ刑
ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事

○墓地及埋葬規則細則標準方(明治十七年十一月十八日)

本年第貳拾五號布達第八條ニ記載セル方法細目ハ左ノ條件ヲ標準トスヘシ此旨相達候事
第一條 墓地ハ從前許可セラレタル者ニ限ル

但已ムコトヲ得サル事情アリテ之ヲ取廢メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出ヘシ

(禁令門)

(前規則取締ノ部) (墓地及埋葬取締規則ニ違背スル者處分方)

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六拾間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タヌ其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタル者ハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區畫シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第四條 墓地ノ周圍地トモ墳地ニ非サルニハ樹木ヲ栽コヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀垣ヲ存スヘカラサルモノトス

但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條 火葬場ハ人家及人民幅濶ノ地ヲ隔ル凡ソ百貳拾間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐烟筒ヲ備ヘ臭烟ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀垣ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル塀垣所ナルトキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘシ日没後之ヲ行フヘシ

第八條 墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニ依リ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戶長役場ニ届置クヘシ

第十條 死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ルノ限ニ非ス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添テ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナシシテ死亡シタル者ヲ埋葬又ハ火葬セントスルハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ産婆ノ死産證ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セントスル者ハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

第十二條 區戶長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認許證ヲ與フヘカラズ

第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戶長ノ認許證ヲ編纂シ毎三ヶ月所轄警察署ノ檢閱ヲ受ケテ之ヲ區役所又ハ戶長役場ヘ差出スヘシ

第十四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第十五條 此標準ニ據リ難キモノハ其事情ヲ具シ伺出ツヘシ (明治十九年二月二十三日) (甲第五號達此條ヲ删除ス)

●古墳發掘ノ件ニ付熊本縣ヨリ大藏農商務省ヘ伺 十九年三月十九日

(禁令門) (根ニ墓地ヲ設クルヲ禁ス) (根ニ古墳ヲ發掘スルヲ禁ス)

九五

本縣宇土郡立岡村立岡山字西岡野官林ニ於テ何者ノ所爲ナルヤ古墳發掘有之趣該地戸長ヨリ申出ニ付直ニ官班ヲ派シ實査致サセ候處別紙圖面(略ス)ノ通ニ有之右ハ此儘ニ措キ候ケハ不都合ニ付夫々母部保存取計可申哉然ルハ該費用ハ官費御下渡可相成哉
指令 十九年四月十四日
向之趣古墳取致ノ儀開屆費用ノ儀ハ十八年度雜件増費トシテ別途可下渡候條費額取
調更ニ大藏省ヘ可申出申

○狹ニ墓地ヲ設クルヲ禁ス(明治六年十月二十三日)

從來狹ニ墓地ヲ設ケ候儀ハ不相成候處今般私有地ノ證券相渡候上ハ心得違フ者モ難計ニ付耕宅地ハ勿論林藪タリモ許可ヲ得スレテ新ニ墓地ヲ設ケ或ハ區域ヲ取廣ケ候儀可令禁止就テハ忽舊地差支候鄉村モ可有之候條管下一般諸寺院境內ヲ始メ其他永久墓地ニ定ムヘキ場所取調圖面ヲ刷ヘ大藏省ヘ可伺出此旨相達候事
但即今墓地差支候場所ハ相當ノ處分致シ置キ本文之通至急取調可申尤管下總體一時取調出來兼候ヘ、遂向墓地差支候鄉村ヨリ取掛テ逐次同省ヘ可伺出申

○狹ニ古墳ヲ發掘スルヲ禁ス(明治七年五月二日)

上世以來御陵墓ノ所在未定ノ分即今取調中ニ付各管内荒蕪地開墾ノ節口碑流傳ノ場所ハ勿論其他古墳ト相見ニ候地ハ概ニ發掘爲致開墾候若シ差向墾闢ノ地ニ有之分ハ繪圖面相副致部省ヘ可伺出此旨相達候事

○燒場取設心得方(明治八年六月二十四日)

火葬ノ儀第八拾九號ノ通御布告有之候ニ付テハ燒場ノ儀左ノ心得ヲ以テ取扱可申此旨相達候事

- 一 燒場ハ東京府下ハ朱引外其他ノ地方ハ市街村落ノ外渾テ人家遠隔ノ地ニ於テ薄稅地又ハ借地料無之地ヲ撰ミ最寄市邑申合共用致サスヘク尤官有地又ハ民有地ノ内新規相設ケ候積リ取調可伺出申
- 一 舊燒場(官民有地ヲ論セズ)從前ノ儘使用スル土地及ヒ新規拂下タル土地ハ民有地第二種ニ可組入事九年七月百二十三號
- 一 燒場ハ火爐烟筒及ヒ牆壁等ヲ設クヘシ尤人家遠隔ノ山野等ニ於テハ適宜簡易ノ裝置ヲナスモ不苦候事十三年七月五拾號
- 一 燒場造築修繕等一切ノ入費ハ人民ノ自辦勿論ニ候得共都テ不都合無之様區戶長ニ於テ注意取締可爲致事
- 一 遺骨ヲ此場中ニ埋葬候儀ハ不相成候事

●墓地火葬場新設ノ儀ニ付佐賀縣ヨリ内務省ヘ伺(十七年十二月十一日)

御省七第四拾號達基地火葬場新設ノ方法ハ衛生福興ノ事件ニ付地方衛生會ニ附議シタル上施行セサレハ大政官ヨリ定メラレタル衛生會規則ニ背クニ似タリ故ニ基地取締規則ヨリ相省キ相當ノ順序ヲ遵進テ施行シタシ

(焚骨門) (野刑刑取締ノ部) (燒場取設心得方) (人身賣買ノ禁) (人身賣入ノ禁) 九七

指令 (十七年十二月十九日)
當省乙第四拾號達ノ儀ニ付本月十一日附伺之趣ハ墓地火葬場新設ノ方法ノミニ限ラ
ス該達ニ據リ相定ムヘキ方法細目ノ全部トモ施行前地方衛生會ノ審議ニ付スヘキ儀
ト心得ヘシ

◎禁止ノ部

○人身賣買ノ禁明治五年十月二日
第二百九十五號布告

一人身ヲ賣買致シ終身又ハ年期ヲ限リ其主人ノ存意ニ任セ虐使致シ候ハ人倫ニ背キ有マシ
キ事ニ付古來制禁ノ處從來年期奉公等種々ノ名目ヲ以テ奉公濟爲致其實賣買同様ノ所業
ニ至リ以ノ外ノ事ニ付自今可爲嚴禁事
一農工商ノ諸業習熟ノ爲メ弟子奉公爲致候儀ハ勝手ニ候得共年限滿七年ニ過シ可ラサル事
但雙方和談ヲ以テ更ニ期ヲ延ルハ勝手タルヘキ事
一平常ノ奉公人ハ一ヶ年宛タルヘシ尤モ奉公取續候者ハ證文可相改事
一娼妓藝妓等年奉公人一切解放可致右ニ付テノ貸借訴訟總テ不取上候事
右之通被定候條屹度可相守事

○人身ヲ書入ノ禁明治八年八月十四日
第二百二十八號布告

金錢貸借ニ付引當物ト致候ハ賣買又ハ讓渡ニ可相成物件ニ限リ候ハ勿論ニ候處地方ニ寄リ
間ニハ人身ヲ書入致候者モ有之哉ノ趣右ハ嚴禁ニ候條此旨布告候事

但期限ヲ定メ工作使役等ノ勞力ヲ以テ負債ヲ償フハ此限ニアラス

○幼兒ヲ外國人ニ賣渡ヲ禁明治五年二月二十五日
第五拾五號布告

各港在留ノ支那人共我國民ノ幼兒ヲ買取候儀ニ付テハ去ル庚午八月中相違候得共未ダ右様
ノ所業致候者モ有之哉ノ趣畢竟內國人ヨリ賣渡シ候故支那人ニ於テモ買取本國ニ逆行販賣
スルニ至候次第ニテ御國禁ヲ犯シ不容易儀ニ付向後右等不心得ノ者有之ニ於テハ嚴重處置
ニ可及候間地方官ニ於テ管内取締厚シ可加教育候事

○菊御紋ヲ禁明治四年六月十七日
布告

菊御紋禁止ノ儀ハ兼テ御布告有之候處猶又向後由緒ノ有無ニ不關皇族ノ外總テ被禁止候尤
御紋ニ紛敷品相用候儀モ同様不相成候條相改可申事
但從來諸社ノ社頭ニ於テ持來候分ハ地方官ニ於テ取調可申出事

○官幣社社殿ノ裝飾及社殿ノ幕提灯ニ限リ菊御紋ヲ用フルヲ許ス明治七年四月

二日開拓使京都府大坂府兵衛外十四縣ヘ達
社寺ニテ菊御紋相用候儀禁止ノ旨明治二年己巳八月布告候處自今官幣社社殿ノ裝飾及社頭
之幕提灯ニ限リ菊御紋相用不苦候條此旨管内官幣社ヘ可相達事

(禁令門)

(禁止ノ部)

(幼兒ヲ外國人ニ賣渡ヲ禁ス)

(菊御紋ヲ禁ス)

○國幣社社殿ノ裝飾幕提燈ニ限り菊御紋ヲ用フルヲ許ス明治十二年四月二日府縣ニ達
幣社所在使
 社寺ニテ菊御紋相用候儀ニ付明治二年八月布告ノ趣モ有之候處自今國幣社社殿ノ裝飾及社頭ノ幕提燈ニ限り菊御紋相用不苦候條此旨管内國幣社ニ可相達事

○一般社寺ノ神殿佛堂ニ裝飾シタル分ニ限り菊御紋存置ヲ許ス明治十二年四月二日府縣ニ達
十二日第拾三號使府縣ニ達
 一般社寺ニ於テ菊御紋相用候儀不相成旨明治二年八月布告之趣モ候處右布告前神殿佛堂ニ裝飾シタル分ニ限り其儘存シ置不苦候此旨相達候事

○菊御紋章ヲ畫キタル賣品取締方明治十三年四月五日宮内省乙第ニ號府縣ニ達
 菊御紋章ヲ賣物等ニ畫キ候儀並粉敷品相用候儀モ不相成旨明治元年三月廿八日明治四年六月十七日太政官布告ノ趣モ有之候處近來往々賣品ニ御紋章ヲ畫キ候向有之哉ニ付取締方一層注意可致候此段相達候事

●勸業博覽會賞狀等ニ御紋章ヲ附スル儀ニ付岩手縣ヨリ宮内省ニ伺十七年三月十七日
本年四月廿一日ヨリ六月九日マテ五十日間當縣勸業場内ニ於テ勸業博覽會開設候儀ハ會ヲ主務省ニ御届仕置候儀ヲハ該會出品優劣ヲ審査シ其優等ナルモノハ夫々區分ヲ定メ賞狀賞牌及褒狀ヲ發與致度ニ付右賣品ニ御紋章(菊御紋章)ヲ附シ候處御届被降度別

紙職形五葉相副此段相伺候也
(別紙職形略ス)

指令 十七年三月廿六日
 書面伺之趣雜問屆候事

●郡設共進會賞狀賣品ニ桐章描畫ノ儀ニ付群馬縣ヨリ宮内省ニ伺十七年四月十二日
本年九月一日ヨリ向二十日間管下佐位郡伊勢崎町ニ於テ開設ノ佐位郡波聯合共進會出品優等者ニ附與候賞狀賣品共桐章描畫致度旨該會發起者ヨリ出願候ニ付願意御許可相成度此段相伺候也
 指令 十七年四月十六日
 書面伺之趣ハ禁令ノ限ニ非サル儀ト可心得事

●郡役所屋上ニ菊御章掲出ノ儀ニ付靜岡縣ヨリ宮内省ニ伺十七年五月十七日
郡役所玄關屋上ニ菊御章相附シ不苦候哉
 指令 十七年五月二十二日
 伺之趣雜問屆候事

●桐章ノ儀ニ付内務省ヨリ太政官ニ伺十六年七月四日
菊章ノ儀ニ就テハ度々御達ノ次第有之候處桐章ノ儀ハ是迄何等御達等無之右ハ一般社寺ニ於テ相用不苦儀ニ候哉往々伺出之向等有之取扱方差支候條此段相伺候也
 指令 十六年八月一日
 伺之趣桐章ノ儀ハ相用不苦儀ト可相心得事

○富興行及諸物品限月賣買禁止元年十二月廿三日

富興行ノ儀ハ兼テ御禁制ニ有之候處近年諸國ニ於テ金銀融通ヲ名トシ或ハ社寺再建等ニ托(禁令門) (禁止ノ部) (富興行及諸物品限月會賣買禁止)

シ興行致候向モ有之趣元來澆季之弊風僥倖之利ヲ以テ民心ヲ誘惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ惰リ往々之カ爲ニ家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞ヘ以ノ外ノ事ニ候斯御一新ノ折柄右様之所業殊ニ御趣意ニ相戻リ候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事

○富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及富籤ヲ購買シタル者處分方十五年五月廿四日
第貳十五號布告

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若シハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトチ間ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ譲リ受ケタル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免レタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル
右奉勅旨布告候事

○帶刀ノ禁明治九年三月八日
第三十八號布告

自今大禮服着用並ニ軍人及ヒ警察官吏等制規アル服着用ノ節ヲ除クノ外帶刀禁セラレ候但違背ノ者ハ其刀可取上事

○金銀分析ノ禁明治十五年三月四日
第六拾八號

金銀分析ノ儀自今無類營業禁止候條地方官ニ於テ不取締無之様可致候尤開業致度段願出候者有之候ハ、其者ノ身元並ニ開業ノ規則等詳細取調大藏省ヘ可伺出事

會議門

○郡區町村編制法(明治十一年七月廿二日
第七號布告)

郡區町村編制法左ノ通被定候條此旨布告候事

第一條 地方ヲ審シテ府縣ノ下郡區町村トス

第二條 郡町村ノ區域名稱ハ總テ審ニ依ル

第三條 郡ノ區域廣潤ニ過キ施政ニ不便ナル者ハ一郡ヲ審シテ數郡トナス東西南北上中下
某郡ト云ガ如シ

(禁令門) (禁止ノ部) (金銀分析ノ禁) (會議門) (區町村編制法)

第四條 三府五港其他人民幅濶ノ地ハ別ニ一區トナシ其廣濶ナル者ハ區分シテ數區トナス
第五條 每郡ニ郡長各一員ヲ置キ每區ニ區長各一員ヲ置シ郡ノ狹少ナルモノハ數郡ニ一員
ヲ置シテ得

第六條 每町村ニ戸長各一員ヲ置ク又數町村ニ一員ヲ置クヲ得
但シ區内ノ町村ハ區長ヲ以テ戸長ノ事務ヲ兼スルヲ得

第七條 此編制法ヲ施行シ雖キ島嶼ハ其制ヲ異ニスルヲ得以下十三年第十四號布告ヲ以テ追加

第八條 地方ノ便益若シハ人民ノ請願ニ由リ止ムヲ得サル理由アルモノハ郡區町村ノ區域
名稱ヲ變更スルヲ得

第九條 第三條第四條第七條第八條ノ施行ヲ要スルトキハ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ
政府ノ裁可ヲ受クヘシ

○郡區町村編制法府縣會規則地方稅則施行順序(明治十一年七月二十二號外達)

一 從前地方區畫區々ニ有之不都合不整候處今度區町村ノ制一途ニ被定候ニ付テハ各地方
速ニ改正スヘシト雖モ其組替一時ニ難行届事情ノ向ハ實地都合ニ應シ漸次引直シ民間
ノ混雜ヲ成サ、ル様注意ヲ加フヘシ又從前郡區大小ノ外組合町村ノ仕法致來リ候分或
ハ從前郡區ノ積金又ハ共有財産ノ其性質地方一般ノ事ニ當ツベキモノニ非サル分等ハ
元來行政區畫ノ事ニ關セサル者ニ付其人民ノ便宜ニ任スヘシ

二 郡町村ノ區域ハ總テ舊ニ依ルト雖モ郡ノ境界錯雜シ又ハ地形不便ナル者ヲ組替及町村
ノ飛地ヲ組替ル等不得止分ハ地方長官ヨリ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ施行スルヲ
得ヘシ其大郡ヲ畫シテ數郡トシ及市街ノ區別ヲ定ムルハ政府ノ裁定ヲ仰キ定メ地方長
官ニ於テ取調内務卿ニ伺出ヘシ

三 郡村制置ノ外都府港市ノ地人民幅濶貿易繁昌ノ所ハ郡村ト其利益情態ヲ異ニスルヲ以
テ一般ノ郡政ト概行スヘカラス故ニ郡ニ拘ハラス別ニ區トナシ市政ヲ以テ治ムルヲ要
スヘシト雖モ其郡ヲ變更シテ更ニ其區ヲ置ニアラス即チ某郡ニシテ其中ニ某區アルナ
リ又某區某々ノ郡ニ跨ル等地理上ニ於テハ總テ舊ニ依ラシムヘシ又市井一團ヲ以テ一
區トシ統治スヘキアリ或ハ其廣濶ニシテ統治ニ難キヲ以テ分テ數等トナスアル等各地
ノ便ニ從フヘシ其分テ數區トスルモノ或ハ第一區第二區ト稱シ或ハ某區(其地方固有ノ名稱ヲ用ユルカ加)ト稱スル等其便ニ從フ要スルニ制度ニ拘ハリ便宜ヲ妨ケザル様心得ヘシ

四 三府及其他市街ノ區及各町村ハ其地方ノ便宜ニ從テ町村會議又ハ區會議ヲ開キ及地方
稅ノ外人民協賛ノ費用ハ地價割戸數割又ハ小間割間口割歩合金等其他習慣ノ舊法ヲ用
ユルヲ勝手タルヘシ

但シ町村會議會ノ章程規則ヲ制定スル分ハ内務省ニ届出認可ヲ受ク可シ
(第五以下ノ府縣會規則及地方稅則等ノ施行順序ニシテ以後本則ハ悉ク改正ニ依リ必要ナラサルヲ以テ略ス)

○府縣會規則(明治十三年四月八日)

明治十一年七月第拾八號布告府縣會規則左ノ通改正候條此旨布告候事

第一章 總則

第一條 府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス

第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トナス

第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事縣令ヨリ之ヲ發ス

第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限リ其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス

第五條 府縣會ノ議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ其事由ヲ內務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ府知事縣令ハ時宜ニ依リ之ヲ再議ニ付スルヲ得再議ノ後猶其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ內務卿ノ指揮ヲ請フコト前項ニ同シ十四年第四號布告ヲ以テ本項ヲ追加ス

第六條 府縣會ハ每年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受

藏卿ニ上申スルコトヲ得若シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直チニ內務大

出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ説明ヲ求ムルトキハ府知事縣令若シハ其代理人之ヲ説

明スヘシ十五年第四十八號布告ヲ以テ本項ヲ追加ス

第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付建議

ヲナサントスル者アラハ先ツ議會ノ許可ヲ得テ之ヲ議會ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所

見トシ議長ノ名ヲ以テ直チニ內務卿ニ建議シ又ハ府知事縣令ニ建議スルヲ得十五年第十號布告ヲ以テ全條但書共改正ス

但シ臨時會ニ於テハ其會議ヲ要シタル事件ニ限リ建議スルヲ得十五年第十號布告ヲ以テ全條但書共改正ス

第八條 府縣會ハ府知事縣令ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

府縣會ハ議員ノ内招集ニ應セス又ハ事故ヲ告ケヌシテ參會セサル者ヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得

府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フコトアルトキハ雙方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘシ此場合ニ於テ府知事縣令ハ其議事若シハ會議ヲ中止スルコトヲ得十四年第四號布告ヲ以テ本項ヲ追加ス

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以上ヲ撰ブ

每郡區議員定數ノ外補缺員トシテ十人以下ヲ増選スルヲ得十五年第十號布告ヲ以テ本項ヲ追加ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ之ヲ府知事縣令ニ報告シ府知事縣令ハ之ヲ內務

卿ニ報告スヘシ

議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナレ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 書記ハ議長之ヲ選ヒ庶務整ヲ理セシム其俸給ハ會費ノ中ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歳以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租拾圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各款ニ觸ル、者ハ議員タルコトヲ得ス

第一款 風癩白痴ノ者

第二款 舊法ニ依リ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經サル者

新法ニ依リ公權ヲ剝奪及停止セラレタル者又ハ一年以上輕重禁錮ノ刑ニ處セラレ主

刑滿期後五年ヲ經サル者

十五年第十號
布布本款改正

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏教導職及陸海軍諸卒現役ノ者同上十七年第十九號布達ヲ以テ數條廢

第五款 府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者

第十四條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍ヲ定メ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ル、者及陸海軍々人現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス同上但
布布本款改正

第十五條 議員ヲ選舉セントスルトキハ府知事縣令ヨリ某月間ニ選舉會ヲ開クヘキ旨ヲ布令シ郡區長ハ豫メ選舉ノ投票ヲ爲スヘキ日ヲ定メ少クハ十五日前ニ之ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第十六條 選舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ選舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ選舉會ヲ開クコトヲ得

第十七條 選舉人ハ豫メ郡區長ヨリ付與シタル投票用紙ニ自己及ヒ被選人ノ住所姓名ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スヘシ其投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トシ同數ナラハ年長ヲ取り同年ナラハ圖ヲ以テ之ヲ定ム

但投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨クナシ

第十八條 投票終ルノ後郡區長ハ選舉人名簿ニ就テ選舉ノ當否ヲ査シ又被選人名簿ニ就テ當選人ノ當否ヲ査ス若シ法ニ於テ不適當ナル者アルカ或ハ當選人自ラ其權ヲ辭スルトキハ順次投票ノ多數ヲ得タル者ヲ取ル

第十九條 當選人ノ當否ヲ査定スルノ後郡區長ハ其當選人ヲ郡區廳ニ呼出シ當選狀ヲ渡シ當選人ハ請書ヲ出スヘシ

但當選人各請書ヲ出レタル后郡區長ハ其姓名等ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第二十條 一人ニシテ數郡區ノ撰ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第二十一條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第一回二年期ノ改撰ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ公撰スヘシ

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得

第二十四條 議員中第十三條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉籍スルカ其他

總テ欠員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ撰舉ス(同上(轉任)ト改ム)

但補缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ取り尙缺員アルトキハ本條末文ノ手續

ニ據ル(同上但書追加)

第三章 議則

第二十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條 府知事縣令若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ辨明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事縣令ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

第二十九條 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レモ人身上ニ付テ褻貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

トヲ得ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

分ヲ求ムルヲ得

第四章 開閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度十一月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之ヲ命ス會期ハ三十日以内トス但區郡部會ヲ開ク地方ニ於テハ七日以内延期スルコトヲ得(十五年八月號布告ヲ以テ全條ヲ改正シ十七年八月號布告ヲ以テ更正ニ(毎年一度ノ下(三月)ヲ(十一月)ト改メ十八年一月ヨリ施行セシム)

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルトキ府知事縣令ハ臨時會ヲ開クコトヲ得其會期ハ七日以内トス但該會ヲ要スル事由直ニ內務卿ニ報告スヘシ(同上)

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ府知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ內務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ議決シ終ラサルトキハ府知事縣令ハ更ニ其議定ヲ要セス內務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得(十四年第四號布告ヲ以テ全項ヲ追加シ十五年第六十八號布告ヲ以テ全項改正)

議員招集ニ應セサル者半數ヲ過キ議會ヲ開クコトアルトキハ府知事縣令ハ其事由ヲ內務卿ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ(十四年第四號布告ヲ以テ全項ヲ追加ス)

第一項ノ場合ニ於テ內務卿ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更ニ開會ヲ命スル迄ノ間

(會議門) (府縣會規則)

一一一

ハ府知事縣令ニ於テ地方税ノ經費豫算及徵收方法ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得十五年第六十八號布告

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ内務卿ハ何レノトキモ問ハス議員ノ解散ヲ命スルコトヲ得十四年第四號布告ヲ以テ

前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未ク議定セサル議案アルトキハ後任議員ヲシテ之ヲ議定セシムヘシ同上本項追加

第三十五條 内務卿ヨリ解散ヲ命シタルトキハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ更ニ議員ヲ改撰スヘシ

第五章 常置委員以下十三年第四十九號布告ヲ以テ追加

第三十六條 府縣會ハ其議員中五人以上七人以下ノ常置委員ヲ撰任スヘシ

常置委員定數ノ外數名ヲ増選シ缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ補充スルヲ得十五年第七號布告ヲ以テ

區部會郡部會ヲ開設シタル府縣ニ在テハ郡區各部ニ之ヲ選任スヘシ

第三十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備費ノ支出ニ付府知事縣令ヨリ諮問アルトキハ其意見ヲ述フ

常置委員ハ地方税ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經費ノ豫算及徵收方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得十五年第六十八號布告ヲ以テ全條改正

第三十八條 常置委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會議ニ於テ議決シタル事件ノ要領ヲ報告シ且通常會ト臨時會トヲ論ヒス府知事縣令ヨリ發スヘキ議案ヲ前以テ請取り會議ニ向テ其意見ヲ報告スヘシ

第三十九條 常置委員會議所ハ府縣廳内ニ置キ定日ニ會議スヘシ十五年第十號布告ヲ以テ

第四十條 常置委員諮問ノ會議ハ別ニ議案書ヲ用ユルヲ要セス

第四十一條 諮問會ハ府知事縣令ヲ以テ議長トナシ其他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ同上全條改正

第四十二條 常置委員ハ半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシムヘシ

第四十四條 府知事縣令ハ主務ノ僚屬ヲ委員會議ニ出シ其會議ニ係ル事件ニ付辨明ヲ爲サシムルヲ得

第四十五條 常置委員會ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 常置委員ノ任期ハ二年トシ議員改選毎ニ之ヲ改選ス但期限ニ至リ再選スルヲ得同上(トシ)ノ下

第四十七條 常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ府知事縣令之ヲ選任ス同上(議長)ヲ

(會議門)

(府縣會心附及府縣會ニテ議定スヘキ件)

第四十八條 常置委員ハ三拾圓以上八拾圓以下ノ月手當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ府縣會
ノ議決ヲ以テ定ム

第四十九條 常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支給ス

●府縣會心得

府縣會規則ノ義ニ付左ノ二件爲心得相違ス(明治十三年九月廿八日)

一 議員撰舉ノ際郡區相當人員ノ外辭撰者補欠ノ爲メ別ニ數名五名以下ヲ副撰セシメ置クモ妨
ケナシ

一 議長副議長共欠席スルキハ議員中ニ於テ臨時假議長ヲ公撰シ其日ノ會議ヲ開クモ妨ケ
ナシ

●府縣會其議定スヘキ事件ノ細目ニ係ル事項ヲ區町村會ニ付スルヲ得(明治十四年二月十四日第六號布告)
府縣會ハ其議定スヘキ事件中細目ニ係ル事項ヲ以テ區町村會若クハ水利土功會ノ議決ニ付
スルヲ得ヘキ事

●府縣會議員他府縣議員ト通信禁止及處分方(明治十五年十二月廿八日第七號布告)
府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣議員ト聯合集會シ又ハ往復通信スルヲ許サ
ス
其集會スル者何等ノ名義ヲ以テスルモ府知事縣令ニ於テ此禁令ヲ犯ス者ト認ムルトキハ直
ニ解散ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ解散ノ命ニ從ハサル者ハ集會條例第十三條ニ依テ處分ス
右奉 勅旨布告候事

●府縣會開會中府縣規則第七條ニ依リ議員上京方(明治十五年十二月二日第十一號府縣廳へ達)
府縣會規則第七條ニ依リ内務卿ニ建議スルノ場合ニ於テ開會中議員自ラ其建議者ヲ携帶上
京ノ儀ハ不相成筋ニ候條此旨相違候事
但本文ノ趣府縣會へ相達シ置クヘシ

○區郡部會規則(明治十四年二月二日第八號布告)

東京府京都府大阪府神奈川縣區郡部會規則左ノ通相定明治十三年五月第廿六號及第二十七號
布告廢止候條此旨布告候事

但三府神奈川縣ノ外區制ヲ設ケタル諸縣ニ於テハ政府ノ裁可ヲ經テ此規則ヲ施行スル
コトヲ得十四年三月第二十號布告
コトヲ得ヲ以テ但書ヲ加フ

第一條 三府及神奈川縣ニ於テハ府縣會ヲ別テ區部會郡部會トナシ區部郡部ニ分別シテ
事件ヲ議定セシム

第二條 區部會郡部會ニ於テ議定スヘキ事件ト府縣會ニ於テ議定スヘキ事件トハ府縣會ニ
於テ之ヲ議定ス

第三條 府縣會規則第十條ノ定限外ニ於テ區部議員ノ增加ヲ要スルトキハ府知事縣令ヨリ

(會議門) (郡區部會規則)

内務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ其定限ヲ殊ニスルコトヲ得

第四條 府縣會ハ區部郡部議員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第五條 府縣會ノ議定ニ屬スル事件ニ付テハ區部郡部常置委員會同シテ諮問ヲ受ケ又ハ議決スヘシ

但區部郡部常置委員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ズ

第六條 十五年第十二號
布告ヲ以テ删除

第七條 上同

第八條 明治十三年度以前ニ係ル地方税ノ中區郡運帶支辨セルモノハ其決算ヲ府縣會ニ報告シ區郡ニ分別セルモノハ其決算ヲ各別ニ區部會郡部會ニ報告スヘシ

第九條 區部ニ係ル戸數割ハ區部會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏尚卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ家屋税ト爲スコトヲ得 同上
追加

○區町村會法 (明治十七年五月七日
第十四號 布告)

明治十三年四月第十八號布告區町村會法左ノ通改正ス

區町村會法

第一條 區町村會ハ區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事件及其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス

第二條 區町村會ノ會期議員ノ員數任期改選及其他ノ規則ハ府知事縣令之ヲ定ム

第三條 區會ハ區長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス町村會ハ戶長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス

第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當

ナリトスルキハ其施行ヲ止メ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第五條 區長ニ於テ區會郡區長戶長ニ於テ町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ其會議ヲ中止シ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第六條 府知事縣令ニ於テ區町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ何時タリトモ區町村會ヲ停止シ又ハ之ヲ解散シテ改選セシムルコトヲ得

第七條 前條ノ場合ニ於テ停止又ハ解散ヲ命シタルトキハ更ニ開會ヲ命シ又ハ改選スル迄ノ間區長戶長ハ經費ノ支出徵收方法ヲ定メ府知事縣令ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得

第八條 區町村ニ於テ議員ヲ撰舉セス又ハ議員招集ニ應セズレテ會議ヲ開クヲ得ス及議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ評決シ終ラサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第九條 議員ヲ撰舉スル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款ニ觸ル者

村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款ニ觸ル者

及陸海軍々人現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歳以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル者ハ議員タルコトヲ得ス

(會議門) (區町村會法及其議定スヘキ件)

第十一條 區會ノ議長ハ區長町村會ノ議長ハ戸長ヲ以テ之ニ充ツ區長戸長若シ事故アルトキハ區長戸長ニ於テ議員中ヨリ議長ヲ指定スルコトヲ得

第十二條 府知事縣令共管轄内ニ於テ町村會ヲ開設シ得ベカラサル狀況アルヲ認ムルトキハ内務卿ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第十三條 府知事縣令ハ敷區町村ニ關涉スル事件アルトキ其區域ヲ定メテ聯合區町村會ヲ開設スルコトヲ得

第十四條 府知事縣令ハ水利土功ニ關スル事項ニシテ區町村會若シハ聯合區町村會ニ於テ評決スルヲ得サルモノアルトキ特ニ其區域ヲ定メテ水利土功會ヲ開設ズルコトヲ得

第十五條 聯合區町村會及水利土功會ハ總テ本法ニ準據ス其區域區長戸長數人ノ所轄ニシテルモノハ府知事縣令便宜郡區長ヲシテ之ヲ管理セシム但戸長ヲシテ其評決ヲ施行セシムルコトアルベシ

○區町村會ニ於テ評決ノ諸費怠納者處分方(明治十七年五月七日)

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費及水利土功會ニ於テ評決シタル土木費ノ怠納者ハ總テ明治十年十一月第七十九號布告ニ據リ處分スヘシ若シ財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ官沒ノ手續ヲ爲サス郡區長或ハ戸長ニ於テ之ヲ管掌シ會議ノ評決ヲ取り府知事縣令ノ認可ヲ得テ處分スヘシ

○學事ニ付區町村ノ評決認可方(明治十五年十一月廿九日)

町村ノ學事ニシテ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘキモノハ區町村會ノ評決ヲ認可スルノ前豫メ府知事縣令ノ指揮ヲ受ケシムヘキ儀ト可心得此旨相達候事

●學事ニ關スル町村會ノ儀ニ付文部内務兩卿ハ和歌山縣伺(明治十六年)

教育令第九條ニ依リ町村ニ對シテ指示セシ小學校ニシテ學區内町村會ノ評決ヲ經同令第二十條ノ旨ニ遵ヒ學校設置ヲ伺出タル場合ニ方リ府知事縣令ニ於テ認可セサルトキハ主務者ハ更ニ府知事縣令ノ指揮ヲ請ハス再ヒ會議ニ附スルコトヲ得

○地方稅ニ關スル寄附及雜收入ノ件(明治二十年十一月四日)

第一條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ府縣會ノ議決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル費途又ハ使用ニ充ツヘシ

第二條 地方稅ノ雜收入ハ他ノ收入豫算ト同ク府縣會ノ議定ニ付スヘシ

第三條 本令ハ明治廿一年度ヨリ施行ス

○地方稅支辨ニ係ル寄附及收入ノ件(明治九年十一月四日)

一地方稅支辨ニ係ル道路ノ並木損木拂代金ハ明治二十一年度ヨリ該年度地方稅土木費雜入

(會議門) (學事ニ付區町村會ノ評決認可方及之ニ關スル件)

ニ組入レ並木植續費ハ該土木費ヨリ支出スヘシ

一 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル寄附金ノ支出豫算議案及精算報告書式ハ明治二十一年度ヨリ警察費國庫下渡金ノ例ニ準シ寄附者指定ノ費目ニ於テ地方稅ト寄附金ト内籌ヲ爲スヘシ

一 物件ノ寄附又ハ年賦寄附等ニシテ通常豫算ニ編入シ難キモノハ便宜別議案ヲ以テ議定ニ付スルコトヲ得

一 明治十五年^{十二}月^{十二}内務大藏兩省乙第七十二號達地方稅收入豫算議案並精算報告書式中戶數割ノ次合計以下明治二十一年度ヨリ左ノ通改正ス(橫式略ス)

○共有物ニ關スル區町村會評決ノ件(明治廿一年十一月五日)

區町村公共ノ經濟ニ屬スヘキ共有物ニ關スル事件ハ連テ區町村會ニ於テ評決セシムヘシ但本文ニ抵觸スル從前ノ指令訓令ハ取消ス

○區町村會ノ支辨ニ係ル寄附金穀物件ノ件(明治二十年十二月廿二日)

區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ區町村會ノ評決ヲ經テ寄附者指定シタル費途又ハ使用ニ充テシムヘシ

區町村費ノ雜收入ハ他ノ收入ト同ク區町村會ノ評決ニ付セシムヘシ

褒賞門

○褒章條例(明治十四年十二月七日)

第一條 凡ソ自己ノ危難ヲ願ニス人命ヲ救助セシ者又ハ德行卓絶ナル者^{女子孫亦ノ類}又ハ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者^{疏河築堤修路聖山ノ業或ハ}ヲ表彰スル爲メ左ノ三種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ願ニス人命ヲ救助セシ者ニ賜フモノトス

綠綬褒章

右德行卓絶ナル者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

右公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者ニ賜フモノトス

第二條 奇特ノ實行アリト雖モ褒章ヲ賜フヘキ場合ニ至ラサルモノハ褒狀ヲ與フコトアルヘシ

第三條 已ニ褒章ヲ賜ハリタルモノ再度以上同様ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキトキハ其都度飾版一箇ヲ賜與シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス

(褒賞門) (褒章條例)

第四條 褒章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ及ヒ徽號トナスヲ得然レトモ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ之ヲ沒收シ其未タ授與セザル前同上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ之ヲ授與セ

ス
(褒章ノ圖略之)

佩用式

一 褒章ハ左肋ノ邊ヘ佩フヘシ

但勳章及從軍記章ヲ有スル者ハ其章ノ左ヘ列シ帶フヘシ

○褒章條例取扱手續(明治十四年十二月七日第百三號)

(官省院使廳府縣ヘ達)

今般第六十三號ヲ以テ褒章條例布告候ニ付取扱手續左ノ通相定候條此旨相達候事

但明治八年^{七月}第百貳拾壹號達ハ右條例施行ノ日ヨリ廢止候事

第一條 凡ソ褒章ヲ賜フヘキ者アルトキハ其管轄長官ヨリ内務卿又ハ農商務卿ニ具申シ内

務卿又ハ農商務卿ハ其當否ヲ審査スヘシ

但官吏職務上ニ於テ人命ヲ救助シ又ハ公益ヲ興シタルハ褒賞ヲ賜フノ限ニアラス

第二條 内務卿又ハ農商務卿ニ於テ褒賞ヲ賜フヘキモノト思量スルトキハ之ヲ賞勳局總裁

ニ申牒スヘシ賞勳局總裁ハ其申牒ニ據リ勅奏任官并ニ從六位以上及ヒ勳六等以上ノ者及

ヒ華族ノ戶主ニハ褒章ヲ直授シ其他ノ者ハ内務卿又ハ農商務卿ヲ經由シ其管轄長官ヲシ

テ之ヲ傳達セシムヘシ

但外國人ニ危難救助ノ褒章ヲ賜フヘキトキハ外務卿ヨリ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ授與

ノトキモ亦同卿ヲ經由シテ之ヲ傳達セシムヘシ其公私備ニ係ル者ハ本條ニ同シ

第三條 褒狀ハ管轄長官ヨリ與フルモノトス然レハ勅奏任官并ニ從六位以上及ヒ勳六等以

上ノ者及ヒ華族ノ戶主ハ内務卿又ハ農商務卿ニ具申スヘシ内務卿又ハ農商務卿ハ之ヲ太

政官ニ上申シ太政官ニ於テ之ヲ賜フヘシ

○褒章ト金銀木杯若クハ金圓賜與(明治十六年一月四日第壹號布告)

明治十四年^{十二月}第六十三號布告褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者又ハ公益ノ爲メニ金銀財

産等ヲ寄附シタル者ハ金銀木杯若クハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト金銀木杯金圓ヲ併セ賜フコト

アルヘシ

○金銀木杯金圓賜與手續(明治十六年三月二十六日第拾七號官省院使府縣ヘ達)

本年第一號布告ノ旨ニ依リ金銀木盃又ハ金圓賜與手續別紙ノ通相定候條此旨相達候事

第一條 褒賞ヲ賜フヘキ者ニ金銀木盃又ハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜フトキハ其等

差左ノ如シ

(褒賞門) (金銀木杯下賜ノ件)

定例

- 第一等 木盃三組品格ヲ三又ハ金拾圓ヨリ多カラス六圓ヨリ少カラス
 - 第二等 木盃三組品格ヲ三又ハ金五圓ヨリ多カラス貳圓五拾錢ヨリ少カラス
 - 第三等 木盃壹個品格ヲ三又ハ金貳圓ヨリ多カラス壹圓ヨリ少カラス
- 但賜盃金ニ及ハサルモノハ褒狀ヲ與フルコトアルヘシ

特別

- 第一等 金杯壹個又ハ三組又ハ金圓
- 第二等 銀杯壹個又ハ三組又ハ金圓

第二條 公益ノ爲メニ金銀財產等ヲ寄附シタル者ニ金銀木杯ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜
フトキハ其等差左ノ如シ

寄附金額又ハ價格

拾圓未滿

褒狀

但拾圓未滿ハ褒詞ヲ以テ褒狀ニ換フルコトアルヘシ(十七年第二廿二號公達ヲ以テ但書追加)

拾圓以上百圓未滿

木杯壹個

但五拾圓未滿ハ拾圓毎ニ五拾圓以上ハ貳拾五圓毎ニ品格ニ等差アリ

百圓以上五百圓未滿

木杯三組

但三百圓未滿ハ五十圓毎ニ二百圓以上ハ百圓毎ニ品格ノ等差アリ

第五條 金銀木杯又ハ金圓又ハ褒狀ヲ受クベキ者ニシテ其未タ授與セサル前重罪ノ刑ニ處
セラレタル者ハ之ヲ授與セス

○黃褒章臨時制定(明治二十年五月二十三日勅令第十六號)

第一條 私財ヲ獻納シ防海ノ事業ヲ贊成スル者ニ授與スル爲黃綬褒章ヲ制定シ分テ金銀章
ノ二種トス

第二條 黃綬褒章ヲ佩用シ又ハ沒收スルノ事項ハ明治十四年十二月第六十三號褒章條例ニ
據ル

第三條 黃綬褒章ノ圖式左ノ如シ(圖式略ス)

○犯罪者褒章沒收方(明治十五年四月十七日)

從前褒章ノ儀ハ褒章條例第四條ニ依リ行政官ニ於テ沒收致來候處右ハ本年三月當省丙第九
號達ニ照準シ處分スヘシ

參考(丙第九號達)

帶勳者罪ヲ犯シ公憤ヲ刺奪又ハ停止スルノ旨渡アリタル者ハ其罪狀并ニ刑名宣告文ノ
寫ヲ以テ當省ヘ可届出申

但勳章公欄ノ者ハ勳記勳章並ニ年金標共收奪ノ上當省ヘ届出ヘク候事

●難破船救援ノ者褒賞取扱方之儀ニ付東京府ヨリ農商務省ヘ伺(十六年十一月十七日)

(海軍門) 黃褒章臨時制定及犯罪者褒章沒收方(同指令)

危難救援ノ者要實取扱方之儀ニ付客年六月中三重縣伺ニ割シ其遭難地ノ管轄ニ於テ可取扱旨御指令ノ趣モ有之候處今爰ニ甲地ノ人民洋中若クハ所轄未定ノ孤島(當府所轄小笠原島近傍ナル島嶼ノ類)近海ニ於テ遭難ニ際シ乙地船舶ノ航運ニ際シ直ニ之カ救援ヲ受ケ可地ニ至リ其遭難ノ處分ヲ要メタリ因テ其救援者ニ對シ相當ノ賞典ヲ施行セントスルモ其遭難地タルヤ之ヲ所管スルノ官廳ナシ所ル場合ニ在テハ甲地ノ救人在籍地ニ救助船ヲ籍アル地(因難破船ノ處分ヲナシタル地)丁救助人在籍ノ地孰レノ地ノ管轄廳ニ於テ施行スヘキカ差掛候事件有之未タ適例モ無之ニ付相伺候條何分ノ御指揮有之度候也

指令 (明治十六年十一月廿二日)

伺之趣難破船處分ノ要メニ應シタル地方廳ニ於テ可取扱事
但主管ノ件ニ付當省及指令候事

●賞譽等ノ儀ニ付兵庫縣ヨリ農商務省ヘ伺 (明治十六年甲子)

右甲號五人ノ者本年四月十三日明石沖合字鹿ノ瀬(源繁櫻キニ出テ烈風ノ起ルニ遭
遇シ船艀及ヒ各自船底ニ取付キ漂流セシヲ乙號ノ者之ヲ視認メ危難ヲ顧ミテ該
船ニ溯キ付ケ右五人ヲ我カ船中ニ引揚ケ歸路ニ向フ處何分風濤猛烈ニ進退自山ナ
ラス其末該船モ亦轉覆ニ及ヒ候ヨリ各船體ニ取付居候モ激浪ノ爲掀翻セラレ内
五名ハ終ニ流亡致シ殘ル三人必死ノ處丙號ニ名ノ者亦危難ヲ顧ミズ淵中付來リ右
三名ヲ自分船ニ救揚ケシモ既ニ船艀等破壞ニ及ヒ進退困難處幸ニシテ藤江村近傍
ヘ漂着シ多人散來リ救フニ途ハ初テ萬死ヲ免レ候始末即チ別紙(略)山下松太郎外三
名及ヒ堀江千太郎外一名具狀ノ通ニ有之依テ審按候處右七者ト甲者ヲ救揚シ其未自
分モ非常ノ難ヲ受ケシ者ナレハ要實例第一條ニ照スヘキハ勿論ニ有之而シテ丙者モ
自己ノ危難ナルニ拘ハラスシ者甲者ヲ救揚セシハ七者ノ次キナル者ニシテ丙者モ
ハ有之候得共到底條例第一條ニ外ナラサル者ト相考候ニ付要實方可然御陸議相成度

將又右ニ付爰ニ懸然ナルハ乙號中山下木三兵衛外一名ノ流亡者ナリ彼レ若シ甲者ヲ
救揚セス全カヲ盡シ歸路ニ向ハシメハ其性命ヲ全フスルヤモ計ル可カラス然ルニ多
人數ヲ救揚シ我カ狭小ナル船ニ打乗セ候ヨリ一層ノ困難ニ陥リ終ニ水死ノ危ヲ招キ
シ者ノ如ク相見ヘ全ク他ヲ救揚シタルカ爲メ一命ヲ鄭チレ者ト見做サハルヲ得キ
シテ然ラハ今存命者ハ多少ノ賞譽ヲ得テ不幸ナル死者ニ何等追賞無之事實頗ル堪
フ得サル者ニ付是亦相當ノ追賞有之様致度尤モ右ノ如キハ適當ナル成規無之候得共
客年十二月第六十七號公達ニ照シ一般人民ニシテ巡查同僚ノ勸ヲナシタル者ト見
シ重傷死ニ至ル者ニ準シ用祭扶助料ヲ下賜相成可然乎右等ノ勸ヲナシタル者ト見
トモ相考候ニ付テハ何分ノ御陸議有之度右具狀旁御裁令ヲ仰候也

指令 (十六年十一月三十日)

具申之趣人命救助ノ爲メ溺死者處分ノ儀伺之通

●人命救助者要實取扱之儀ニ付山口縣ヨリ農商務省ヘ伺 (明治十六年十一月一日)

爰ニ甲縣甲某アリ乙縣所管ノ海上渡航中暴風ノ爲メ難船ニ罹リタルヲ(因縣乙某之ヲ
救揚シ)乙縣ヘハ救助被救助者ヨリ何等ノ届出モナサス直ニ乙縣ヘ甲某ヲ陸揚センメ
タリ依テ被救者甲某ヨリ遭難救助セラレタル願末ッ届出タルニ然ルニ元來人命救助者
ノ要實ハ遭難所々轄ノ縣廳ニ於テ取扱ヘキ者ト雖前陳ノ由合ニ在テハ遭難所トシ縣
ニ屬スルモ他ニ何等ノ關係無之却テ遭難救助ノ願末取開方差支候條右要實ハ丁縣ニ
於テ取扱候儀ト相心得可然哉此段相伺候也

指令 (明治十七年一月廿四日)

勳章ヲ定ム (明治八年四月十日)

勳等賞牌

(要實門) (伺指令) (勳章ヲ定ム)

勳等ハ勳績及功勞アル者ヲ賞スル爲メ設クル所ノ階級ニシテ位階ト異ナル故ニ各種ノ勳章ヲ佩用セシム

勳等ヲ分ツテ八級ト爲ス

勳一等

右ニ叙スル者一等勳章ヲ賜フ

勳二等

右ニ叙スル者ハ二等勳章ヲ賜フ

勳三等

右ニ叙スル者ハ三等勳章ヲ賜フ

勳四等

右ニ叙スル者ハ四等勳章ヲ賜フ

勳五等

右ニ叙スル者ハ五等勳章ヲ賜フ

勳六等

右ニ叙スル者ハ六等勳章ヲ賜フ

勳七等

右ニ叙スル者ハ七等勳章ヲ賜フ

勳八等

右ニ叙スル者ハ八等勳章ヲ賜フ

從軍記章

從軍記章ハ將卒ノ別ナク軍功ノ有無ヲ論セス凱旋ノ後從軍セシ徵ニ之ヲ賜フ

一勳章及從軍記章ハ佩用本人ニ止リ子孫之ヲ用ユルヲ得ス

勳章 從軍記章 佩用式

一勳章ハ勳一等ニ限り必ス勳二等ノ牌ト共ニ兩箇ノ牌ヲ佩フヘシ其他二等以下ハ一箇ヲ佩フルヲ規則トス譬ヘハ三等ノ牌ヲ佩フル者勳二等ニ叙スルトキハ當テ佩フル所ノ三等牌ヲ止メ二等牌ノミ佩フルカ如シ

一勳章ハ禮服ノトキ佩フヘシ平服ニハ佩フヘカラス平服ニハ略綬ヲ左襟見返ノ鈕穴ニ掛ク其表トス

一 一等勳章ハ幅廣キ綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ斜ニ佩フ

一 二等勳章ハ右肋ノ邊ヘ綬ヲ不用針ニテ挾ミ佩フ

一 三等勳章ハ綬ヲ領ニ纏ヒ喉下ニ佩フ

一 四等勳章以下ノ勳章及從軍記章ハ左肋ノ邊ヘ左ニ列シ佩フ

勳一等	勳二等	勳三等	勳四等
<p>牌 金口章 日赤佛蘇鉄 徑二寸五分光線白佛蘇鉄</p>	<p>牌 銀口章 日赤佛蘇鉄 徑三寸光線二重白佛蘇鉄</p>	<p>牌 金口章 日赤佛蘇鉄 徑一寸八分光線白佛蘇鉄</p>	<p>牌 金口章 日赤佛蘇鉄 徑一寸五分光線白佛蘇鉄</p>

(勳章門) (勳章佩用式)

鈕	金五七桐 <small>花紫佛森咲 葉綠佛森咲</small>	無	鈕	金五七桐 <small>花紫佛森咲 葉綠佛森咲</small>	無	鈕	金五七桐 <small>花紫佛森咲 葉綠佛森咲</small>
環	金圓形	無環佩針銀	金橢圓形	金圓形	無	環	金圓形
綬	幅四寸 紅白織	無 綬	幅一寸 紅白織	幅一寸 紅白織	幅一寸 紅白織	綬	幅四寸 紅白織
牌	勳五等 <small>金銀白章 日赤佛森咲 徑一寸五分光線白佛森咲</small>	勳六等 <small>銀白章 日赤佛森咲 徑一寸五分光線白佛森咲</small>	勳七等 <small>金五三桐章 花紫佛森咲 葉綠佛森咲</small>	勳八等 <small>銀五三桐章 花紫佛森咲 葉綠佛森咲</small>	勳九等 <small>金五三桐章 花紫佛森咲 葉綠佛森咲</small>	牌	勳五等 <small>金銀白章 日赤佛森咲 徑一寸五分光線白佛森咲</small>
鈕	金五三桐 <small>花紫佛森咲 葉綠佛森咲</small>	無 鈕	無 鈕	無 鈕	無 鈕	鈕	金五三桐 <small>花紫佛森咲 葉綠佛森咲</small>
環	金圓形	銀圓形	銀圓形	無 鈕	無 鈕	環	金圓形
綬	幅一寸 紅白織	幅一寸 紅白織	幅一寸 紅白織	幅一寸 紅白織	幅一寸 紅白織	綬	幅一寸 紅白織
牌	從軍牌					牌	從軍牌
綬	銀					綬	銀
鈕	幅一寸 綠白織					鈕	幅一寸 綠白織

一三〇

○叙勳條例(明治十六年一月四日第廿五號)

第一條 叙勳條例ハ文武官ノ勳勞アル者ヲ叙シ及ヒ進級セシムルノ例ナリ

但臨時勳功ニ依テ叙スルハ本例ノ限ニアラス

第二條 文武官數年勳勞アルモノハ其成績ヲ勘査シ左表ニ照シテ勳等ニ叙ス其初叙勳任官ハ勳三等委任官ハ勳六等判任官ハ勳八等ヨリス尙ホ勳勞年數ヲ累サスルニ由リ進級スルコトヲ得然レトモ判任官ハ十四等官并其相當官以下ハ勳七等ニ進ムヲ得ス又十等官並其相當官以下ハ勳六等ニ進ムヲ得ス委任官ハ六七等官并其相當官ハ勳三等ニ進ムヲ得ス又八九等官并其相當官ハ勳四等ニ進ムヲ得ス勳任官ハ三等官并其相當官ハ勳一等ニ進ムヲ得ス(明治十八年七月第四十三號)

大臣(參議諸省卿參事院)元老院議長陸海軍大將ノ勳一等ニ叙スルハ進級年例ノ限リニアラス

陸海軍下士ノ初叙ハ滿十年以上トス

初叙并ニ進級例 (十八年第四十三號達ヲ以テ勳任初叙滿五年ヲ八年ト改メ判任以下ヲ判任ト改ム)							
勳一等	勳二等	勳三等	勳四等	勳五等	勳六等	勳七等	勳八等

(褒賞門) (叙勳條例)

勅任	進 滿十年以上	進 滿五年以上	初叙 滿八年以上						
奏任			進 滿七年以上	進 滿五年以上	進 滿五年以上	初叙 滿十二年以上			
判任						進 滿七年以上	進 滿六年以上	初叙 滿二十二年以上	

一三二

第三條 臨時勳功若クハ特旨ニ依テ叙セラレタル者モ本例ニ依リ進級セシム

年金ヲ受領スルモノハ別段ノ恩命アルニ非サレハ引續キ前級ノ年金ヲ賜フ

第四條 四等以下ノ勳章ヲ有スルモノ勳任官トナリ七等以下ノ勳章ヲ有スルモノ奏任官トナリ

第五條 文武官ノ勳等ニ叙スヘキ勳勞者アル時ハ各廳ニ於テ本人ノ履歷明細書ヲ作り其長官ノ認認狀ヲ副ヘ毎年二月又ハ八月限リ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

第六條 賞勳局總裁ハ各廳ノ申牒ヲ檢閲審査シ議定官ノ會議ヲ開キ其當否ヲ論定シ以テ上奏ス

第七條 勳章授與式ハ毎年五月十一月ノ二回ニ執行ス

但臨時叙勳ハ此限ニアラス

但臨時叙勳ハ此限ニアラス

○叙勳條例附錄

叙勳條例ハ叙勳進級ノ綱領ナリ故ニ其節目ヲ左ニ掲ク

第一款 叙勳條例第二條中進級例圖ニ列記スル官等區分年數期限ハ積年ノ勳勞者ヲ待ツノ所以ナリ故ニ縱令表中ノ年數期限ニ至ルモ其成績勳勞ノ認認ヲ與フルニ不充分ナル者ハ之ヲ申牒スルヲ得ス

第二款 履歷明細書ハ檢閲ニ便スル爲メ表ヲ製シ任免黜陟叙位賞罰ノ要領ヲ掲ケ尙ホ内地出張外國派遣又ハ職務ノ分課委員等ヲ別紙ニ詳記シ以テ其履歷ヲ明ニスヘシ

第三款 勳章授與式ハ毎年五月及ヒ十一月ニ執行スルヲ以テ二月又ハ八月ヲ限リ叙勳申牒スト雖モ其履歷明細書ニハ豫メ四月盡日又ハ十月盡日マテノ算數ヲ記載スヘシ若シ申牒ノ後授與以前ニ於テ轉免黜陟或ハ死亡ノ者アル時ハ速ニ其理由ヲ賞勳局ニ通知スヘシ

但勳位進級ニ係ル者ハ初叙以後ノ履歷ノモテ式ニ依リ記載スヘシ

第四款 勳務年數ハ勳任官ハ勳任タルノ日ヨリ奏任官ハ奏任タル日ヨリ判任官以下ハ判任官以下タルノ日ヨリ起算ス然レトモ等外ヨリ判任トナリ又ハ判任ヨリ奏任トナリ又ハ奏任ヨリ勳任トナリタル者ハ各其前任ノ年數ヲ其後任ノ年數トシテ通算スルヲ得ヘシ

但出仕ハ本官ニ同シ又准勳奏判御用掛ハ各本任ヨリ三分一折減シテ勳務年數ニ計

(賞賞門) (叙勳條例附錄)

一三三

算スルヲ得雇ノ名義タル時間ハ算入セズ

第五款 年月ノ計算ハ一年ハ滿十二月ヲ以テシ(舊曆ノ閏月ハ除ク)一月ハ十五日ヲ以テ區別ス例ヘハ任官十五日以前ニ在レハ滿一月ニ算シ十六日後ニ在レハ半月ニ算ス免職ノ時ハ之ニ反ス

第六款 免職又ハ廢官ノ後ヲ再任スルモノハ前後奉職年數ヲ通算スルヲ得但勤位進級ニハ之ヲ通算セズ

其刑法ニ觸レ又ハ懲戒例ニ照シ免職シタルモノハ再任スト雖田澤ヲ前ノ奉職年數ヲ通算スルヲ得ス

第七款 文官本局長官ノ懲戒ヲ受ケ罰俸一ヶ月半以下ヲ科セラル、時ハ勤務年數半年ヲ減算シ罰俸二ヶ月以上ヲ科セラル、時ハ一ヶ年ヲ減算ス再度以上皆此例ニ準ス臈責ハ拘ハラズ

舊刑法ニ觸レ謹慎閉門降官又ハ贖罪罰俸ニ處セラレタル者ハ左ノ例ニ照シテ減算スヘシ

但武官ノ減算法ハ陸海軍省ニ於テ別段ノ規則ヲ以テ之ヲ定ム

刑名	期	減算年數
謹慎 又ハ 贖罪	二十日以下 以上 但十日以下 除算スルノ限ニアラス	半年
		年

閉門 又ハ 贖罪	降官	罰俸	同
五十日 以上	一 年 半	一 年 半	六ヶ月 以上
一 年	一 年 半	一 年 半	二 年

評認狀書式 (用紙美濃野紙)

某官某名義出身(或ハ叙勳何等)以來數官ヲ歴任(或ハ本衙ニ精勤)何年以上ニ至リ勤勞勤ナカラス就中某局長何課ヲ擔任若シハ兼務スルコト久シク(或ハ臨時某事件ヲ擔任シ處分宜ヲ得)其成績顯著タルヲ確認シ因テ例ニ據リ式ニ照シ履歷明細書ヲ具シ及中牒候也

年 號 月 日

某官 某名 印 (本局長官)

賞勳局總裁某名殿

履歷明細書式 其一

(用紙美濃野紙)

官位 苗字 名
現住所何府(縣)何國何區(郡)何町(村)何番地
何府(縣)士族(平民)(舊何藩)(舊名)
年號千支月日何國何郡何町(村)ニ於テ生

(表背向) (叙勳條例附錄)

年號	月	日	任免賞罰	資格	實期	通算
明治元年	閏四月	廿五日	神戶府以テ會計官 民政司判事	判任	十ヶ月半	奏任ノ半數 五ヶ月
全二年	二月	晦日				
	三月	朔日	徵士行政官吏官	奏任		
	五月	五日	民部官聽訟司知事	同		
	七月	十一日	大藏權少丞	同	一ヶ年三ヶ月	一ヶ年三ヶ月
	十二月	二十日	何々ニ付當賜何百兩			
同三年	五月	晦日	免本官			
同四年	六月	三日	何濬權大參事	同	一ヶ年六ヶ月	〔除算〕
	七月	十四日	〔廢縣縣是迄ノ通事務取 扱〕			
	十一月	廿二日	〔廢何縣置何縣〕			
同五年	十二月	十六日	何縣典事	判任	一ヶ年四ヶ月半 〔內半ヶ年〕	〔除算〕 幾十ヶ月奏任ノ半數 五ヶ月
	六月	廿五日	謹慎二十日			

同六年	五月	十一日				
同七年	五月	十二日	大藏權少丞	奏任	一ヶ年九ヶ月	一ヶ年九ヶ月
同八年	一月	十三日	內務少丞	同		
	一月	十六日	依願免本官			
	四月	十四日	權大內史	同		
	九月	廿二日	〔廢官〕		一ヶ年十ヶ月	一ヶ年十ヶ月
	十月	一日	二等法制官	同		
同十年	一月	十八日	廢官			
同十二年	二月	一日	太政官御用掛	准奏任	二ヶ年五ヶ月	三分一減 一ヶ年七ヶ月
	七月	七日				
	七月	八日	內務大書記官	奏任		
同十四年	十月	三十一日	參事院議官補	同	四ヶ年九ヶ月	四ヶ年九ヶ月
合計						十二年

(發賣門) (叙職條例附錄)

備考

一明治二年己巳七月以前ハ勅奏判任ノ區分名稱アルコトナシ然レモ履歴ヲ調査スルニ方リテハ元年二月新定ノ職制ニ於テハ八局ノ判事以上ヲ勅任權判事ヲ奏任筆生ヲ判任トシ全年閏四月制定ノ政體ニ於テ三等官以上ヲ勅任五等官以上ヲ奏任六等ヨリ九等官マテ判任ト視テ記載スヘシ且當時藩士等ヲ撰用スルニ五等官以上ニハ徵士ト命シ六等官以下ニハ御雇ノ字ヲ冒ラスヲ例トス叙勅條例附則第四款但書雇ノ名義タルモノト混同スル勿レ

一明治四年七月廢藩以前藩職ヲ奉シ並ニ同年十一月府縣改置以前縣務（廢藩ノ際大參事以上是迄ノ通事務取扱ヲ命セラレシモノ）ヲ奉シタル時間ハ除算スヘシ但維新ノ際新ニ置レタル奈良兵庫大津笠松神奈川新潟等ノ府縣ハ此限ニアラス

履歴明細書式

其二

（用紙美濃紙）

年號月日

官位 苗 字 名

一某局長被仰付候事 或ハ某課長被免候事 何官官符ノ名以下做之

年號月日

一叙某位 或ハ位記返上被仰付候事

年號月日

一某委員被仰付候事 或ハ某掛專務（兼務）被仰付候事被免候事

年號月日

一某國或ハ某地へ出張被仰付候事外國行ノ日ハ程及歸朝ノ月日ヲ記載スヘシ

年號月日

一賞典

但賞詞及ヒ賜金賜物ノ件數ヲ明載スヘシ

年號月日

一責罰

但罰文刑名ヲ明載スヘシ

○外國勳章佩用願規則（明治十八年十一月廿一日第三十五號布告）

第二條 外國ノ勳章ヲ受領シ之ヲ佩用セントスル者ハ賞勳局總裁へ願出免許狀ヲ受クヘシ

第二條 佩用願書ニハ勳章勳記其他關係書類ヲ添へ勅奏任官ハ直ニ賞勳局總裁へ華族ハ宮内卿判任官以下ハ本局長官士族平民ハ管轄廳ヲ經テ賞勳局總裁へ差出スヘシ

（誓書同）

（叙勅條例附錄）（外國勳章佩用願規則）

第三條 外國ノ勳章ヲ佩用スル者死亡シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ遺族又ハ親戚ヨリ
華族ハ宮内卿士族平民ハ管轄廳ヲ經テ賞勳局ヘ届出ヘシ

第四條 外國ノ記章從軍記章人命救助記章博覽會記章ノ類ヲ受領シ之ヲ佩用セントスル者ハ總テ此規則ニ準
據スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○勳章等級製式及ヒ大勳位菊花章頸飾ノ製式(二十年一月三日)

一寶冠章

勳一等ヨリ勳五等ニ至ル婦人ノ勳勞アル者ニ賜フ章寶冠ト竹櫻ノ形ヲ以テ飾ル

綬 地 黃色雙線紅色

一勳二等旭日桐花大綬章

旭日大綬章ノ上級トス勳勞アル者ニ賜フ

章 旭日ト桐花ノ形ヲ以テ飾ル

綬 地紅色雙線白色

一瑞寶章

勳一等ヨリ勳八等ニ至ル勳勞アル者ニ賜フ

章 鏡珠ノ形ヲ以テ飾ル

綬 地淡藍色雙線橙黃色

一大勳位菊花章頸飾

頸飾ハ大勳位ニ叙セシ者ニ特別之ヲ賜フ

菊花菊葉ノ形ト明治二字古篆文ヲ以テ飾ル

○勳章佩用者榮譽ヲ汚サレシ時處分方(十六年六月廿九日)

勳章ヲ有スル者其榮譽ヲ汚辱スル所爲アルハ勳章及ヒ年金ヲ褫奪ス外國勳章ハ其佩用免
許狀ヲ沒收ス

勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受テ拘留若シハ保釋費付セラレタルハ勳章ヲ佩用スルコ
ヲ得ス又之ニ屬スル禮遇特權及ヒ年金ヲ受ルコヲ得ス

○勳章年金褫奪及停止取扱手續(十六年九月十三日)

第一條 勳章ヲ有スル者左ノ項目ニ觸ルハハ榮譽汚辱シタルモノトス

第一項 重罪輕罪ノ刑ニ該ル者
但輕禁錮以下ノ刑ニ該ル者其所犯ノ情狀ニヨル

第二項 懲役例及免職條例ニ依リ免官シタル者

第三項 素行修マラス帶勳者タルノ面目ヲ汚ス者

(發賣門) (勳章年金褫奪及停止取扱手續)

第二條 勳章ヲ有スル者ニハ先ツ其勳章勳記年金票佩用免許狀ヲ褫奪シタル後處刑官渡チ爲スモノトス

第三條 第一條第一項ニ觸ル、者アルキハ裁判管轄長官ヨリ司法卿又ハ陸海軍卿ヲ經由シテ其罪狀及刑名ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第四條 第一條第二項第三項ニ觸ル、者アルトキハ所轄長官又ハ地方長官ヨリ其情狀ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第五條 賞勳局總裁ハ其具狀ヲ審査シ重禁錮以上ニ該ル者ハ直ニ上奏シ其輕禁錮以下ノ刑又ハ第一條第二項第三項ニ觸ル、者ハ議定官ノ會議ニ依テ其褫奪ノ當否ヲ論定シ褫奪スヘキモノハ奏請ス

第六條 褫奪ノ裁可アリタルキハ賞勳局總裁ハ褫奪狀ヲ作り褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヲ經由シテ本人ヘ傳達セシム褫奪ニ及ハサルキハ賞勳局總裁ヨリ褫奪シ申具ヲ爲シタル長官ニ通知スヘシ

第七條 勳位進級セシ者ナルキハ前級ノ勳章ノ勳記ヲモ褫奪スヘシ年金票モ亦同シ

第八條 褫奪シタル勳章勳記年金票佩用免許狀ハ褫奪ヲ行ヒタル官廳ヨリ賞勳局ヘ還納ス

第九條 勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留セラレタル時ハ其年月日及ヒ事由ヲ裁判管轄長官ヨリ司法省又ハ陸海軍卿ヲ經由シテ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ
但公訴權消滅スルカ若シハ放免ノ言渡ヲ爲シタル時ハ亦之ヲ申告スヘシ

○福井縣ヨリ勳章年金褫奪及停止取扱手續ニ付内務省ヘ伺 (十六年十一月十五日)

本年九月太政官第三十九號遠勳章年金褫奪及停止取扱手續第一條第二項ニ所謂懲戒令トハ汎ク指稱セシモノニシテ單ニ官吏懲戒ニ限ラス明治九年八月御省達第七十九號二號巡查懲罰令ノ如キモ無論該項ニ包含シタルモノニ有之候設聊疑礙ヲ生シ候ニ付爲念相伺候也

指令 伺之通 (明治十七年二月四日)

○陸軍省ヨリ勳章年金褫奪及停止取扱手續ノ儀ニ付太政官ヘ伺

今般達第三十九號ヲ以テ勳章年金褫奪及停止取扱手續御達相成候處其以前ニ於テ輕重禁錮ノ刑ヲ受ケ候者有之右ハ本年第廿二號御布告後ニ係ルト雖モ第三十九號御達以前ナルヲ以テ勿論該手續ニ準據スヘカラサル儀ト相心得可然設此段相伺候也

指令 (明治十六年十月廿四日)

伺ノ趣本年第二十二號布告發布後ハ第三十九號達ニ據リ處分スル儀ト可相心得事

○帶勳者民事上喚問手續 (十八年二月六日 司法省第四號達)

民事上帶勳有位者喚問取扱方ノ儀ニ付甲號ノ通太政官ヘ相伺候處乙號ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候事

甲號 民事上帶勳有位者喚問取扱ノ儀ニ付伺

民事上帶勳有位者喚問取扱ノ儀ニ付アハ未タ一定ノ法規無之候然ルニ有位者喚問ノ儀ハ既ニ奏請ヲ經テ喚問取扱來候先例モ有之帶勳者ニ至テハ未タ先例無之候得共彼此同一ノ取扱擬ニ可相成ハ勿論ノ儀ト存候而シテ右喚問ヲ要候時ハ本年三月廿一日付

(復賞司) (勳章年金褫奪及停止取扱手續) (伺指令)